

(卒業証書式)

札幌農學校ニ於テ本科ヲ修メ定期ヲ經テ考試ヲ完フシ正ニ其業ヲ卒ヘリ仍テ之ヲ證ス

札幌農學校教授位勳 姓名 印

教官ノ証明正當ナルヲ以テ札幌農學校印ヲ鈴シ之ヲ証ス

札幌農學校校長位勳 姓名 印

第四十八條 農藝傳習科課程ヲ卒ヘタル者ニハ在式ノ卒業証書ヲ授與ス

札幌農學校ニ於テ農藝傳習科ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘリ仍テ之ヲ証ス

札幌農學校印

年 月 日

札幌農學校校長位勳 姓名 印

第八章 校費生及特待生課程

第四十九條 學生中學業優等品行端正ナル者ヲ撰ヒ校費生又ハ特待生トナスコアルヘ

シ

第五十條 校費生ハ授業料ヲ免シ學費トシテ月額金七圓ヲ給與スルモノトス

第五十一條 校費生ハ本校寄宿舎ニ入舎スルモノトス

第五十二條 校費生半途退學ヲ願出又ハ停學已上ノ處分ヲ受ケタルモノハ給與ノ金額即時ニ返納セシム

但疾病ノ爲メ退學ヲ命セラレタルモノハ事情ニ由リ給與金ノ返納ヲ免除スルコトアルヘシ

第五十三條 校費生卒業后滿五年間其身分進退ニ關シテハ校長ノ許可ヲ受クベキ者トス

第五十四條 校費生ハ十二人ヲ以テ定員トナス

第五十五條 特待生ハ十五人ヲ以テ定員トナス

第五十六條 特待生ハ一學年間授業料ヲ免スルモノトス

第五十七條 校費生及特待生ハ每學年末ニ於テ教官會議ヲ經テ校長之ヲ定ム

第五十八條 校費生及特待生ニシテ其資格ヲ損スル廉アリト認ムルハ直ニ之ヲ免ス
第五十九條 校費生ハ左式ノ契約書ヲ差出スヘシ

契約書式 (用紙美濃紙)

契約書

私儀今般校費生被命候ニ付テハ在學中御校則堅ク相守リ可申且ツ卒業後ハ校則第五十三條ニ依リ進退可任万一御規則ニ背キ半途退學被命候歟又ハ不得止事故アリテ退學相願候節ハ在學中ノ御給與金即時返納可仕保証人連署依テ契約仕候也

年 月 日

本籍

何

某年何月生

本籍

何

某年何月生

本籍

何

某年何月生

乙保証人

何

某年何月生

第六十條 農學校校長 農學校校長ニシテ其資格ヲ損スル廉アリト認ムルハ直ニ之ヲ免ス

第六十條 實科規程

第六十條 本科學生ニシテ其資格ヲ損スル廉アリト認ムルハ直ニ之ヲ免ス

第六十一條 實科課程ノ學生各自ニ之ヲ撰擇シテ六月三十日ヲテニ願出テ校長ノ認可

第六十二條 實科課程ノ學生各自ニ之ヲ撰擇シテ六月三十日ヲテニ願出テ校長ノ認可

第六十三條 實科課程ノ學生各自ニ之ヲ撰擇シテ六月三十日ヲテニ願出テ校長ノ認可

第六十四條 實科課程ノ學生各自ニ之ヲ撰擇シテ六月三十日ヲテニ願出テ校長ノ認可

第六十五條 實科課程ノ學生各自ニ之ヲ撰擇シテ六月三十日ヲテニ願出テ校長ノ認可

第六十六條 實科課程ノ學生各自ニ之ヲ撰擇シテ六月三十日ヲテニ願出テ校長ノ認可

第六十七條 實科課程ノ學生各自ニ之ヲ撰擇シテ六月三十日ヲテニ願出テ校長ノ認可

第六十八條 實科課程ノ學生各自ニ之ヲ撰擇シテ六月三十日ヲテニ願出テ校長ノ認可

第六十九條 實科課程ノ學生各自ニ之ヲ撰擇シテ六月三十日ヲテニ願出テ校長ノ認可

第七十條 實科課程ノ學生各自ニ之ヲ撰擇シテ六月三十日ヲテニ願出テ校長ノ認可

一 農用動物學 一 植物生理學 一 昆蟲學及養蠶學演習

一 衛生醫學及無機原因ヨリ起ル植物病理學ノ實習並ニ實地

第六十三條 總實科外本種規定以外ノ時間該校之空閑課ス與學費

第六十四條 實科演習ハ一人一學科ニ限ル 但學費對テハ

第六十五條 學費實科科シテ志願者定員ヲ超過スルトキハ更ニ他實科ヲ出願セシムヘシ

第六十六條 第一志願科ノ研究進捗程度ハ

第六十七條 主研究ハ本科卒業生ニシテ既修ノ一學科ヲ更ニ攻究セント欲スル者ヲ以

第六十八條 本研究室ニ學費親自辨認スル者ハ

但授業料ノ免除ス 實科課員

第六十九條 研究室志願者ノ研究ノ學科ヲ撰定シ校長ノ認可ヲ受クヘシ

第七十條 研究進捗ノ研究期限ハ

第七十一條 研究進捗ノ研究期限ハ

第七十二條 研究進捗ノ研究期限ハ

第七十三條 研究進捗ノ研究期限ハ

第七十四條 研究進捗ノ研究期限ハ

第七十五條 研究進捗ノ研究期限ハ

第七十六條 研究進捗ノ研究期限ハ

札幌農學校長某殿

對照人

某

明

○第十一章 卒業論文規程

第七十三條 卒業論文ハ各自所修ノ學科ニ付キ研究ハ結果ヲ論述スルモノトス

第七十四條 論題ハ第三學年ノ終リ迄ニ撰定シテ校長ニ届出テ指導ヲ受クヘキ教官ノ

指定ヲ請フモノトス

第七十五條 卒業論文ノ採否ハ教官會議ニ於テ之ヲ決ス

第七十六條 卒業論文否決セラレタル者ハ卒業ヲ延期セシムベシ

第七十七條 論文ハ邦語ヲ以テ敘述スルモノトス

但事宜ニヨリテハ主管教官ノ承認ヲ得テ外國語ヲ用ルコトヲ得

第七十八條 論文ハ草稿紙四ノ三ノ用紙ニ主管教官ニ差出シテ其紙質ヲ檢テ之ヲ採否

第七十九條 論文ハ六月廿五日ヲ以テ採否ニ決シ必キ主管教官ヲ經テ校長ニ差出スヘシ

第八十條 論文ハ農藝傳習科規程條ハ主管教官ニ送リテ其採否ニ決ス

第八十一條 農藝傳習科規程條ハ主管教官ニ送リテ其採否ニ決ス

第八十二條 農藝傳習科中ニ給費生及特待生ヲ置クハ其ノ限ニ依リテ

第八十三條 給費生ハ品行端正學力優等ナルモノ又ハ北海道郡區長ノ特選ニ係ルモノ

ヲ以テ之ニ充ツ

第八十四條 給費生ハ北海道在籍者ニシテ耕地三町歩已上ヲ所有スル農業者若クハ其

子弟又ハ本道ノ移住者若クハ其子弟ニシテ未墾地五町歩已上ヲ所有スル農業者若クハ其

子弟ニシテ本道ノ移住者若クハ其子弟ニシテ未墾地五町歩已上ヲ所有スル農業者若クハ其

子弟ニシテ本道ノ移住者若クハ其子弟ニシテ未墾地五町歩已上ヲ所有スル農業者若クハ其

子弟ニシテ本道ノ移住者若クハ其子弟ニシテ未墾地五町歩已上ヲ所有スル農業者若クハ其

子弟ニシテ本道ノ移住者若クハ其子弟ニシテ未墾地五町歩已上ヲ所有スル農業者若クハ其

子弟ニシテ本道ノ移住者若クハ其子弟ニシテ未墾地五町歩已上ヲ所有スル農業者若クハ其

子弟ニシテ本道ノ移住者若クハ其子弟ニシテ未墾地五町歩已上ヲ所有スル農業者若クハ其

子弟ニシテ本道ノ移住者若クハ其子弟ニシテ未墾地五町歩已上ヲ所有スル農業者若クハ其

子弟ニシテ本道ノ移住者若クハ其子弟ニシテ未墾地五町歩已上ヲ所有スル農業者若クハ其

第九十一條 給費生及特待生ノ命解ニ第五十七條及第五十八條ニ據リテ處分ス

第九十二條 給費生ノ第五十九條ニ據リテ契約書ヲ差出シテシテ命解ニ付マシム

第九十三條 冬期講習生ノ簡易ノ農學ヲ修得セザルモノヲ募集シテ充ツ

第九十四條 各期講習ヲ十二月廿日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第九十五條 冬期講習ヲ出願スルモノハ左ノ資格ヲ有スルモノニ限リ許可ス

一 本道在籍ノ農業者若シテ其子弟又ハ本道遷移住者ニシテ開墾起業ノ目的確實ナル

二 十八歳以上廿四歳以下ニシテ農學ニ興味三圓以上ノ預金ヲ有シ農業者若シテ其

三 六十年齡十五歳以上ニシテ農學ノ學費ニシテ一月日金三圓ヲ餘興スルモノニシテ

四 品行方正ナルモノ

第九十六條 冬期講習ニ於テ修業ノ必要科目課目ヲ大約左ノ如シ

一 土壤論大意 二 肥料論大意 三 農具論大意 四 農具論大意 五 農具論大意 六 農具論大意

七 農具論大意 八 農具論大意 九 農具論大意 十 農具論大意 十一 農具論大意 十二 農具論大意

十三 農具論大意 十四 農具論大意 十五 農具論大意 十六 農具論大意 十七 農具論大意 十八 農具論大意

十九 農具論大意 二十 農具論大意 二十一 農具論大意 二十二 農具論大意 二十三 農具論大意 二十四 農具論大意

二十五 農具論大意 二十六 農具論大意 二十七 農具論大意 二十八 農具論大意 二十九 農具論大意 三十 農具論大意

三十一 農具論大意 三十二 農具論大意 三十三 農具論大意 三十四 農具論大意 三十五 農具論大意 三十六 農具論大意

三十七 農具論大意 三十八 農具論大意 三十九 農具論大意 四十 農具論大意 四十一 農具論大意 四十二 農具論大意

四十三 農具論大意 四十四 農具論大意 四十五 農具論大意 四十六 農具論大意 四十七 農具論大意 四十八 農具論大意

四十九 農具論大意 五十 農具論大意 五十一 農具論大意 五十二 農具論大意 五十三 農具論大意 五十四 農具論大意

五十五 農具論大意 五十六 農具論大意 五十七 農具論大意 五十八 農具論大意 五十九 農具論大意 六十 農具論大意

六十一 農具論大意 六十二 農具論大意 六十三 農具論大意 六十四 農具論大意 六十五 農具論大意 六十六 農具論大意

六十七 農具論大意 六十八 農具論大意 六十九 農具論大意 七十 農具論大意 七十一 農具論大意 七十二 農具論大意

七十三 農具論大意 七十四 農具論大意 七十五 農具論大意 七十六 農具論大意 七十七 農具論大意 七十八 農具論大意

七十九 農具論大意 八十 農具論大意 八十一 農具論大意 八十二 農具論大意 八十三 農具論大意 八十四 農具論大意

八十五 農具論大意 八十六 農具論大意 八十七 農具論大意 八十八 農具論大意 八十九 農具論大意 九十 農具論大意

九十一 農具論大意 九十二 農具論大意 九十三 農具論大意 九十四 農具論大意 九十五 農具論大意 九十六 農具論大意

九十七 農具論大意 九十八 農具論大意 九十九 農具論大意 一百 農具論大意

一百零一 農具論大意 一百零二 農具論大意 一百零三 農具論大意 一百零四 農具論大意 一百零五 農具論大意 一百零六 農具論大意

一百零七 農具論大意 一百零八 農具論大意 一百零九 農具論大意 一百一十 農具論大意 一百一十一 農具論大意 一百一十二 農具論大意

一百一十三 農具論大意 一百一十四 農具論大意 一百一十五 農具論大意 一百一十六 農具論大意 一百一十七 農具論大意 一百一十八 農具論大意

一百一十九 農具論大意 一百二十 農具論大意 一百二十一 農具論大意 一百二十二 農具論大意 一百二十三 農具論大意 一百二十四 農具論大意

一百二十五 農具論大意 一百二十六 農具論大意 一百二十七 農具論大意 一百二十八 農具論大意 一百二十九 農具論大意 一百三十 農具論大意

一百三十一 農具論大意 一百三十二 農具論大意 一百三十三 農具論大意 一百三十四 農具論大意 一百三十五 農具論大意 一百三十六 農具論大意

一百三十七 農具論大意 一百三十八 農具論大意 一百三十九 農具論大意 一百四十 農具論大意 一百四十一 農具論大意 一百四十二 農具論大意

一百四十三 農具論大意 一百四十四 農具論大意 一百四十五 農具論大意 一百四十六 農具論大意 一百四十七 農具論大意 一百四十八 農具論大意

一百四十九 農具論大意 一百五十 農具論大意 一百五十一 農具論大意 一百五十二 農具論大意 一百五十三 農具論大意 一百五十四 農具論大意

一百五十五 農具論大意 一百五十六 農具論大意 一百五十七 農具論大意 一百五十八 農具論大意 一百五十九 農具論大意 一百六十 農具論大意

一百六十一 農具論大意 一百六十二 農具論大意 一百六十三 農具論大意 一百六十四 農具論大意 一百六十五 農具論大意 一百六十六 農具論大意

苹果、梨、桃、櫻桃、栗、葡萄、小果樹類

農場管理大意 一週二時

作物環作法、農業ノ區別、農業資本簿記法

牧畜大意

牛、馬、豚、鶏ノ種類蕃殖及飼養法

作物病害、普通害蟲驅除法、病害、豫防法

第十四章 授業料及被服規程

第九十七條 授業料ハ一學年ニ付本科金十五圓農藝傳習科ハ金六圓冬期講習生ハ一

ケ月金五十錢本学

第九十八條 授業料ハ本科ハ之ヲ三分農藝傳習科ハ之ヲ二分ノ每學期ノ始メニ納ム

ヘシ冬期講習生ハ毎月始メニ之ヲ納ム

但冬期講習生ハ毎月始メニ之ヲ納ム

第九十九條 卒業進退學費ニ付學費及既納ノ授業料ハ返付セシ

第十條 學生ニ於テ本校制定ノ被服ヲ調製着用ス

但新入生其入學許可證日以後一週以内ニ被服ヲ調製スヘキモノトス

第十條 第五節 教官會議規程

第一百條 教官會議ハ教務上諮詢ノ爲メニ之ヲ開クモノトス

第一百一條 教官會議ハ教授及助教ヲ以テ職員ナリ校長其議長トシ

但校長ノ意見ニヨリ此他ノ職員ヲ列席セシムルコトアルヘシ

第一百三條 教官會議書記職員內ヨリ校長之ヲ命ズルモノトス

第一百四條 教官會議必要ノ時毎ニ校長之ヲ開クモノトス

第一百五條 書籍規程

第一百六條 本校書籍ヲ專ラ校員及學生ニ貸出スルモノトス

第一百七條 書籍貸與日ハ每學期ノ始メ告示ス

第一百八條 書籍貸與キテ期限ハ滿四週間ニ至リ期限滿ルルハ必ス返納スヘシ期限滿テ他

第百廿四條 該書籍借用ヲ願フ者ナキハ其證書ヲ更改スルハ得ズ
第百廿五條 但教授用或事務用ニ要スルハ其期限内ニ雖モ返納セシムヘシ
第百廿六條 貸借期限内ト雖モ檢査爲メ毎歲出回乃至三回悉ク返納セシム
但檢査後再借セント欲スル者更ニ手續キヲ行フヘシ

第百廿七條 貸與書籍租漢籍一冊以上付キ其部冊數多キ部數ハ十五冊ヲ限リ洋籍ハ
第百廿八條 該官冊其他三冊以限リ農藝傳習科生徒ハ主管教官ノ認可ヲ得テ借用スルモノト
ス所對見ノ意見ヲ以テ其部冊數及限額ヲ定ムルコト

第百廿九條 各學科實驗上必要ナル書籍ハ主管教官ノ申請ニ由リ其實驗室ニ備フルコト
第百三十條 得テ得ル書籍ハ其部冊數及限額ヲ定ムルコト

第百三十一條 但教授用或事務用ニ要スル書籍ハ此限ニアラス

第百三十二條 借受スル書籍ハ他人ニ轉貸スルコトヲ許スル事ハ得ズ

第百三十三條 借受スル書籍ハ破毀遺失又ハ汚染スル者ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百三十四條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百三十五條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百三十六條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百三十七條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百三十八條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百三十九條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百四十條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百四十一條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百四十二條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百四十三條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百四十四條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百四十五條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百四十六條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百四十七條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百四十八條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百四十九條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百五十條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百五十一條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百五十二條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百五十三條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百五十四條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百五十五條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百五十六條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百五十七條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百五十八條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百五十九條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百六十條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百六十一條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百六十二條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第百六十三條 借受スル書籍ハ其部冊數及限額ニ代償セザルコト

第二百二十二條 喫烟ハ一定ノ場所ニ於テシ其他ニ在リテハ喫烟スルヲ禁ス

第二百二十三條 告示ハ之ヲ掲グルニ時間以後ヨリ一般ニ知テシタモテ認ムルヲ以テ常ニ能ク之ヲ注意スヘシ

第二百三十四條 掲示等ヲ破傷シ又ハ塗抹スルヲ禁ス
第二百三十五條 病氣又ハ不得止事故ノ爲メ欠課セント欲スル者ハ課業時間前ニ其旨舎

監督届出願セシメ

但課業時間前ニ届出ルコト能ハサル場合ニ其欠課ヲナシタル課業其初メ出席ス

ハ必ス舎監ヘ届出スヘシ

第二百三十六條 寄宿學生ノ外總テ病氣等ハ爲メ欠課セシメキハ保証人證明書ヲ出席

簿ニ水取付ニ舎監ヨリ差出スヘシ

第二百三十七條 學生ハ病氣等ハ爲メ欠課セシメキハ舎監證明書ヲ出席簿

ニ欠課ヲナシタル當該級官ニ必ス之ヲ出シ認許書上再長舎監ヨリ差出スヘシ

第二百三十八條 病氣ノ爲メ欠課セシメ至ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ保証人連署其旨

届出

第二百三十九條 寄宿學生ハ保証人連署ヲ要ス

第二百四十條 第二百三十五條以下ノ手續キテ履行セサル者ハ總テ無許可欠席トス

第二百四十一條 無許可欠席數度ニ及ズル者ハ課業時間ニ數々遅刻スルモノハ相當ノ處分

ヲ受クヘシ

第二百四十二條 病氣或ハ事故ハ爲メ歸郷又ハ旅行セント欲スルモノハ其事由ヲ詳記シ

日數ヲ定メ(二十日ヲ超過スヘカラス)甲保証人連署願出校長ノ許可ヲ受クヘシ

但疾病ニ依リキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ且期滿ルモ尙ホ歸校スル能ハサルト

願出スヘシ

第二百四十三條 上校ノ際急病ヲ發シ若クハ急劇ノ事故アルトキハ主管教官ヘ願出テ指

揮ヲ受クヘシ

第二百四十四條 改名改印又ハ轉籍轉居ノ節ハ速ニ其旨届出ツヘシ

第二百四十五條 寄宿學生ノ外寄宿舎ニ出入スルヲ嚴禁ス

第一百三十條 農藝傳習科生徒心得
 第三十五條 生徒が平素信義ヲ重シ儉素ヲ旨トシ奢侈傲慢等ノ舉動アルヘカラス
 第三十六條 生徒ハ校則其他ノ命令規則等ヲ遵守スルハ勿論合監及掛員ノ指揮命令
 第百三十七條 生徒ハ校則其他ノ命令規則等ヲ遵守スルハ勿論合監及掛員ノ指揮命令
 第百三十八條 組長ハ每組ヲ生徒中且番ヲ以テ之ヲ定メルモ別トスルハ可キ
 第百三十九條 組長ハ合監其他掛員ノ指揮ヲ從ヒ命令傳達等ヲ各生徒ニ報シ又ハ給與
 第百四十條 外出スルトキハ制服制帽ヲ着用スヘシ若シ止ムヲ得サル事故アリテ其他
 第百四十一條 帽子ニ徽章ヲ本校ヨリ貸與シ退校ハ其ノ之ヲ返納スルベシ
 第百四十二條 常備備品物品等ヲ尊重ス旨トシテ取扱フハ勿論建物又ハ器具等ヲ
 破損シ戸壁等ニ樂書等ヲナスヘカラス

第百四十三條 年馬農具其他備付品ヲ猥リニ使用スヘカラス若シ不得止事故アリテ借
 用セシトスルトキハ合監ヘ願出テ貸與証ヲ受ケ後ヲ使用スヘシ
 第百四十四條 掲示等ヲ破損シ又ハ塗抹スルモノハ相當ノ處分ヲナスヘシ
 第百四十五條 病氣又ハ其他不得止事故ヲ爲シ欠席セシト欲スルモノハ課業時間前ニ
 第百四十六條 病氣ノ爲シ欠席五日以上ニ及ラズキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出ツヘシ
 第百四十七條 第百四十五條及第百四十六條ノ手續キテ履行セサル者ハ無斷欠席トス
 第百四十八條 無斷欠席ノモノハ相當ノ處分ヲナスヘシ
 第百四十九條 病氣或ハ事故ノ爲シ歸郷又ハ旅行セント欲スルモノハ其理由ヲ詳記シ
 第百五十條 改名改印又ハ轉籍ノ節ハ速ニ其旨届出ツヘシ
 第百五十一條 願書願書等以本人自ラ之ヲ持參シ合監ニ差出スヘシ
 但合監退出后ハ當直員ニ差出スヘシ

第十九章 附 則

第百五十二條 合則授業細則教官會議細則試業細則博物館植物園縱覽細則農場細則及圖書館閱覽室細則ハ別ニ之ヲ定ム

第百五十三條 本校則中學科課程ニシテ本科ニ關スルモノハ明治三十一年ヨリ農藝傳習科ニ關スルモノハ明治三十年ヨリ入學スル學生々徒ニ適用ス
但シ現在ノ學生々徒ハ舊款則ヲ適用ス

○第二章 土木工學科規程 (明治三十年五月追加)

第百五十四條 土木工學科ニ於テハ土木工學ニ關スル學理及ヒ技藝ヲ授ク
第百五十五條 土木工學科ノ修學年限ヲ三ケ年トス

第百五十六條 土木工學科ニ於テ修業スル學科ハ大約左ノ如シ

- 一 代數、幾何、三角術
- 一 英語
- 一 物理學
- 一 漢文
- 一 化學
- 一 建築材料
- 一 測量術及實習
- 一 應用重學
- 一 石工造家
- 一 水利工學

一 農業工學

一 器 械

一 工事設計實習

一 衛生工學

第百五十七條 土木工學科ニ入學スルヲ得ルモノハ高等小學校卒業四學年又ハ尋常中學校二學年ヲ修業シタル者若クハ之ト同等ノ學力ヲ有シ品行方正年齡十七歲已上

ニシテ募集ニ應シ入學試業ニ及第シタルモノトス

第百五十八條 土木工學科入學試業ハ高等小學校四學年及ヒ尋常中學校二學年ノ學科及ヒ其程度ニ依リ學力試業ヲ施シ兼テ体格検査ヲ行フモノトス

第百五十九條 土木工學科へ入學ヲ出願スルモノハ入學願書ト共ニ入學手数料金一圓ヲ前納スヘシ但校則第十六條第二項ヲ適用ス

第百六十條 土木工學ニ於テ定規ノ課程ヲ卒リタルモノニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス (卒業證書式)

札幌農學校ニ於テ土木工學科ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘリ仍テ之ヲ証ス

札幌農學校長勳 姓 名 印

年 月 日

學校印

第百六十一條 土木工學科ノ授業科ハ一學年ニ付キ金九圓トス

第百六十二條 土木工學科生徒ハ九十人ヲ以テ定員トス

第百六十三條 土木工學科生徒中學業優等品行端正ナル者ヲ撰ヒ特待生トナスコアルヘシ但十二人ヲ以テ定員トナス

第百六十四條 土木工學科生徒中學業優等品行端正ニシテ學資支辨ノ途ナキモノヲ貸費生徒トナスコアルヘシ

第百六十五條 貸費生徒ノ貸費額ハ一學年金八十四圓已内トス

第百六十六條 貸費資金ハ會社又ハ一人ノ委託ニ應シタル金額ヲ以テ之ニ充ツ

第百六十七條 貸費生徒ハ其貸費者ノ示命ニ從ヒ貸費ヲ受ケタル年數ト均キ期限内某事業ニ従事スヘシ

第百六十八條 貸費生徒ハ卒業ノ後其貸費ヲ受ケタル年數ト均キ期限内ニ於テ月賦ヲ以テ之ヲ返納スヘシ

但貸費生徒死亡シタルトキハ之ヲ返納スルニ及ハズ

第百六十九條 貸費生徒ニシテ貸費者ノ許可ヲ得テ其示命ノ事業ニ従事セサルトキハ

其許可ヲ受ケタル當日ヨリ三十日已内ニ貸費金額ニ對シ一ケ年六分ノ利子ヲ付シ一時ニ之ヲ返納スヘシ

但利子ハ貸費ヲ受ケタル翌月ヨリ返金當月マテノ月數ニ應シ算定スヘシ

第百七十條 會社又ハ一人ヨリ貸費資金ヲ依託セントスルトキハ左式ニ據リ開陳書二通ヲ差出シ札幌農學校長ノ許諾ヲ受クヘシ其一通ハ出金者之ヲ受領シ一通ハ札幌農學校ニ存置スヘシ

出金者開陳書々式 (用紙美濃紙正副二通)

土木工學科生徒何名分學資トシテ金何圓毎月札幌農學校へ差出候間相當ノ生徒御人選ノ上貸與相成度最モ右生徒卒業ノ上ハ某事業ニ従事爲致度儀ニ有之候間其旨兼テ誓約御申付相成度此段開陳候也

年 月 日

住 所 族 籍

姓

名

印

札幌農學校長某殿

第百七十一條 貸費生徒ハ左式ニ據リ誓約証書二通ヲ差出スヘシ其誓約証書ハ出金者及ヒ札幌農學校ニ於テ存置スヘシ

貸費生誓約書式 (用紙同上印紙貼用)

拙者儀今般貸費ヲ相受候上ハ御規則ニ從ヒ卒業ノ後一意其事業ニ從事シ貸與ノ資
金ハ右期限内ニ於テ某ハ月賦返納可致特ニ許可ヲ受ケ某ノ示命シタル事業ニ從事
不致候節ハ其資金ニ對シ一ケ年六分ノ利子ヲ附シ一時ニ返納可仕此段誓約候也
土木工學科何年生徒

年 月 日

本人 姓名 印
甲保証人 姓名 印
乙保証人 姓名 印

札幌農學校長某殿

第百七十二條 貸費金ハ總テ札幌農學校會計課ニ於テ取扱フヘシ

第百七十三條 貸費生徒品行不良學業懈怠若クハ疾病ニ罹リ成業ノ目途ナキモノハ其
貸費ヲ罷ム
但認誓ニヨリ生シタル義務ハ尙保存スルモノトス

第百七十四條 貸費生徒半途退學ヲ願出又ハ停學已上ノ處分ヲ受ケタルモノ又ハ前條
ノ場合ニ於テハ貸費ノ金額ヲ即時ニ返納セシム

但疾病ノ爲メ退校ヲ命セラレタル者ハ事情ニヨリ特ニ返納ヲ免除スルコトアルヘシ

第百七十五條 貸費生徒ニシテ落第セシモノハ貸費ヲ罷ムト雖モ在學中ハ其返納ヲ猶

第百七十六條 土木工學科ノ學年學期及ヒ休業入學及ヒ退學懲罰休學進級特待生授業

規則轉及被服規程及ヒ生徒心得ハ總テ本校則第三章已下ノ本科規程ニ準據スベシ

具 第五章 學科課程表

本科課程表

學科	第一 年 級		第二 年 級		第三 年 級		第四 年 級	
	學期	每週時間	學期	每週時間	學期	每週時間	學期	每週時間
農學總論	一	...	土地改良論	四	園藝學	三	農業實習	未定
農學通論	二	...	土壤論	三	動物飼養	四	農藝化學	未定
分折化學	六	...	植物生理學	四	動物生理	五	植物學實	未定

學科課程表

五十二

志望一科ヲ課ス

土木工學科學科課程表

科目	初年級			二年級			三年級		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
代數	五	代數	五	三角法	四	應用重	五	應用重	五
幾何	五	幾何	五	三角法	四	建築材	三	測量術	三
英語	四	英語	四	三角法	四	應用重	五	測量術	三
物理學	三	物理學	三	建築材	三	測量術	四	橋梁	四
書法	六	書法	六	建築材	三	測量術	四	橋梁	四
漢文	三	漢文	三	測量術	四	橋梁	四	橋梁	四
化學	二	化學	二	測量術	四	橋梁	四	橋梁	四
測量術	二	測量術	二	測量術	四	橋梁	四	橋梁	四
全實習	四	全實習	四	測量術	四	橋梁	四	橋梁	四
英語	三	英語	三	測量術	四	橋梁	四	橋梁	四
計實習	六	計實習	六	測量術	四	橋梁	四	橋梁	四

五十五

科目	初年級			二年級			三年級		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
植物組織學	三	植物組織學	三	動物學實驗	五	水產論	三	農業經濟	三
植物組織學實驗	四	植物組織學	三	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
岩石學及地質學	三	岩石學及地質學	三	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
測量	四	測量	四	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
物理學	二	物理學	二	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
獨逸語	三	獨逸語	三	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
農業實習	三	農業實習	三	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
農具論	三	農具論	三	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
植物營養論	四	植物營養論	四	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
隱花植物學	三	隱花植物學	三	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
隱花植物學實驗	四	隱花植物學	三	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
普通作物	三	普通作物	三	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
森林學	三	森林學	三	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
昆蟲學	三	昆蟲學	三	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
農產製造	三	農產製造	三	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
特用作物	三	特用作物	三	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
農業實習	三	農業實習	三	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
畢業論文	二	畢業論文	二	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三
計實習	六	計實習	六	農業經濟	三	水產論	三	農業經濟	三

第三年級已上農藝化學實驗及植物學實驗並農業經濟演習ハ特ニ篤志ノ學生ニ其

五十四

農藝傳習科課程表

學年	第一年前期	第一年後期	第二年前期	第二年後期
學科	耕牛馬使役	耕牛馬使役	耕牛馬使役	農具組織
時間	不定	不定	不定	不定
實	農具使用	農具組織	農具使用	農具組織
實	不定	不定	不定	不定
實	家畜飼養	家畜飼養	家畜飼養法及復習	家畜飼養法及復習
實	不定	不定	不定	不定
實	肥料製造	肥料製造	肥料製造	肥料製造
實	不定	不定	不定	不定
實	穀類及蔬菜耕種	穀類及蔬菜耕種	穀類及蔬菜耕種	穀類及蔬菜耕種
實	不定	不定	不定	不定
實	植物耕種法及貯藏法	植物耕種法及貯藏法	植物耕種法及貯藏法	植物耕種法及貯藏法
實	不定	不定	不定	不定
實	排水及開墾法	排水及開墾法	排水及開墾法	排水及開墾法
實	不定	不定	不定	不定
實	苗木任立及移植法	苗木任立及移植法	苗木任立及移植法	苗木任立及移植法
實	不定	不定	不定	不定
實	乾草法	乾草法	乾草法	乾草法
實	不定	不定	不定	不定
實	臨時野業	臨時野業	臨時野業	臨時野業
實	不定	不定	不定	不定
實	酢醬油及味噌製法	酢醬油及味噌製法	酢醬油及味噌製法	酢醬油及味噌製法
實	不定	不定	不定	不定
實	木炭製法	木炭製法	木炭製法	木炭製法
實	不定	不定	不定	不定
實	果實糖漬法及醃造法	果實糖漬法及醃造法	果實糖漬法及醃造法	果實糖漬法及醃造法
實	不定	不定	不定	不定
實	搾乳法	搾乳法	搾乳法	搾乳法
實	不定	不定	不定	不定
實	製乳法	製乳法	製乳法	製乳法
實	不定	不定	不定	不定
實	家禽飼養法	家禽飼養法	家禽飼養法	家禽飼養法
實	不定	不定	不定	不定
實	穀類及蔬菜耕種	穀類及蔬菜耕種	穀類及蔬菜耕種	穀類及蔬菜耕種
實	不定	不定	不定	不定
實	肥料製造	肥料製造	肥料製造	肥料製造
實	不定	不定	不定	不定
實	家畜飼養法及復習	家畜飼養法及復習	家畜飼養法及復習	家畜飼養法及復習
實	不定	不定	不定	不定
實	農具使用	農具使用	農具使用	農具使用
實	不定	不定	不定	不定
實	耕牛馬使役	耕牛馬使役	耕牛馬使役	耕牛馬使役
實	不定	不定	不定	不定

業	學	科
羊毛淨晒法	農具論	肥料論
製麵製法	農用植物生理	土壤論
手工	化學原理	土地改良法
製藍	二	植物病理
不定	二	果樹栽培
不定	三	普通及特有植物耕種法
不定	二	害蟲驅除法
不定	二	農圃測量及實習
不定	二	動物生理
不定	二	病畜治療及實習
不定	一	蹄鐵法及實習
不定	一	農業經濟
不定	七	一
不定	五	二
不定	不定	三
不定	不定	六

○第六章 寄宿舎々則

札幌農學校舎則 (明治三十年八月三十一日決定)

第一條 本校寄宿舎ハ校費生ヲ寄宿セシムル處トス

寄宿舎々則

第二條 寄宿生ハ本校々則及其他ノ命令規則ヲ遵守スルハ勿論舍内ニアリテハ教務部
舍務掛ノ指揮命令ニ從フヘシ

第三條 舍内ニアリテハ特ニ風紀ヲ守リ學生タルノ品格ヲ汚スカ如キ舉動アル可ラス

第四條 毎日各自其室内ヲ洒掃シ清潔整頓ノ責ニ任スヘシ

第五條 晨起ハ午前七時就寢ハ午后十時三十分トス

第六條 煖爐ハ午后十時燒火ヲ消滅シ全燼ヲ除去スルコトヲ怠ル可ラス

第七條 消燈ハ午后十時三十分トス

第八條 人員檢閲及火ノ元檢閲ノ時間ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 人員檢閲 平日午後九時
夏期及休日ハ午後十時

一 火ノ元檢閲 午後十一時

第九條 晨起湯浴及檢閲消燈ノ時間ハ撞鐘ヲ以テ之ヲ報ス

第十條 人員檢閲ノ際ハ各自室内ニアリテ必ス檢閲ヲ受クヘシ若シ其室内ニ在ラサル
モノハ外出者ト見做スヘシ

第十一條 本校巡視ヨリ職務上學生ニ對シ尋問スルコトアルハ其事實ヲ明答スヘシ

第十二條 人員檢閲ノ后ハ外出ヲ禁ス

但止ヲ得サル事故ノ生シタルハ教務部舍務掛執務時間外ハ當直官吏ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

第十三條 寄宿舍出入ハ寄宿舍昇降口ヨリ之ヲナシ決シテ他ヨリ昇降ス可ラス

但天災其他非常ノ事變アル場合ハ此限リニアラス

第十四條 天災事變其他非常ノ場合ニハ寄宿生一致協力其掛員ヲ補佐シ以テ危害ヲ防
止スルニ盡カスヘシ

第十五條 外出スルニ際シ其居室空舍ニナルハ特ニ火ノ元ニ注意シ尙室内ニ相當ノ

締ヲ施シ而シテ後外出スヘシ

第十六條 外泊セントスルハ前以テ保証人連署ノ上教務部舍務掛執務時間外ハ當直官吏ニ願出外

泊認許証ヲ受クヘシ

第十七條 外出シタルモノハ人員檢閲時間前ニ必ス歸舍スヘキハ勿論万一人員檢閲時
間内ニ歸舍スルコト能サルヲ豫知シタル場合ハ前以テ其旨願出外認許証ヲ受クヘシ

但外出中疾病又ハ不得止事情ノ爲メ檢閲時間内ニ歸舍スルコ能ハサルキ若クハ臨時外泊スルノ必要ヲ生シタルキハ其事故ニ關係アルモノ、証明書ヲ添ヘタル願書ヲ以テ教務部舍務掛執務時間外ハ當直官吏ニ願出ツヘシ

第十八條 三期休業中外泊又ハ旅行セント欲スルモノハ其事由ヲ詳記シタル願書ヲ以テ教務部舍務掛ニ願出ツヘシ

第十九條 三期休業中ノ外々泊又ハ旅行セント欲スルモノハ其事由及日數ヲ定メ保証人ノ連署シタル願書ヲ以テ教務部舍務掛ニ願出ツヘシ

但疾病ニ依ルキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スルハ勿論尙期滿ツルモ歸舍スルコ能ハサルキハ追願書ヲ差出スヘシ

第二十條 外泊若クハ旅行ノ許可ヲ得タルモノ又ハ出張ノ命ヲ受ケタルモノハ必ス書面ヲ以テ其出立日ヲ教務部舍務掛ニ届出ツヘシ歸舍ノキモ又全シ

第二十一條 外來人ニ面會スルキハ必ス應接所ニ於テシ決シテ舍内ニ誘引ス可ラス但シ病氣ノ爲メ應接所ニ到ル能ハサルキハ教務部舍務掛ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十二條 点燈后ハ外來人ニ面會スルヲ許サズ若シ不得止事故アルキハ當直官吏ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十三條 食堂及浴室ニ入ル時間ヲ定ムル左ノ如シ

朝餐ハ	自午前七時 至全八時	晝餐ハ	自正午十二時 至午后一時
夕餐ハ	自午后五時 至全六時	湯浴ハ	日曜水曜ハ兩日 自午后三時 至全五時

第二十四條 食堂及浴室等整理上不都合ト認ムルキハ教務部舍務掛ヘ其旨申出ツヘシ

第二十五條 舍内ニ於テ飲食物ヲ用ユルヲ禁ス
但シ疾病ノタメ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス

第二十六條 舍内ニ於テ放歌吟詩高聲拍手等ヲナシ又ハ樂器ヲ用ユルヲ許サズ

第二十七條 舍内ニ屬スル物品ヲ紛失又ハ破毀シタルキハ之ヲ辨償セシムルハ勿論仮令其破毀者不分明ナルモ全室ノ者連帶其責ニ任スヘシ

第二十八條 學術研究ニ關シ必要品ヲ舍内ニ持込マントスルキハ教務部舍務掛ノ許可ヲ受クヘシ

第二十九條 凡テ物品ハ常ニ整頓シ置キ舍内ノ混乱等アル可ラス

第三十條 舍内ニ於テハ必ス靴又ハ草履ヲ穿テ下駄ヲ用ユ可ラス

第三十一條 寄宿舎廊下ニ備アル非常用水ヲ猥リニ分用スルヲ禁ス

第三十二條 寄宿舎一室ニ備付ノ物品ハ左ノ如シ

- 一 テーブル 二 椅子
- 一 置戸棚 一 帽子掛
- 一 ストーフ 二

第三十三條 寄宿舎寢室ニ備付ノ物品ハ左ノ如シ

- 一 寢臺 一人ニ付一臺

第三十四條 備品ヲ汚穢又ハ破損シ爲メニ修理ヲ要スルハ其費用ハ各自ノ自辨トス

第三十五條 卒業其他ノ事故ニ依リ退舎スルハ備品ノ檢閲ヲ受クヘシ

第三十六條 卒業シタルモノ若クハ退舎ヲ命セラレタルモノハ其命セラレタル日ヨリ

三日以内ニ退舎スヘシ

第三十七條 私費生ニシテ入舎ヲ願フモノアルハ空舎ノアル處ニ限リ之ヲ許可ス

第三十八條 私費生ニシテ入舎ヲ願フモノハ別紙書式ノ願書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

第三十九條 寄宿生中ニ委員長壹名委員三名ヲ置キ教務部舎務掛ノ監督ヲ受ケ左ノ事

項ヲ負擔セシム

- 一 學費ノ出納ニ關スル
- 二 寄宿生ニ關スル命令達其他ノ事項ヲ傳達スル

第四十條 前條各委員ノ撰拔ハ寄宿生ノ互撰投票ニ依リ之ヲ定ム

但シ被撰者ハ其旨教務部舎務掛ヘ届出ツヘシ

第四十一條 委員長ハ委員ヲ監督シ本則第三十九條實行ノ責ニ任ス

第四十二條 本舎則ニ背戾シタルモノハ退舎ヲ命スルノ外本校々則第五章懲罰規程ニ

據リ處分ス

(書式) 入 舍 願 (用紙半紙)

某儀入舍仕度候ニ付御許可ノ上ハ食料其他ノ雜費共ニケ月分一時ニ前納可仕候尙翌月ヨリハ其月三日迄ニ無相違上納可致候若シ遲滯候節ハ保証人ヨリ上納可致依テ保証人連署此段奉願候也

年 月 日 本科第何年級學生

校長宛

甲保証人 何ノ誰印
何ノ誰印

○第七章 授業料徴収規程

札幌農學校授業料徴収規程(明治二十九年十月二日何定)

第一條 校則第九十八條ノ授業料ハ此規程ニ據リ徴収スヘシ

第二條 授業料ハ左ノ期限内ニ本校會計部出納掛ニ納附スヘシ

一 本科授業料納期日ハ左ノ如シ

第一期ハ九月十一日ヨリ 七日以内

第二期ハ一月八日ヨリ 七日以内

第三期ハ四月八日ヨリ 七日以内

一 農藝傳習科授業料納期日ハ左ノ如シ

第一期ハ四月一日ヨリ 七日以内

第二期ハ十二月一日ヨリ 七日以内

冬期講習科授業料納期日ハ左ノ如シ

毎月一日ヨリ 七日以内

學期ノ央ニ入學シタルモノ又ハ納期日後ニ出席シタルモノハ其當日ヨリ七日以

内ニ其學期ノ授業料ヲ納付スルモノトス

第三條 納期日内ニ授業料ヲ納付セサルトキハ保証人ニ通牒シ保証人ニ於テ通牒ヲ受

ケタル日ヨリ三日以内ニ納付スルモノトス

第四條 前條ノ手續ヲナシ尙ホ納付セサル片ハ校則第五章懲罰規程ニ據リ處分スヘシ

但本條ニ據リ處分ヲ受ケタルモノト雖モ尙ホ該學期ノ授業料ヲ徴収ス

第五條 明治二十九年九月一日現在ノ本校豫科生徒ノ授業料納期日及納額ハ左ノ如シ

第一期 金四圓 九月十一日ヨリ 七日以内

第二期 金四圓 一月八日ヨリ 七日以内

明治二十九年九月一日現在ノ本校工學科學生ノ授業料納期日ハ本規程第二條ニ依ル

○第八章 學資支辨規程

札幌農學校學資支給規程(明治二十九年九月十九日何定)

第二條 校則第五十條校費生及校則第八十三條給費生ノ學資ハ此規程ニ據リ支給ス

第二條 學資支給定日ハ毎月末日トス
 但當日休日ニ當ルトキハ順次繰下支給スルモノトス

第三條 校費生給費生病氣ノ爲メ要スル藥餌ハ現品ヲ以テ支給スベシ
 病氣ノ性質及事業上傷痍ヲ受ケ醫師ノ診斷ニ依リ入院治療ヲ命セラレタルトキハ
 特ニ一ヶ月間以内ノ入院料ヲ支給スベシ

入院治療一ヶ月間以上ニ及フトキハ該院料ハ支給セス

第四條 停學ノ處分ヲ受ケタルモノ修學旅行ヲ命セラレタルモノ私事ノ故障ニ據リ外
 泊セシモノ又ハ病氣等ニヨリ入院ヲ命セラレタルモノハ其間學資ヲ支給セス

但學科休業中特ニ修學旅行ヲ認許セラレタルモノニ限り學資ヲ支給ス

第五條 校費生給費生命解ノ月ハ日割計算ヲ以テ支給スヘシ
 被命及旅行入院等ハ發令ノ翌日ヨリ解免ハ其當日マテノ計算ヲ以テ支給スヘシ

第六條 日割計算ハ其月ノ現日數ニ據リ支給スルニ當リ厘位未滿ノ端數ハ切捨トス

第七條 明治二十九年九月一日現在給費生ノ學資支給額ハ明治二十九年度ニ限り従前

之通り支給スルモノトス

第九章 處務規程

札幌農學校處務規程(明治三十年三月廿二日決定) 全 年四月一日ヨリ實施

第一章 事務分掌

第一條 凡テ校務ハ庶務部教務部及ヒ農事部ニ於テ之ヲ分掌ス

第二條 庶務部ハ學校長付トシ部中ニ庶務課及ヒ會計課ヲ置ク

第三條 庶務課及ヒ會計課ニ課長ヲ置キ課中ノ事務ヲ管掌セシム

第四條 庶務課ニ庶務掛會計課ニ出納掛用度掛ヲ置ク

第五條 教務部及ヒ農事部ニ部長ヲ置キ部務ヲ監督セシム

第六條 教務部ニ教務掛舍務掛圖書館掛博物館掛ヲ置ク

第七條 農事部ニ農事掛事務掛傳習掛植物園掛農場ヲ置ク

但農場ヲ分テ第一第二第三第四第五第六第七第八農場トス

第八條 部課中各掛ニ掛長ヲ置クコアルヘシ

處務規程

第九條 掛長ハ其分掌事務ヲ處理スルモノトス

第十條 農事部各農場ニ農場長ヲ置ク

第十一條 農場長ハ場員ヲ督シ農事ノ設計及ヒ經營ヲ擔當ス

第十二條 庶務課庶務掛ニ於テハ左ノ事務ヲ分掌ス

- 一 機密文書ニ關スル
 - 二 學校長ノ官印及ヒ校印ヲ管守スル
 - 三 職員ノ進退身分ニ關スル
 - 四 各部各課ノ處務規程ニ關スル
 - 五 御眞影並ニ勅語謄本ニ關スル
 - 六 成案文書ノ回議ヲ審查スル
 - 七 發遣文書ノ淨寫ニ關スル
- 但部課名ヲ以テスルモノノ附屬書表ノ類ハ各部課ニ於テ淨寫スルモノトス(三十年七月廿九日) 達第六號追加)
- 八 校員ノ履歷及ヒ出勤簿ニ關スル
 - 九 祝日祭日等ノ儀式ニ關スル
 - 十 文書ノ起案及ヒ記錄編纂ニ關スル

- 十一 文書ノ接受發送ニ關スル
 - 十二 一覽年報官報等ノ報告ニ關スル
 - 十三 常直ニ關スル
 - 十四 校員ノ諸願伺届書ニ關スル
 - 十五 他ノ部課ニ屬セサル事件ヲ處理スル
- 第十三條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ分掌ス
- 出納掛

- 一 資金ノ整理ニ關スル
- 二 歳入歳出豫算決算ニ關スル
- 三 歳入調定ニ關スル
- 四 歳入確定ニ關スル
- 五 納入告知書ニ關スル
- 六 收入報告書并ニ歳入月計表ニ關スル
- 七 授業料等ノ徴收ニ關スル
- 八 未收入整理ニ關スル
- 九 收入通知書ニ關スル
- 十 經費ノ仕拂ニ關スル

- 十一 仕拂証明ニ關スルヲ
- 十二 經費流用ニ關スルヲ
- 十三 豫備金請求ニ關スルヲ
- 十四 歳入歳出諸帳簿整理ニ關スルヲ

用度掛

- 一 物品出納保管並ニ整理ニ關スルヲ
- 二 物品購買貸借及ヒ修繕ニ關スルヲ
- 三 不用物品處分ニ關スルヲ
- 四 生産物品ニ關スルヲ
- 五 土地建物ノ管守ニ關スルヲ
- 六 官舎貸下ニ關スルヲ
- 七 官舎貸下料收入報告ニ關スルヲ
- 八 道路並ニ建物ノ修繕ニ關スルヲ
- 九 新營ニ關スルヲ
- 十 官舎居住人ニ關スルヲ
- 十一 給仕小使已下ノ進退ニ關スルヲ
- 十二 警備並ニ消防ニ關スルヲ

- 十三 構内外ノ掃除雪除井戸下水浚渫ニ關スルヲ
- 十四 課中他掛ニ屬セザル事項ヲ處理スルヲ

第十四條 教務部ニ於テ左ノ事務ヲ分掌ス

教務掛

- 一 教室及ヒ日課配當ニ關スルヲ
- 二 試業及ヒ成績表ニ關スルヲ
- 三 學級進退及ヒ卒業ニ關スルヲ
- 四 入學退學及ヒ處罰ニ關スルヲ
- 五 學籍ニ關スルヲ
- 六 學生々徒諸願何屆ニ關スルヲ
- 七 勤惰品行及ヒ學業ニ關スルヲ
- 八 修學旅行及ヒ學術報告ニ關スルヲ
- 九 衛生及ヒ風紀ニ關スルヲ
- 十 學生々徒体格ニ關スルヲ
- 十一 卒業生異動ニ關スルヲ
- 十二 教室備付ノ物品ニ關スルヲ
- 十三 卒業式及ヒ參賀式ニ關スルヲ

- 十四 教官會議ニ關スル
十五 學生々徒ノ集會又ハ印刷物ニ關スル
十六 入學試験及ヒ授業料收入報告ニ關スル
十七 巡視ニ關スル
十八 部中他掛ニ屬セサル事項ヲ處理スル

圖書館掛

- 一 圖書ノ出納並ニ臺帳整理ニ關スル
二 圖書目錄調製ニ關スル
三 圖書館印ヲ管守スル
四 閱覽室整備ニ關スル

博物館掛

- 一 館内陳列品ニ關スル
二 標本ノ採集及ヒ調製ニ關スル
三 觀覽人ニ關スル
四 内外取締ニ關スル
五 看守人ノ進退ニ關スル

舍務掛

- 一 寄宿舎整備ニ關スル
二 寄宿學生取締ニ關スル
三 食堂附所及ヒ浴室整備ニ關スル
四 貸與物品ノ取扱ニ關スル
五 賄方ニ關スル
六 寄宿學生疾病治療ニ關スル

第十五條

農事部ニ於テハ實驗農場ニ關シ左ノ事務ヲ分掌ス

農事掛

- 一 農場ノ經營ニ關スル
二 學生々徒農事實驗ニ關スル
三 動物飼養ニ關スル
四 種畜交尾ニ關スル
五 生産及ヒ製造物品ニ關スル
六 小作人ニ關スル
七 試作ニ關スル
八 事業報告編纂ニ關スル

傳習掛

- 一 教室及ヒ日課配當ニ關スルコト
- 二 試業及ヒ成績表ニ關スルコト
- 三 學級進退及ヒ卒業ニ關スルコト
- 四 入學退學及ヒ處罰ニ關スルコト
- 五 學籍ニ關スルコト
- 六 生徒ノ諸願伺届等ニ關スルコト
- 七 勤惰品行及ヒ學業ニ關スルコト
- 八 學業及ヒ實驗報告ニ關スルコト
- 九 衛生ニ關スルコト
- 十 生徒体格ニ關スルコト
- 十一 教室備付ノ物品ヲ管守スルコト
- 十二 生徒取締ニ關スルコト
- 十三 食堂及ヒ浴室整備ニ關スルコト
- 十四 修學旅行ニ關スルコト
- 十五 貸與物品取扱ニ關スルコト
- 十六 賄方ニ關スルコト
- 十七 入學試驗料及ヒ授業料收入報告ニ關スルコト

- 十八 卒業式及ヒ參賀式ニ關スルコト
- 十九 卒業生異動ニ關スルコト
- 二十 生徒疾病治療ニ關スルコト
- 二十一 圖書保管及ヒ出版ニ關スルコト
- 二十二 圖書目錄調製ニ關スルコト
- 二十三 圖書出納ニ關スルコト
- 二十四 書籍臺帳整理ニ關スルコト
- 二十五 冬期講習生徒ニ關スルコト

植物園掛

- 一 植物試植栽培ニ關スルコト
- 二 温室整備ニ關スルコト
- 三 生産物品ニ關スルコト
- 四 内外取締ニ關スルコト
- 五 觀覽人ニ關スルコト
- 六 生産物品拂下ニ關スルコト

事務掛

- 一 歳入歳出豫算ノ設計ニ關スルコト

- 二 生産製造物品拂下ニ關スルコト
 - 三 物品ノ購買貸借及修繕ニ關スルコト
 - 四 不用物品處分ニ關スルコト
 - 五 土地建物管守ニ關スルコト
 - 六 土地建物貸下ニ關スルコト
 - 七 土地建物臺帳整理ニ關スルコト
 - 八 土地貸下料宅地貸下料小作料及官舎貸下料等收入報告ニ關スルコト
 - 九 官舎居住人ニ關スルコト
 - 十 物品ノ出納保管並ニ整理ニ關スルコト
 - 十一 道路橋梁並ニ建物ノ修繕ニ關スルコト
 - 十二 警備並ニ消防ニ關スルコト
 - 十三 小使已下ノ進退ニ關スルコト
 - 十四 部中他掛ニ屬セサル事項ヲ處理スルコト
- 農場
- 一 各農場ノ經營及ヒ管理ニ關スルコト
 - 二 耕作ニ關スルコト
 - 三 新墾ニ關スルコト

第二章 農産製造ニ關スルコト

第五 小作人ノ監督ニ關スルコト

第六 動物飼養ニ關スルコト

第三章 事務處理

第十條 凡ソ校務ハ學校長ノ決裁ヲ經テ施行スルモノトス

第十七條 事務ノ處理ハ各部各課ニ於テスヘシト雖モ臨時ニ委員或ハ主任ヲ定テ之ヲ調査又處理セシムルコトアルヘシ

第十八條 事務ヲ處理スルハ各部各課ニ於テ之ヲ調査シ關係ノ部課ニ合議スヘシ

第十九條 文書ハ各部各課ニ於テ受ケタル日ヨリ五日以内ニ起案シ其合議ヲ受ケタルモ在テ其受ケタル日ヨリ三日以内ニ閱了スヘシ

但シ休日ハ算入セス

回議書々式辭令書々式指令書々式達書々式証明書々式閱覽書々式ハ別紙書式ニ據ル

附シ(書式略)(三十年七月廿九日)

達第一八號追加

第二十條 庶務課ニ於テハ時々受付簿ヲ点檢シ第十九條ノ手續キヲ履行セサルモノアルキハ之ヲ督促スヘシ

第二十一條 各部各課ニ於テ配付ヲ受ケタル文書ニシテ其主管ノ各部各課ニ跨ルモノハ其主ナル部課ニ於テ之ヲ關係ノ部課ニ一覽セシメ脱漏ナキ様管理スヘシ

第二十二條 事件ノ繁雜ニシテ第十九條ノ期限内ニ調査シ難キモノハ其理由並ニ調査期限ヲ主務ノ部課長ヲ經テ學校長ニ具申スヘシ

第二十三條 合議シタル成案ヲ修正シタルキハ施行前更ニ起案者ノ閱覽同意ヲ要スヘシ

第二十四條 成案ハ明確ニ書記シ文字ヲ増減變改シタルキハ其傍ニ認印スヘシ

第二十五條 成案ノ廢止ニナリタルキハ主務ノ部課ニ於テ其欄外ニ廢案ノ字ヲ記シ消印ヲ求ムヘシ

第二十六條 事務處理上彼是意見ヲ異ニスルキハ可成面議商量シ尙ホ決セサルキハ學校長ノ決裁ヲ請フヘシ

第二十七條 學校長ノ命ニ依リ一時處分ヲナスシテ留置クヘキ文書ハ主務ノ部課長ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第二十八條 至急ヲ要スル成案ハ赤色ノ紙片ヲ欄外ニ貼付シ通常ノ文書ト區分提出スヘシ

第二十九條 機密文書ハ通常ノ手續キニ據ラス便宜決裁ヲ請フコトヲ得但シ秘ノ字ヲ欄外ニ記シ特ニ注意取扱ヒ苟モ漏洩ノ虞ナキヲ期スヘシ

第三十條 處理ノ文書完結シタルキハ各部課ニ於テ件名ヲ詳記シ曆年編纂保存スルモノトス

但シ會計ニ關スル文書ハ會計年度ニヨリ編纂スヘシ

○第三章 執務手續

第三十一條 新ニ任命セラレタルモノハ其日ヨリ三日已内ニ履歷書ヲ作り差出スヘシ

第三十二條 職務上又ハ身分其他ニ關スル願何届書等ハ部課長ノ檢印ヲ受ケ差出スヘシ(三十年七月廿九日達第一八號改正)

第三十三條 各自出勤ノ時ハ必ス出勤簿ニ捺印スヘシ

第三十四條 左ノ事故アルハ書面ヲ以テ其旨速ニ届出ツヘシ

一 參校スル能ハサルトキハ參校時間后一時間以内トス

二 族籍異動

三 改氏名

四 住所ノ移動

第三十五條 掛員事故アリテ參校スル能ハサルトキハ當日處理スヘキモノ又ハ急施ヲ

要スルモノ又ハ定期アルモノハ其處理方ヲ部課長ニ部課長ハ申出部課長ハ之ヲ他ノ

掛員ニ指示シ處分淹滞ノ虞ナキヲ期スヘシ

第三十六條 轉任轉勤及ヒ退官非職ヲ命セラレタルハ其負担ノ事務目錄及ヒ演說書

ヲ作リ三日以内ニ后任者又ハ代理者ニ引繼キ授受者連署届出ヘシ

第三十七條 轉任轉勤ヲ命セラレタルモノハ七日以内ニ赴任スヘシ若シ事故アリテ日

限内ニ出發スルコト能ハサルトキハ更ニ許可ヲ受クヘシ

第三十八條 出張ヲ命スルトキハ北海道廳管外ハ辭令ヲ以テシ北海道廳管内ハ口頭ヲ

以テスルモトス

部課長出張ニ學校長其他ハ學校長若クハ部課長ヨリ傳達スヘシ

第三十九條 出張ヲ命セラレタルモノハ部課長ノ檢印 部課長ハヲ受ケ旅費ヲ會計課ニ

請求スルコトヲ要ス

第四十條 出張ヲ命セラレタルモノハ其命セラレタル事項ヲ復命書ニ具シ部課長ヲ經

テ歸校后七日以内ニ學校長ニ差出スベシ

但シ事ノ簡單ナルモノハ口頭ヲ以テ復命スヘシ

第四十一條 凡ソ文書ハ學校長ノ許可ヲ經ルニアラカレハ外人ニ示シ若クハ謄寫スル

コトヲ許ルサズ

第四十二條 本校及ヒ實驗農場近火等非常ノ事アルハ速ニ參集シ上官ノ指揮ヲ待ツ

ベシ

但急劇ニシテ指揮ヲ待ツノ違ヤアラサルトキハ臨機ノ處置ヲナスヘシ

第四十三條 當直ハ判任官雇事業手ヲ以テ之ニ充ツ各當直規程ニ據リ服務スヘシ本校

雇員ニ限リ當分當直除名ス

(明治三十年八月
六月達第二〇號)

部課長又ハ部課長代理者ハ除ク(明治三十年七月廿九日達第一八號追加)

附 則

本規程ハ明治三十年四月二日ヨリ施行ス

本規程ニ抵觸スルモノハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

○第十章 會計事務取扱順序

札幌農學校會計課事務取扱順序 (明治三十年四月一日決定)

第二條 毎年度歳入歳出豫算ハ各部各課長ニ於テ別紙様式ニ據リ概算書ヲ作り前々年度三月末日限リ會計課長ニ送付スルモノトス

第三條 會計課長前條ノ概算書ノ送附ヲ受ケタルハ式ニ據リ調製シ學校長ニ提出スルモノトス

學校長決判ノ上文部省へ進達ノ爲メ北海道廳へ送附スルモノトス

第三條 歳入歳出豫算計算書ハ會計課長之ヲ調製シ學校長ニ提出スルモノトス

學校長決判ノ上文部省へ進達ノ爲メ北海道廳へ送附スルモノトス

第四條 當該年度ノ豫算決定シタルトキハ會計課長ハ各部各課ノ豫算額ヲ調査シ學校長決判ノ上各部各課長ニ通知スルモノトス

當該年度豫算決定シタルハ會計課出納掛ハ規定ノ帳簿ニ登記スルモノトス

第五條 各部各課長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルハ當該年度歳入歳出豫算決定額ニ基キ慎重經營スルモノトス

第六條 經費中目ノ流用ヲ要スルハ出納掛ハ該流用ノ目的ヲ審査シ計算書ヲ作り理由ヲ詳記シ會計課長ヲ經テ學校長決判ヲ受クルモノトス

學校長決判ノ上ハ北海道廳長官へ提出スルモノトス

流用認可ヲ發ケタルハ出納掛ハ左ノ帳簿ニ登記スルモノトス

一 仕拂命令官歳出内譯簿

一 仕拂命令官歳出推算簿

第七條 經費中節ノ流用ヲ要スルハ第六條ニ準シ其理由ヲ詳記シタル流用計算書ヲ作り會計課長ヲ經テ學校長決判ヲ受ケ左ノ帳簿ニ登記スルモノトス

一 仕拂命令官歳出推算簿

第八條 歳入歳出科目中新設ヲ要スルモノアルキハ出納掛ハ該設置ノ理由ヲ詳記シタル申請案ヲ作り會計課長ヲ經テ學校長決判ヲ受ケ文部省へ提出ノ爲メ北海道廳へ送付スルモノトス

科目新設ノ認可ヲ受ケタルトキハ出納掛ハ關係ノ帳簿ニ登記スルモノトス

第九條 金錢及物品ノ出納ハ退校時間二時前ニ之ヲ閉鎖ス

但臨時至急ヲ要スルモノハ此限外トス

第十條 歳入歳出ノ事務ニ關シ事ノ機密ニ屬セサルモノハ出納掛ニ合議スルモノトス

出納掛合議ヲ受ケ支出ニ關スルモノハ左ノ帳簿ニ登記スルモノトス

二 仕拂命令官歳出推算簿

第十一條 經費ノ支出ハ出納掛ニ於テ仕拂請求計算書ヲ作り左ノ帳簿ニ登記シ會計課長ヲ經テ仕拂命令官ノ決判ヲ受ケ仕拂請求書ヲ調製スルモノトス

三 仕拂命令官歳出推算簿

仕拂請求書ヲ調製シ金庫ニ按内仕拂請求書ヲ交付セントスルキ左ノ帳簿ニ登記スル者トス

一 仕拂元受金差引簿

通常仕拂ニ關スルモノハ各債主領収証印ヲ爲シタルトキ仕拂請求書ヲ交附スルモノトス

集合仕拂ニ關スルモノハ金額氏名表及領収証書ヲ作り金額氏名表ハ按内仕拂請求書

ニ添付シ金庫へ送付スルモノトス

集合仕拂ニ關スル領収証書用紙ヲ各債主ニ交附スルトキハ出納掛適宜ノ帳簿ヲ作り

之ニ受領証印ヲ捺セシムルモノトス

送金仕拂ニ關スルモノハ仕拂請求書へ裏書ヲ爲シ金庫へ送付シ別ニ債主ニ領収証書

用紙ヲ郵送スルモノトス

第十二條 第十一條ノ手續ヲ爲シタルトキハ即日左ノ帳簿ニ登記スルモノトス

一 仕拂命令官歳出簿

- 一 全 歲出内譯簿
- 一 全 歲出推算簿
- 一 概算渡整理簿
- 一 回送金整理簿
- 三 各部局豫算差引簿

第十三條 支出計算書ハ出納掛ニ於テ調製証憑書類ヲ添付シ會計課長ヲ經テ仕拂命令官決判ヲ受ケ會計検査院へ提出スルモノトス會計検査院へ支出計算書ヲ提出シタルトキハ該帳本ヲ北海道廳へ送付スルモノトス

第十四條 歲入歲出ニ關シ會計検査院ノ審理ヲ受ケタルトキハ出納掛之レヲ調査シ答辨按ヲ作り會計課長ヲ經テ仕拂命令官決判ヲ受ケ文部省へ送付スルモノトス

第十五條 出納掛ハ毎月歲出簿ノ結果ニ依リ各部各課經費現計表ヲ作り各部各課ニ報告スルモノトス

第十六條 諸収入金ノ過誤納下戻ヲ要スルモノアルトキハ各部長各課長ハ其調書ヲ作り會計課出納掛ニ送付スルモノトス

會計課出納掛第一項ノ調書ノ送付ヲ受ケタルトキハ第十二條ニ據リ取扱フモノトス
ト雖モ決定豫算額ニ超過スルトキハ會計課長ヲ經テ學校長決判ヲ受ケ豫備金支出請求ノ手續ヲナスモノトス

第十七條 經費ノ仕拂ニ關シ會計課出納掛ハ各部長各課長ヨリ左ノ書類ノ送付ヲ受ケルモノトス

- 一 俸給ニ關スル支拂ニシテ任免陞降其他欠勤等ノ事故ニ依リ給額ニ異動ヲ生ジタルモノアルトキハ其事由及年月日
- 二 高等官判任官新任官及退官者ニ對シテハ其履歷書
新任者ニ在テハ尙ホ其資格ヲ認ムヘキ証書等ノ謄本
- 三 轉任昇給者ニ對シテハ各其前級發令ノ年月日
- 四 講師ヲ囑託シ報酬金ヲ給與スルモノハ其決議書若クハ主任官吏ノ證明アル謄本
- 五 惠與ニ關スルモノハ其決議書
- 六 旅費並ニ定備人夫ノ給料ハ各部長各課長ノ檢印アル本人ノ請求書
- 七 物品購入代及物品ノ修繕料ハ學校長ノ決判ヲ爲シタル物品購入及修繕伺書
- 八 物品運搬費ハ學校長ノ決議書並ニ各部長各課長ノ檢印アル本人ノ請求書

- 九 學生々徒ノ學資ハ各部課長若クハ掛長ノ檢印アル請求書
- 十 臨時使役シタル人夫賃ハ學校長ノ決議書並ニ各部長各課長ノ檢印アル本人ノ請求書
- 十一 營繕土木費ハ學校長ノ決議書並ニ各部長各課長ノ檢印アル本人ノ請求書
- 十二 定例成規外ノ仕拂ハ學校長ノ決議書
- 十三 計算上追給ヲ要スルモノハ各部長各課長ノ調書
- 十四 過誤納下戻ヲ要スルモノハ各部長各課長ノ調書
- 十五 開墾料小作料ハ主管ノ部長課長ノ調書並ニ本人ノ契約書若クハ主任官吏ノ證明アル謄本
- 第十八條 收入ハ會計課出納掛ニ於テ官立學校及圖書館歲入取扱規程ニ據リ取扱フモノトス
- 第十九條 出納掛ハ納入告知書調製伺書ヲ作り會計課長ヲ經テ歲入確定官判決ヲ受ケ左ノ帳簿ニ登記シ甲號及乙號納入告知書ヲ調製スルモノトス
 - 一 歲入確定元帳
- 納入告知書調製シタルトキハ左ノ帳簿ニ登記ノ上各納入ニ交付スルモノトス

- 三 收入官吏收入簿
 - 納入告知書ヲ交付スルハ出納掛ハ納入告知書交付簿ニ受領証印ヲ捺セシムル者トス但郵便ヲ以テ交付スルモノハ此限ニアラス
 - 第二十條 現金收入ニ關スルモノハ出納掛ハ現金收入計算書ヲ作り會計課長ヲ經テ歲入確定官判決ヲ受ケ現金領收証書ヲ各納入ニ交付スルモノトス
 - 第二一條 第二十條ノ手續ヲナシタルトキハ出納掛ハ左ノ帳簿ニ登記スルモノトス
 - 一 歲入確定元帳
 - 一 收入官吏收入簿
 - 一 現金出納簿
 - 第二二條 納入告知書發行後指定ノ期限内ニ納付セサル者アルトキハ出納掛ハ其督促ヲ爲シ其他部課ニ係ルモノハ便宜管部課長ニ移牒シ督促ノ手續ヲナサシムル者トス
 - 第二三條 諸收入金ハ金庫ニ於テ領收シ其通知書ヲ受ケタルトキハ即日 出納掛ハ左ノ帳簿ニ登記整理シ該通知書ハ科目毎ニ編纂保管スルモノトス
 - 一 歲入確定元帳
 - 一 收入官吏收入簿

一 仕拂元受金差引簿

第廿四條 収入報告書ハ出納掛ニ於テ調製シ會計課長ヲ經テ歳入確定官決判ヲ受ケ翌月五日限リ文部省へ提出ノ爲メ北海道廳へ送付スルモノトス

第廿五條 出納掛ハ毎月歳入月計表ヲ調製シ會計課長ヲ經テ學校長へ提出スル者トス

第廿六條 國庫ノ納金ニ關スル収入ハ出納掛ニ於テ歳入調定書ヲ作り會計課長ヲ經テ

歳入調定官決判ヲ受ケ左ノ帳簿ニ登記スルモノトス

一 歳入調定元帳

一 收入官吏收入簿

金庫ヨリ収入済ノ通知書ヲ受ケタル片モ亦全シ

収入済通知書ハ出納掛ニ於テ編纂保管スルモノトス

第廿七條 歳入確定ニ關シ出納掛ハ各部各課ヨリ左ノ書類ノ送付ヲ受クルモノトス

一 生産、製造及不用ノ物品拂下ニ關シテハ學校長ノ決判ヒシ拂下調書

一 授養料ハ每學期ノ初メ在學生ノ氏名表

一 冬期講習生ハ入學許可ノ節其入學生ノ氏名表

一 入學試驗料ハ入學志願者ノ氏名表

五 小作料ニ關シテハ耕地及未開地成功検査書又ハ當該部課長ノ調書

六 宅地及官舎貸下料ハ毎年四月一日現在氏名料額ノ調書並ニ異動アリタルトキハ其異動報告書

七 誤拂過渡ニ關スル収入ハ各部長各課長ノ調書並証憑書

八 定例成規外ノ収入ハ其決議書

第廿八條 會計課用度掛ハ物品會計官吏ヨリ物品ノ購入及修繕ノ移牒ヲ受ケタル片ハ之レヲ審査シ供給者二名以上ニ該物品ニ對スル見本若クハ圖按ヲ示シ費用積書ヲ徴シ價格ノ當否納期日等ヲ調査シ價格最低ノモノヲシテ物品供給者トシ更ニ積書用紙

(物品購入伺書用紙)ヲ下附シ式ノ如ク記入(氏名ノ下ニ捺印セス)セシムルモノトス

第廿九條 用度掛前條ノ積書ヲ受ケタル片ハ物品購入及修繕伺書ニ歳出科目並ニ各部局名ヲ記入シ出納掛ニ合議スルモノトス

第三十條 出納掛前條物品購入及修繕ノ合議ヲ受ケタル片ハ科目ノ當否ヲ調査シ左ノ帳簿ニ登記ノ上會計課長ヲ經テ學校長ノ決判ヲ受クルモノトス

一 各部局豫算差引簿

一 仕拂命令官歳出推算簿

第卅一條 用度掛前條學校長ノ決判ヲ受ケタル片ハ物品供給者ニ該物品ノ調達又ハ修繕ヲ命スルモノトス

物品供給者ニ物品ノ調達又ハ修繕ヲ命シタル片ハ見積書氏名ノ下ニ捺印セシメ承諾又ハ契約ヲ証スルモノトス

第卅二條 供給者ヨリ新調物品並ニ修繕物品納附セシ片ハ用度掛ハ當初ノ圖按若クハ見本ニ背戻ナキヤ否ヲ審査シ其正確ナルモノハ之レヲ受理スヘシ若シ背戻シタルモノアル片ハ再調ヲ命スルコトアルヘシ此場合ニ在テハ期日ヲ訂正スルモノトス

第卅三條 用度掛ニ於テ前條物品ヲ受理シタル片ハ購入伺書ト俱ニ現品ヲ會計官吏ニ引渡スヘシ

第卅四條 物品會計官吏前條ノ引渡ヲ受ケタル片ハ物品出納簿ニ登記シ購入伺書ハ支出ノ証憑書トシテ用度掛ヲ經テ出納掛ニ送附スルモノトス

第卅五條 建物及下水並ニ道路等ノ修理ヲ要スルトキハ會計課用度掛ハ實地調査シ仕様方法ヲ示シ工事受負人ヨリ費用ノ積書ヲ徴シ之レカ當否ヲ監査シ適當ト認めタル

トキハ修繕伺書(氏名ノ下ニ捺印セズ)ヲ作り出納掛ニ合議スヘシ

第卅六條 出納掛前條ノ合議ヲ受ケタルトキ本細則第三十條ニ準シ帳簿ニ登記シ會計課長ヲ經テ學校長ノ決判ヲ受クルモノトス

第卅七條 用度掛前條學校長ノ決判ヲ受ケタルトキハ工事受負人ニ該工事ノ着手ヲ命スルモノトス

工事受負人ニ該工事ヲ命シタルトキハ見積書氏名ノ下ニ捺印セシメ承諾又ハ契約ヲ証スルモノトス

第卅八條 工事ノ竣工シタルトキハ用度掛ハ實地ニ就キ當初ノ仕様及方法ニ背戻ナキヤ否ヲ検査シ其正確ナルモノハ之ヲ受理スヘシ若シ不都合ノ廉アルトキハ再築又ハ手直シヲ命スルコトアルヘシ

工事竣工受授ヲ了シタルキハ用度掛ハ學校長ノ決判書ヲ出納掛ニ回付スルモノトス

第卅九條 歳入歳出ノ決算ニ關スル諸報告書及計算書ハ出納掛物品ノ出納証明ニ關シテハ用度掛ニ於テ調製シ會計課長ヲ經テ學校長決判ヲ受ケ文部省へ進達ノ爲メ北海

道廳へ送附スルモノトス

第四十條 會計ニ關スル諸計算書及報告書ハ各主管掛ニ於テ調製シ會計課長ヲ經テ學校長判決ヲ受ケ其筋へ進達ノ手續ヲ爲スモノトス

第四十一條 會計ニ關シ提出スヘキ諸表計算書ハ概テ左記ノ如シ (左記畧ス)

○第十一章 物品會計施行細則

札幌農學校物品會計施行細則 (明治三十年四月一日決定)

第一條 本校所用ノ物品出納保管ハ物品會計規則及文部省各部物品會計規程ニ基キ本細則ニ依リ處理スヘシ

第二條 物品ヲ大別シテ備品消耗品ノ二トシ更ニ使用ノ目的ニ依リ各別シテ事務用教務用農務用ノ三トス

左ノ場所ニ備フル物品ヲ事務用トス

- 一 事務官室
- 一 應接所
- 一 當直室
- 一 湯呑所
- 一 非常用具置場

左ノ場所ニ備フル物品ヲ教務用トス

- 一 教官室
- 一 各教室
- 一 各學科準備室
- 一 圖書館
- 一 博物館
- 一 解剖室
- 一 寄宿舎
- 一 學生扣所
- 一 學生應接所
- 一 學生賄所
- 一 學生浴室

左ノ場所ニ備フル物品ヲ農務用トス

- 一 農事部事務所
- 一 各農場
- 一 植物園
- 一 農藝傳習科
- 一 生徒舎

第三條 物品出納ノ命令ハ學校長之ヲ發スヘシ

第四條 物品ハ渾テ物品會計官吏之レヲ保管スヘシト雖モ學校長ハ各部各課若クハ各教室物品ノ監守及取扱ヲ明確ニスル爲メ各部各課若クハ各教室ニ物品監守者ヲ置キ該物品監守ノ責ニ任ス

物品會計官吏ハ物品ノ出納保管ヲ明確ニスル爲メ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

- 一 備品出納簿
- 一 消耗品出納簿

一 生産物受拂簿
 一 備品支給簿
 一 豫定員數差引簿
 物品監守者ハ其監守スル物品ノ品名數量及受授ヲ明確ニスル爲メ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一 物品監守簿

第五條 購入物品受入命令ハ購入并ニ受入伺書ヲ以テスヘシ

生産物品ノ受入ハ該生産報告書ヲ以テ受入ノ命令ヲ受クヘシ

寄贈等ノ物品受入ハ該寄贈報告書類ヲ以テ受入ノ命令ヲ受クヘシ

第六條 物品支給命令ハ左ノ書類ヲ以テ支給ノ命令ヲ受クヘシ

一 備品請求及領収証書

一 消耗品請求領収証書

第七條 物品會計官吏直接保管スル物品亡失若クハ毀損シタルトキハ該狀況ヲ具シ學

校長ニ申報スヘシ

第八條 物品監守者保管スル物品ノ亡失若クハ毀損シタルトキハ監守者其現況ヲ詳記

シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ申報スヘシ

第九條 學校長第七條及第八條ノ申報ヲ受ケタルトキハ之カ審査ヲ爲シ其事實正當ト

認定シタルトキハ離權ノ處分ヲ爲シ又正當ナラスト認定シタルトキハ責任者ヲシテ

修理セシムヘシ

物品ノ性質ニ據リ修理シ難キモノハ代品若クハ代價ヲ以テ辨償セシムヘシ

本條ノ場合ニ在テハ學校長ハ物品檢閲委員ノ審議ニ附シ該委員ノ審査報告ニ據リ處

理スヘシト雖モ事ノ重大ニ及ホスモノハ文部大臣ノ裁定ヲ得テ之ヲ處分スヘシ

第十條 物品監守者交替ノトキハ物品會計官吏立會ノ上後任者ニ引繼ヲ爲スヘシ

監守物品ノ授受ヲ了シタルトキハ前任者及後任者署名捺印ノ上學校長ニ届出ツヘシ

本屆書ニハ物品會計官吏若クハ立會官吏之レニ署名捺印スルモノトス

第十一條 各部各課ニ於テ備品ヲ要求セントスルトキハ當該物品監守者ヨリ別紙第一

號書式ノ備品請求及領収証書ヲ以テ物品會計官吏ニ請求スヘシ

第十二條 物品會計官吏前條備品ノ請求ヲ受ケタルトキハ該物品使用ノ目的ヲ審査シ

學校長ノ支給命令ヲ受ケ乙號備品監守証書ニ捺印ノ上現品ト俱ニ之レヲ交付スヘシ
備品請求及領収証書ハ物品會計官吏備品監守証書ハ物品監守者ニ於テ各毎年度ニ之
レヲ編纂保存シ物品檢閲委員ノ檢査資料ニ供スヘシ

第十三條 各部各課ニ於テ不用ニ屬シタル備品ヲ返付セントスルトキハ物品監守者ハ
別紙第二號書式ノ備品返付証書ニ現品ヲ添ヘ物品會計官吏ニ送附シ乙號返附証書ニ
物品會計官吏ノ檢印ヲ受クヘシ

甲號備品返付証ハ物品會計官吏乙號備品返附証書ハ物品監守者ニ於テ各毎年度ニ之
レヲ編纂保存シ物品檢閲委員ノ檢閲資料ニ供スヘシ

第十四條 物品會計官吏不用備品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ該返附証書ニ學校長ノ檢印
ヲ受ケ倉庫受入ノ手續ヲ爲スヘシト雖モ該返納物品ヲ審査シ爾後所用ニ堪ユヘキモ
ノハ之レヲ保存シ又相當ノ修理ヲ加フルモ將來所用ノ目的ナシト認メタルトキハ其
處分按ヲ具シ學校長ノ裁決ヲ受ケ處理スヘシ

第十五條 使用中段損シタル物品ノ修理ヲ要スルトキハ當該物品監守者毀損ノ理由ヲ

詳記シタル書面ヲ以テ物品會計官吏ニ請求スヘシ

物品會計官吏物品毀損シタル理由正當ト認メタルトキハ修理ノ手續ヲ爲スヘシト雖
モ若シ監守者ノ故意怠惰ニ出タルモノト認定シタルトキハ意見ヲ附シ學校長ニ申報
スヘシ學校長前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ本細則第九條ニ準シ處分スヘシ

第十六條 通常所要ノ消耗品ハ學校長當該年度其支消員數ヲ豫定シ本細則第三條ノ命
令ニ代ヘ物品會計官吏ニ其出納ヲ執行セシム

豫定員數以外ノ物品ハ何等ノ場合アルト雖モ本細則第三條ノ命令アルニアラサレハ
之レカ出納ヲ爲スヲ得ス

第十七條 各部各課ニ於テ消耗品ヲ要求セントスルトキハ別紙第三號書式ノ消耗品請
求及領収証書ヲ以テ物品會計官吏ニ請求スヘシ

第十八條 物品會計官吏前條ノ請求ヲ請ケタルトキハ其使用ノ目的正確ニシテ豫定員
數表以内ナルトキハ本細則第十七條ニ據リ之レヲ交付スヘシ
豫定員數表以外ナルカ又ハ臨時使用ノ物品ナルトキハ本細則第三條ニ據リ學校長ノ

命令ヲ受ケテ後交付スヘシ

使用ノ目的不正確ト認メタルトキハ學校長ノ裁決ヲ受ケ處理スヘシ

第十九條 生産及製造若クハ寄贈等ノ物品ハ各主任官吏ニ於テ別紙第四號書式ノ物品報告書ヲ作り當該部長課長ヲ經テ現品ト俱ニ物品會計官吏ニ送付スヘシ

第二十條 物品會計官吏直接保管ノ物品ハ倉庫若クハ貯藏所ニ藏置シ其鎖鑰ヲ監守スヘシ
容積及重量ノ都合ニ依リ一定ノ場所ニ格護シ能ハサルモノハ相當ノ取締方法ヲ爲シ之レヲ保管スヘシ

第二十一條 物品會計官吏ニ於テ生産製造物品若クハ不用物品ヲ賣却セントスルトキハ其品目數量代價ヲ詳記シタル別紙第五號書式ノ物品拂下調書ヲ作り學校長ノ裁決ヲ受クヘシ
賣却シタル物品ハ金庫ノ代價領收證書ヲ認メ拂下物品領收證書ヲ得ルニアラサレハ何等ノ場合アルト雖モ現品ノ引渡ヲ爲スヲ得ス

第二十二條 草花若クハ種子ハ主管部長ニ於テ別紙第六號書式ノ生産物品受拂簿ヲ設ケ生産高拂高ヲ登記整理スヘシ

草花若クハ種子拂下ケタルトキハ收入官吏ノ領收證書ヲ認ムルニアラサレハ現品ヲ引渡ヲ爲スヲ得ス

草花若クハ種子ハ主管部長ニ於テ生産物受拂簿ノ結果ニ據リ毎月一回別紙書式第七號ノ生産物品受拂月報ヲ作り翌月五日限リ進達スヘシ

第二十三條 各主管部長ニ於テ別紙書式第八號ノ牛乳受拂簿ヲ設ケ整理スヘシ
牛乳ノ拂下ハ賣捌人ヲシテ其月拂下高ヲ豫定セシメ代價納入濟ノ上別紙書式第九號ノ牛乳拂下差引簿ヲ設ケ其月拂下高ニ比シ毎日現品ノ交付高ヲ登記整理スヘシ納付金ニ對スル拂下石數ニ超過ノ引渡ヲ爲スヲ得ス

第二十四條 學校長ハ本校及實驗農場ニ物品檢閱委員長各一名委員若干名ヲ設ケテ學校所有物品ノ保管及使用上ノ可否ヲ檢査セシムヘシ

第二十五條 檢閲ヲ分チテ定期臨時ノ二トス

第廿六條 定期檢閲ハ毎年八月其時日ヲ定メテ之レヲ施行シ臨時檢閲ハ臨時ニ之レヲ施行スヘシ

第廿七條 物品檢閲委員長及委員ハ毎年一月ニ任命シ其任期ハ滿一ケ年トス

第廿八條 物品檢閲委員ノ檢査スヘキ要領左ノ如シ

- 一 物品保管ノ適否
- 一 物品使用ノ適否
- 一 消耗品消費ノ適否
- 一 物品欠損ノ有無
- 一 生産物受拂ノ適否

第廿九條 物品檢閲委員ノ檢査施行手續ハ學校長ノ認可ヲ受ケ物品檢閲委員長之ヲ制定スヘシ

第三十條 物品ノ檢閲ノ際在庫品ニ就テハ物品會計官吏若クハ代理者使用中物品ニ就テハ物品監守者其席ニ列シ物品檢閲委員ノ質問ニ答フヘシ

第卅一條 物品檢閲委員ニ於テ檢査上故障ナシト認定シタルトキハ物品監守簿并ニ倉庫物品臺帳ニ署名捺印シテ之レヲ証スヘシ若クハ故障アリタルモノアルトキハ當該責任者ヨリ顛末書ヲ差出サシムルヲ得

第卅二條 物品檢閲委員其檢査ヲ終リタルトキハ其檢査ノ狀況ヲ具シ學校長ニ申報ス

第卅三條 物品監守者ハ毎年三月卅一日現在物品ノ報告書ヲ作り翌年度四月十五日限リ物品會計官吏ニ報告スヘシ

第卅四條 物品會計官吏ハ毎年度間執行シタル消耗品ノ受拂表ヲ各部各課並ニ各教室ニ區分シタル報告書調製シ翌年度六月十五日限リ學校長ニ提出スヘシ

第卅五條 物品會計官吏ハ物品會計規則第十五條ニ據リ毎年度間執行シタル物品出納計算書ヲ調製シ証憑書類ヲ添ヘ翌年六月十五日限リ學校長ニ提出スヘシ

第卅六條 學校長ハ前條ノ物品出納計算書ノ下檢査ヲ執行シ學校會計監理官ヲ經テ會計檢査院ニ提出スヘシ

第卅七條 第卅三條第卅四條ノ報告書ノ書式ハ別ニ之レヲ定ム

(書式略)

○第十二章 土地貸下規程

○札幌農學校資金ニ屬スル北海道ノ土地ヲ貸下スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件

○勅令第四百四號 明治二十八年七月九日 (官報抄)

札幌農學校ノ資金ニ屬スル北海道ノ土地ノ貸附ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ニ依ルコトヲ得

- 一 一人ニ付宅地ノ面積四百五坪以内ヲ貸付スルトキ
 - 二 一人ニ付耕地及未開地ノ面積參万坪以内ヲ貸附スルトキ
- 未開地ヲ貸附スル場合ニ於テハ貸附料ヲ徴収セサルコトヲ得

○文部省告示第五號 明治二十八年八月二十七日 (官報抄)

○札幌農學校ノ資金ニ屬スル北海道土地貸下規程

第一條 札幌農學校ノ資金ニ屬スル北海道ノ土地ハ此規程ニ據リ貸下クルモノトス

第二條 隨意契約ヲ以テ貸下クヘキ宅地ノ面積ハ一人ニ付百三十五坪以上四百五坪以内トシ耕地及未開地ノ面積ハ一人ニ付三万坪以内トス但シ競争契約ヲ以テ特ニ制限

海外對地積ヲ貸下クルモノトアルヘシ

第三條 宅地耕地及未開地ノ貸下ヲ受ケント欲スル者ハ願出ニ其地名(番地又ハ字名)一區域地坪及所用ノ目的等ヲ詳記シ戶籍證明書ヲ副ヘ札幌農學校ニ差出スヘシ

第四條 札幌農學校長ニ於テ貸下出願者ノ目的確實ナリト認ムルトキハ貸借ノ契約ヲ爲スヘシ

第五條 未開地ノ開墾成功年限ハ左ノ如シ

- 一 一萬五千坪未満草原地 四年以内
- 二 一萬五千坪未満樹林地 五年以内
- 三 一萬五千坪以上三萬坪以内草原地 五年以内
- 四 一萬五千坪以上三萬坪以内樹林地 六年以内

第六條 未開地ハ毎年其開墾配當坪數ヲ検査シ若シ其年配當之地積成功セサルトキハ成墾地ヲ除キ其他ハ惣テ返地セシムルコトアルヘシ

第七條 宅地及耕地ノ貸下年限ハ十二箇年以内未開地ノ貸下年限ハ十八ヶ年以内トス

但シ年限満期ノ後引續キ貸下ヲ受ケントスル者ハ更ニ契約ヲ爲スコトアルヘシ

第八條 未附地ハ成功後五ケ年目ヨリ貸下料ヲ徴收スルモノトス但シ開墾ノ難易ニ依
リ貸下料徴收期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第九條 貸下料ハ土地ノ肥瘠使否ニ依リ左ノ範圍内ニ於テ契約シ満四年毎ニ更正スル
モノトス
宅地一箇月貸下料一坪ニ付金一厘以上五錢以内耕地一箇年貸下料三百坪ニ付金二
十錢以上貳圓五十錢以内

○土地貸下ニ係ル契約書式(明治二十八年八月廿七日試定)

宅地賃借契約書

石狩國札幌區北 條西 丁目 番地

一宅 地 表 口 間 坪

別紙圖面ノ簡所

第一條 賃借期限ハ明治 年 月ヨリ明治 年 月マテ 箇年トス

第二條 借地料ハ一箇月金 トス

但シ日割計算ヲナサ、ル事

第三條 借地料ハ毎月札幌農學校ヨリ發スル納入告知書ニヨリ指定ノ期限内ニ納付ス
ルモノトス

第四條 借主ハ札幌農學校ノ承諾ヲ經スシテ其借地ヲ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス

第五條 借主ハ札幌農學校ノ承諾ヲ經スシテ借地ヲ他ニ轉貸スルコトヲ得ス

第六條 借主ハ札幌農學校ノ承諾ヲ經スシテ借地ノ原形ヲ變更シ若クハ之ヲ荒廢ニ歸

セシメタルトキハ借主ハ札幌農學校ニ其損失ヲ賠償スルモノトス

第七條 土地貸下料ハ四年毎ニ更正スルモノトス

第八條 前條ノ場合ニ於テ札幌農學校ハ貸下料ノ増減ヲ爲スト雖モ借主ハ異議ノ申立

ヲ爲スヲ得ス

第九條 借主ハ契約ヲナシタル月ヨリ一箇年以内家屋建築ヲ爲スモノトス

第十條 官用又ハ公共ノ爲メ必要アル場合ハ契約期限内ト雖モ返地スルモノトス

但シ土地収用法ニヨルノ外ハ六箇月以前ニ之ヲ借主ニ通告スルモノトス

第十一條 前條ノ場合ニ於テ家屋其他建物取去ノ費用ハ官廳又ハ起業者ヨリ拂渡スヘキ金額ノ外借主ノ負擔トス

第十二條 借主現地ニ不在ノ時ハ保証人直ニ本契約ノ義務ヲ履行スルモノトス

第十三條 借主ハ札幌農學校ニ損害ヲ蒙ラシメタルトキハ保証人直ニ賠償ノ責ヲ負フモノトス

第十四條 借主併ニ保証人ハ本契約ノ條件ヲ履行セサル片ハ借地ヲ返地スルモノトス但シ貸主ニ於テ返地ヲ請求シタル日ヨリ六十日以内ニ施設ノ物件ヲ除去スヘシ

第十五條 本契約ハ満期ノ後相方合意ノ上更ニ繼續スルコトアルヘシ

右各條項ヲ契約ス依テ本書ニ通テ製シ署名捺印シ各一通ヲ領置スルモノナリ

明治 年 月 日

貸主 札幌農學校長

借主

保証人

保証人

耕地賃借契約書

國 郡 村 字 番地

別紙圖面ノ箇所

第十條 借地期限ハ明治 年 月 日ヨリ明治 年 月 日迄年間トス

第十一條 借地料ハ毎年 月 日ヨリ 日迄 年々 円トス

第十二條 借主ハ借地ノ改良ノ事

第十三條 借地料ハ毎年十一月札幌農學校ヨリ發スル納入告知書ニ據リ指定ノ期限内ニ納付スルモノトス

第十四條 借主ハ札幌農學校ノ承諾ヲ經スシテ其借地ヲ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス

第十五條 借主ハ札幌農學校ノ承諾ヲ經スシテ借地ヲ他ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十六條 借主ハ札幌農學校ノ承諾ヲ經スシテ借地ノ原形ヲ變更シ若クハ之ヲ荒廢ニ歸セシメタルトキハ借主ハ札幌農學校ニ其損失ヲ賠償スルモノトス

第七條 土地賃下料ハ四年毎ニ更正スルモノトス

第八條 前條ノ場合ニ於テ札幌農學校ハ賃下料ノ増減ヲ爲スト雖モ借主ハ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ス

第九條 官用又ハ公共ノ爲メ必要アル場合ハ契約期限内ト雖モ返地スルモノトス
但土地収用法ニ依ルノ外ハ六箇月以前ニ之ヲ借主ニ通告スルモノトス

第十條 前條ノ場合ニ於テ家屋其他建物取去ノ費用ハ官廳又ハ起業者ヨリ拂渡スヘキ金額ノ外借主ノ負擔トス

第十一條 借主現地ニ不在ノ時ハ保証人直ニ本契約ノ義務ヲ履行スルモノトス

第十二條 借主ハ札幌農學校ニ損害ヲ蒙ラシメタルトキハ保証人直ニ賠償ノ責ヲ負フモノトス

第十三條 借主併ニ保証人ハ本契約ノ條件ヲ履行セサルキハ借地ヲ返地スルモノトス
借主ニ於テ返地ヲ請求シタル日ヨリ六十日以内ニ施設ノ物件ヲ除去スヘシ

第十四條 本契約ハ灌漑ノ後相方合意ノ上更ニ繼續スルコトアルヘシ

右各條項ヲ契約ス依テ本書ニ通ヲ製シ署名捺印シ各一通ヲ領置スルモノナリ
明治 年 月 日

貸主 札幌農學校長
借主

保証人
保証人

未開地賃借契約書
國 郡 村字 番地

別紙圖面ノ箇所

第一條 借地期限ハ明治 年 月ヨリ明治 年 月マテ 年間トス
第二條 借地料ハ一箇年金 トス
但日割計算ヲナササル事

第三條 借地料ハ毎年十一月札幌農學校ヨリ發スル納入告知書ニ據リ指定ノ期限内ニ納付スルモノトス

第四條 借地料ハ成功後 年目ヨリ納付スルモノトス

第五條 借主ハ札幌農學校ノ承諾ヲ經スシテ借地ヲ他ニ轉貸スルコトヲ得ス

第六條 借主ハ札幌農學校ノ承諾ヲ經スシテ其借地ヲ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス

第七條 借主ハ契約ヲナシタル日ヨリ三箇月以内ニ小屋掛及開墾ニ着手スルモノトス

第八條 借地ハ毎年左ノ割合ヲ以テ開墾スルモノトス若シ其年配當ノ地積成功セサルトキハ成墾地ヲ除キ其他ハ總テ返地セシムルコトアルヘシ

但天災其他避ク可カラサル事故アリテ成功スルコト能ハサルトキハ借主ハ札幌農學校ノ承諾ヲ得ルモノトス

明治 年 坪成功

明治 年 坪成功

明治 年 坪成功

明治 年 坪成功

明治 年 坪成功

明治 年 坪成功

第九條 開墾小屋掛等ニ係ル諸費一切借主ノ負擔トス

第十條 札幌農學校ノ承諾ヲ經スシテ成功地ノ原形ヲ變更シ若シクハ荒廢ニ歸セシメタル片ハ其ノ損失ヲ賠償スルモノトス

第十一條 借地料ハ四箇年毎ニ更正スルモノトス

第十二條 前條ノ場合ニ於テ札幌農學校ハ借地料ノ増減ヲ爲スト雖モ借主ハ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ス

第十三條 官用又ハ公共ノ爲メ必要アル場合ハ契約期限内ト雖モ返地スルモノトス

但土地収用法ニヨルノ外ハ六箇月以前ニ之ヲ借主ニ通告スルモノトス

第十四條 前條ノ場合ニ於テ家屋其他建物取去ノ費用ハ官廳又ハ起業者ヨリ拂渡スヘキ金額ノ外借主ノ負擔トス

第十五條 借地内ノ樹木ハ札幌農學校ノ承諾ヲ經スシテ伐採スルヲ得ス

第十六條 借主ニ於テ薪炭用地及防風林ヲ設置セントスルトキハ借地面積ノ十分一ヲ超過スルヲ得ス

第十七條 借主現地ニ不在ノトキハ保証人直ニ本契約ノ義務ヲ履行スルモノトス

第十八條 借主ハ札幌農學校ニ損害ヲ蒙ラシメタルトキハ保証人直ニ賠償ノ責ヲ負フモノトス

第十九條 借主併ニ保証人ハ本契約ノ條件ヲ履行セサルキハ借地ヲ返地スルモノトス

但シ貸主ニ於テ返地ヲ請求シタル日ヨリ六十日以内ニ施設ノ物件ヲ除去スヘシ

第二十條 本契約ハ滿期後相方合意ノ上更ニ繼續スルコトアルヘシ

右各條項ヲ契約ス依テ本書二通ヲ製シ署名捺印シ各壹通ヲ領置スルモノナリ

明治 年 月 日

貸主 札幌農學校長

借主

保証人

保証人

第十三章 事業手規程

札幌農學校事業手規程 (明治廿九年十月廿四日決定)

第一條 事業手ノ定員ハ十五名トシ農場及植物園ノ事業ニ従事セシムルモノトス

第二條 事業手給料ハ十六等ニ分チ業ノ優劣及勤績ノ功績ニ依リ左ノ區別ニ從ヒ相當ノ日給ヲ給與ス

等級	一等	二等	三等	等四	等五	等六	等七	等八	等九	等十	等十一	等十二	等十三	等十四	等十五	等十六
日給額	圓九十二	圓八十三	圓七十七	圓七十	圓六十三	圓五十七	圓五十	圓四十四	圓四十二	圓卅八	圓卅三	圓三十	圓廿七	圓廿五	圓廿二	圓

第三條 業務取扱ノ順序ハ本校農場事業細則ニ遵ヒ農場長及擔任者ノ指揮ニ從フモノトス

第四條 業務ノ勤惰ニ依リ黜陟ヲ行フモノトス

但シ十等級以上ハ滿一ケ年ヲ經ルニアラサレハ増給スルヲ得ス十一等級以下ハ

一ヶ年未滿ト雖モ増給スルコトヲ得

第五條 事業手ヲ採用セントスル時ハ甲號書式ニ據リ撰舉狀及本人ノ履歷書ヲ差出サシメ採用ノ後乙號書式ノ身元保証書ヲ差出サシムヘシ

第六條 業務ノ都合ニヨリ服務時間外ニ服務セシムルモ別ニ手當金等ヲ支給セス

第七條 規定ノ休日及業務ノ都合ニ依リ休業ヲ命シタルトキハ當日ノ給料全額ヲ給ス

第八條 病氣又ハ忌引其他自己ノ爲メ服務セザルトキハ日給ヲ支給セス

第九條 病氣又ハ他ノ事故ニヨリ欠勤五十日ニ涉ルトキハ解僱スルモノトス

第十條 父母ノ病氣又ハ不得止事故アリテ一時歸省又ハ賜暇ヲ願出ツル者アルトキハ往復ヲ除キ三週間ヲ限リ許可ス此場合ニ於テハ給料ヲ支給セス

第十一條 公務ノ爲メ死傷シタル者ニハ相當ノ手當ヲ給與スヘシ

但シ負傷養療中ハ其輕重ニヨリ日給ノ半額又ハ全額ヲ給ス

第十二條 公務ノ爲メ旅行ヲ命シタルトキハ本校達第十五號ノ旅費ヲ給ス

第十三條 本規程ニ抵觸スルモノハ本規程發布ノ日ヨリ廢止ス

第三(甲號書式)

撰舉狀

族籍住所 姓

生年月日 名

満年月 名

何々業務ヲ能クス依テ撰舉候也

何々技術 撰舉人 姓 名 印

年月日

校長 宛

履歷書

族籍 姓

生年月日 名

官衙又ハ何々

年號月日	任官賞罰事故等	官衙又ハ何々

(乙號書式)

身元保証書

姓

名

右ハ今般御校事業手ヲ命セラレ候ニ付テハ本人在職中ニ係ル一切ノ義務ハ拙者
負擔可仕候依テ保証候也

族籍住所

姓

名印

年月日
校 長 宛

○第十四章 巡視服務規程

札幌農學校巡視服務規程 (明治二十年八月五日決定)

- 第一條 巡視ハ主管部課長ノ指揮ヲ承ケ本規程ニヨリ服務スヘシ
但執務時間外ハ當直官吏ノ指揮ヲ受クルモノトス
- 第二條 巡視ハ二名トシ毎日午前八時ニ交代シ其職務ニ服ス可シ
交代ノ際前日ノ事項ノ引繼ヲ明瞭ニシ遺漏ナキ様注意スヘシ
- 第三條 巡視ノ職務ハ大略左ノ如シ

- 一 本校構内外及校舎内外ヲ巡視スル
 - 一 各教室寄宿舎食堂浴室其他各應接所扣所等整頓ニ關スル
 - 一 給仕小使ヲ指揮シ其勤惰ヲ監督スル
 - 一 構内外ノ清潔法ニ關スル
 - 一 火防ノ準備並ニ消防手配ニ關スル
 - 一 報鐘時間ノ
 - 一 學生々徒ニ關スル會場ヲ巡視スル
- 第四條 巡視服務中ハ制服制帽ヲ着用シ靴ヲ穿ツヘシ
但疾病等ノ爲メ穿靴耐ヘ難キハ其事由ヲ申出當該掛官ノ許可ヲ受ク可シ
- 第五條 巡視服務中ハ戴帽ノ儘軍人ノ禮ニ倣フヘシ
- 第六條 巡視服務中ハ容儀ヲ正フシ懇切ヲ旨トシ嚴肅ヲ守ルヘシ
- 第七條 洋服若クハ羽織袴ヲ着セス靴ヲ穿タサル者ハ表立關ヨリ通行セシム可カラズ
來客取次ヲ乞フトキハ先ツ應接所ニ導キ然ル後其向ヘ通知スヘシ
- 第八條 巡視ハ巡回中不都合ト認ムル廉アルキハ直ニ書面又ハ口頭ヲ以テ其實況ヲ當

該掛官ニ報告シ指揮ヲ受クヘシ尙服務中ノ事件ハ細大トナク巡視日記ニ記載スヘシ
巡視中ノ記事ハ手帳ニ筆記シ俱ニ一週間毎ニ主管部課長ノ檢閲ヲ受クヘシ

第九條 文書又ハ物品ノ類ヲ請取リタルトキハ直ニ庶務課庶務掛(執務時間外)ニ送達
スヘシ

第十條 授業時間外即チ放課ノ都度特ニ各教室及廊下等ヲ巡視シ授業上妨ケアリト認
ムルハ之ヲ整頓シ其模様ニヨリテハ直ニ當該掛官ニ報告シ指揮ヲ受クヘシ

事務官室、教官室、及各教室、其他各室ニ備付ノ器具ハ常ニ該所備付ノ目錄ト對照ス
可シ

第十一條 巡視ノ際學生々徒ニ於テ校則及命令等ニ違背シタルヲ認知シタルハ本則
第八條ノ手續ヲナスヘシ

但シ巡視ハ職務執行上學生々徒ニ直接尋問スルコトヲ得

第十二條 給仕小使賄人又ハ本校へ出入ノ商工人ニシテ風紀ヲ紊スノ所行アリト認ム
ルハ直ニ之ヲ差止メ其旨當該掛官へ報告ス可シ

第十三條 晝夜ヲ問ハス構内ニ無用ノモノ、出入スルヲ禁スヘシ若シ不審ノ廉アリト

認メタルハ充分取糺ヲ爲シ其顛末ヲ掛官ニ報告スヘシ

第十四條 火ノ元注意ハ勿論常ニ戸締リ等ニ注意シ不都合ト認ムルハ當該掛官ノ指
揮ヲ受ケ取締ヲナスヘシ

夜間職務執行上臨時必要ト認ムル場合ニハ脱靴潛行スルコトヲ得

第十五條 火災若クハ其他非常ノ事變アルハ掛官ヲ輔ケ小使等ヲ督勵シ心力ヲ盡ス
可シ

○第十五章 職員 (明治三十年八月三十一日現員)

學校長

ドクトル、オフ、フヒロツヒ(米國デヨンスホツキンス大學)

教授

農學士 佐藤昌介 北海道

ドクトル、オフ、フヒロツヒ(米國デヨンスホツキンス大學)

農學士 佐藤昌介 前出

ドクトル、オフ、サイエンス(米國ハーバード大學)

農學士 宮部金吾 北海道

マキストル、アルキウム及ドトルテルフヒロソヒ(獨國ハレ大學)

兼合並
道廳技師

兼合並

農學士 新渡戸 稻造 岩手

農學士 南 鷹次郎 長崎

農藝化學士 吉井 豊造 北海道

理學士 原 十太 靜岡

工學士 平野 他喜松 北海道

兼北
道廳

農學士 小寺 甲子二 兵庫

田中 芳四郎 北海道

兼書記

農學士 鈴木 武良 北海道

農學士 大島 金太郎 北海道

農學士 大脇 正諄 北海道

農學士 松村 松年 兵庫

農學士 時任 一彦 鹿兒嶋

助教授

講師

兼書記

石川 金平 北海道

上田 半二郎 北海道

村田 莊次郎 神奈川

工學士 岡崎 文吉 北海道

獸醫學士 田村 補三郎 東京

永田 方正 北海道

農學士 高岡 熊雄 北海道

農學士 角田 啓司 北海道

書記

助教授

鈴木 武良 前出

新井 穆 北海道

菱沼 哲之助 宮城

助教授

堀江 武岩手
陸軍歩兵少尉 伊藤 能道 北海道

村田 莊次郎 前出

廣瀬 廣治 北海道

工藤 吉之助 北海道

舎監

新渡戸 稻造 前出

南 鷹次郎 前出

教授 教授

◎處務分掌

○庶務課

長

書記

新井 穆 前出

官報々告主任

書記

伊藤 藤能道 前出

雇

德淵 永治郎 北海道

○會計課

長
庶務課長
會計主任
主任收入官吏
物品會計官吏

雇

小川 寬鼓 阜

書記

新井 穆 前出

書記

堀江 武 前出

雇

廣瀬 廣治 前出

全

金田 一慶 治岩手

教授兼舎監

崎野 知人 青森

○教務部

長

教授

新渡戸 稻造 前出

植物園掛長

教授

宮部 金吾 前出

博物館掛長

助教授

小寺 甲子 二前出

助教授

新井 穆 前出

書記

松村 松年 前出

○農事部

書記	伊藤能道前出
兼助書記	村田莊次郎前出
全	德淵永治郎前出
全	中江汪前出
全	小川寬前出
全	石田昌人前出
教授兼舍監	南鷹次郎前出
助書記	鈴木武良前出
助教授	田中芳四郎前出
助教授	大脇正諄前出
書記	菱沼哲之助前出
助教授	松村松年前出
傳習掛長	
事務掛長	
實驗農場物品會計官吏	
長	
第一第五第六農場長	
官報々告主任兼書記	

第二第三農場長助教授

助教授	石川金平前出
書記	上田半二郎前出
全	工藤吉之助前出
全	德淵永治郎前出
全	石田昌人前出
全	金田一直治岩手
全	木下榮造前出
全	田村八三郎前出
全	橫山留三前出
全	富樫竹次郎前出
全	富樫繁次郎前出
全	柴垣芳松前出
全	石崎正祐前出

第四農場長心得事業手

事業手
丸山左馬太長野
井上甲子二郎宮城
渡邊儀助北海道

○委員

衛生委員長 教授兼合監 新渡戸稻造前出
 全副委員長 教授兼合監 南鷹次郎前出
 全委員 助教 小寺甲子二前出
 全委員 助教 兼記 鈴木武良前出
 全委員 助教授 大島金太郎前出
 全委員 書記 新井穆前出
 全委員 助教授 大脇正諄前出
 全委員 書記 菱沼哲之助前出
 本校物品檢閱委員長教授兼合監 南鷹次郎前出

全委員 助教授 小寺甲子二前出
 全委員 書記 廣瀨廣治前出
 實驗農場物品檢閱委員長教授 吉井豐造前出
 全委員 助教授 小寺甲子二前出
 全委員 兼記 村田莊次郎前出
 全委員 書記 廣瀨廣治前出

○物品監守者

植物學器械及植物園 教授 宮部金吾前出
 化學器械 教授 吉井豐造前出
 理學及工學器械 助教授 大島金太郎前出
 農學校及獸醫學器械 助教授 上田半二郎前出
 動物學器械 助教授 松村松年前出
 書籍館 教授 新渡戸稻造前出

博物館

兼助教

村田莊次郎前出

事務官室、當直室、應接所、巡視室、湯吞所、消防用具置場

書記

堀江武前出

教官室、各教至學生扣所、學生應接所、寄宿室、學生隨所、學生浴室

書記

伊藤能道前出

農事部事務所及第一農場

兼助教

鈴木武良前出

第二農場第三農場第四農場

助教授

石川金平前出

○第十六章 學生名徒姓名 (明治三十年七月三十一日調)

留學生

米國

農學士

渡瀬庄三郎東京

本科學生

第四年生

山田玄太郎 山形
小川運平 石川
佐々茂雄 北海道
湯全地定彦 鹿兒島
石橋三郎 治宮城

河村榮藏 北海道
山田秀雄 北海道
大槻由己 福島
篠崎真秀 鹿兒島
辻重忠 高知

杉山乙次郎 神奈川
名越正助 鹿兒島
平山八十五郎 東京
加藤銚藏 北海道
金田信吉 北海道
泉 哲 北海道
明峰正夫 北海道
湯池定治 鹿兒島
遠藤万藏 新潟
奈良良淨 青森
若林功 北海道
大野悅太郎 北海道
江原帶一 靜岡
飯塚幸四郎 群馬
仲谷馬太郎 大阪
西田藤次 東京

石津高知 宮城
高橋安太郎 東京
江藤修敬 熊本
大山利秀 鹿兒島
安藤幾三郎 岐阜
粕鉄之助 岐阜
笠原十司 長野
牧野恒環 新潟
西垣恒矩 京都
後藤鉄恒 福島
岩谷讓吉 北海道
中尾雜藏 鳥取
池野傳吉 北海道
大川石松 靜岡
土肥竹次郎 北海道

學生名徒姓名

百三十一

仁木信雄	齋藤角太郎	攝待初郎	佐藤昌岩手	伊藤清藏	平澤真岩手	長嶺林三郎	高野定治	小黒寅治	湯田勝治	吉田碩藏	本多敏樹	小田代慶太郎	草場榮喜	安達幸次郎	百瀬葉千助
北海道	宮崎	岩手	岩手	山形	福島	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	東京	北海道	北海道	北海道	北海道
菊池謹也	大久保七熊	荒尾光雄	菅菊太郎	神田勝亥	廣瀬潤平	角田啓五郎	結城庄八	永山盛良	河東祐夫	伊東祐夫	中村由太郎	竹崎八十雄	井上熊作	中目敬治	川上瀧彌
北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道

櫻田廣治	梁田實熊	黒田春實	清野純逸	星野三山形	早川萬一	佐藤政二郎	半澤治	畑海林力藏	東山守人	羽山重勇	中田榮次郎	岩田榮次郎	木村榮次郎	木崎知次郎	町井正路
秋田	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道
渡邊重	和山伊之助	鈴木真吉	豐田熊次郎	原田友作	有島武郎	鈴木敬策	井街顯	富益良一	若賀敏五郎	山形	山形	山形	山形	山形	山形
北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道

佐藤 六郎	池田 太郎	鹿兒島
井口 一郎	林 力太郎	北海道
鈴木 慶松	久保 隆三	香川
瀧 龍太郎	吉川 春治	北海道
野呂 莊次郎	内藤 乾造	北海道
若澤 達夫	關山 又一	北海道
池田 正記	結城 弘毅	北海道
藤井 欽吾	聯 暲平	北海道
森本 厚吉	平 暲平	北海道

○土木工學科生徒 (明治三十年八月三十一日)

廣 愛媛	池田 直次郎	東京
廣 福島	星野 四郎	北海道
吾 東京	鈴木 隆男	北海道
吾 千葉	長倉 春治	北海道
吾 千葉	安藤 喜左衛門	鹿兒島
吾 千葉	安齋 演治	北海道

農藝科 他 治 術 北海道人

土木工學科 伊藤 愛治 北海道人

鳥居 一 北海道人

○農藝傳習科 (明治三十年四月三十日)

第三年 生

藤原 鹿藏	本 田 親 英	北海道
右 田 孟 一	山 野 西 長 輝	東京
前 田 辛 作	永 田 長 三	北海道
増 本 豐 次	井 谷 上 巖 助	北海道
七 尾 貞 二 郎	南 正 重	北海道
關 米 三 郎	萩 原 寅 平	北海道
林 啓 治	野 村 有 隣	北海道
淺 田 真 治	田 寅 次 郎	北海道
注 川 孝 治	菅 原 治	北海道
安 井 孝 助		北海道

第一年生	桑原幸太郎	北海道	夏原律雄	北海道
	木村彦四郎	北海道	福原信一	東京
	關屋愛藏	北海道	村山朝一	長野
	相馬清之助	青森	山下政一	北海道
	小川宗明	北海道	今井勉次郎	北海道
	古田正三	北海道	長谷川俊敏	鳥取
	宇野仁三郎	北海道	河野義勝	北海道
	大佛脩一	北海道	小藤均	高知
	間宮光藏	北海道	細田成吾	北海道
	千田德吉	北海道		
本科學生	第三年生	三十八人		
	第二年生	三十八人		
	第一年生	四十三人		
土木工學科生徒	第一年生	二十九人		
農藝傳習科生徒	第一年生	十九人		
	第二年生	十九人		
	第三年生	十九人		
合計	學生	二百二十二人		
	生徒	五十九人		
	合計	二百八十一人		

○第十七章 學士及卒業生姓名

農學士

第一期 (明治十三年卒業) 印八死亡

荒川重彦	東京	佐藤昌介	北海道
大嶋正健	北海道	小野兼基	北海道
黒岩四方之進	北海道	渡瀬寅次郎	靜岡
内山静	北海道	佐藤一隆	北海道
田口捨六	高知	伊藤信之	石川
◎出田晴太郎	大分	◎中島信之	石川
柳本通義	北海道		
第二期 (明治十四年卒業)			
内村鑑三	群馬	宮部金吾	北海道
高木玉太郎	廣島	南鷹次郎	長崎
足立元太郎	北海道	新渡戸稻造	岩手
廣井勇	北海道	◎藤田九三郎	東京
岩崎行親	大阪	町村金彌	北海道

學士及卒業生姓名

第三期 (明治十五年卒業)

◎梅野四男 吉新 湯
 高岡直吉 島根
 小島喜作 靜岡
 赤壁次郎 石川
 久嶋重義 東京
 中根明 北海道
 尾泉良太郎 山形
 武藤亥三郎 滋賀
 諏訪鹿三 愛媛
 第四期 (明治十七年卒業)
 細川文五郎 岡山
 菊地熊太郎 岩手
 佐瀬辰三郎 北海道
 中根壽 北海道
 志賀重昂 愛知
 松永武雄 愛知

◎齋藤祥三郎 新潟

◎原田成貞 茨城
 大津和多利 宮城
 相山清利 千葉
 佐久間信恭 靜岡
 伊吹鎗造 京都
 堀宗一 北海道
 調所恒德 北海道
 鶴崎桑一 長崎
 福原鐵之輔 山口
 頭本元貞 島根
 渡瀬庄三郎 靜岡
 手嶋十郎 京都
 ◎岡文二 宮城
 ◎結城祥吾 福島

河村九淵 東京
 三増象吉 山口
 山下敬太郎 兵庫
 ◎第五期 (明治十八年卒業)

◎安岡傳次郎 高知
 本土源次郎 長崎
 野澤俊次郎 靜岡
 安田英吉 鳥取
 横田忠一郎 新潟
 下島幸吉 福嶋
 ◎第六期 (明治二十年卒業)
 谷千代太郎 島根
 ◎伊達直温 北海道
 石橋朗 東京
 柳内義之進 北海道
 中川太郎 山口
 ◎第七期 (明治二十一年卒業)

武信芳太郎 嶋根
 早川鐵治 岡山

◎山口莊三 兵庫
 ◎今外三郎 青森
 長谷川豐太郎 東京
 小野三郎 福井
 大町信宮 城
 渡邊勇太郎 大分
 友高善嗣 福井
 和田健三 長野
 水野喜太郎 北海道

平野保作 石川清由 松福井 藤村信吉 北海道
 清水由一 福岡 寺尾熊三 兵庫
 十川真治 岡山 兩角熊雄 熊本
 石川達三 東京 堀正太郎 嶋佐賀
 内村長一 群馬 川上八三 郎大分
 關口忠太郎 東京 岡元 輔宮城
 西川繁四郎 青森 池田政吉 鹿兒島
 木村武一郎 佐賀
 牟田武一郎 佐賀
 第八期 (明治二十二年卒業)
 ◎足立五郎 作靜岡 橋本左五郎 北海道
 瀨尾鍋吉 北海道 目黒末之 莖宮城
 赤羽雄一 長野 柳原 仲愛知
 ◎秋山長俊 北海道 長崎 常 北海道
 藤田經信 東京 中村鐵太郎 島根
 今村猛雄 北海道 横山壯治 郎 北海道
 長屋平太郎 北海道 井倉辛喜 知岐 阜

高橋 子郎 山崎 和太吉 福井
 藤谷 吉 春 岩手
 第九期 (明治十四年卒業)
 清水小郎 藏山日 山田 萬 東京
 池内徳孝 愛媛 星野和太郎 北海道
 宮崎興太郎 北海道 吉村喜一郎 北海道
 流井寅治 北海道 高田 真 北海道
 第十期 (明治二十五年卒業)
 村越銃之輔 北海道 角田敬司 北海道
 安田三彦 北海道 小倉延足 北海道
 田口於菟吉 東京 小田切榮三郎 北海道
 河原幸輔 山口 池田和吉 佐賀
 第十二期 (明治二十六年卒業)
 大嶋金太郎 北海道 出田 新大分
 松澤辰三郎 福岡 菊地 榊岩手
 鹿討豊太郎 岩手 沼田正直 東京
 河南休男 京都

小川 次郎 島根
 谷井 恭吉 和歌山
 須田 金之助 富山
 中野 徳一 福園
 第十二期 (明治二十七年卒業)
 山田 幸太郎 北海道
 尾見 五郎 北海道
 三摩 三策 岐阜
 末田 新松 北海道
 第十三期 (明治二十八年卒業)
 高岡 熊雄 北海道
 千石 與太郎 北海道
 齋藤 和福 井
 石井 小次郎 岩手
 萱丸 三郎 北海道
 西谷 清次郎 北海道
 第十四期 (明治二十九年卒業)
 伊藤 廣 岩手
 加藤 忠治 愛知
 近藤 仙吉 新潟
 黒澤 信良 岩手
 川上 謙三 新潟
 伊東 一二 北海道
 高橋 良直 北海道
 坂井 菊松 北海道
 黒澤 良平 宮城
 松村 松年 兵庫
 山口 萬男 東京

平塚 直治 北海道
 清水 元太郎 愛知
 大脇 正諄 北海道
 中村 友太郎 北海道
 吉野 得一郎 愛知
 岡田 虎輔 高知
 成田 軍平 北海道
 第十五期 (明治三十年卒業)
 時任 一彦 鹿兒島
 相澤 元太郎 北海道
 東條 秀介 山口
 小谷 武治 北海道
 芳賀 龜太郎 北海道
 菊地 土之助 茨城
 三輪 龍揚 熊本
 相馬 經治 青森
 梶内 壬五郎 北海道
 湯淺 中夫 北海道
 吉澤 誠造 長野
 星 祥之助 北海道
 加賀 林庄吉 北海道
 河田 惠治 北海道
 増田 貞吉 福岡
 藤田 昌熊 熊本
 菊池 幸次郎 青森
 林 宮橋 愛知
 宮地 利雄 北海道
 廣瀬 謙吉 香川
 齋藤 謙吉 青森
 鶴卷 恒太 新潟

工學士

第一期 (明治二十四年卒業)
 平野 他喜松 石川 岡崎 文吉 北海道
 第二期 (明治二十五年卒業)
 十川 嘉太郎 山口 小野 常治 岩手
 第三期 (明治二十六年卒業)
 遠武 勇 熊 鹿兒島 窪田 定次郎 北海道
 第四期 (明治二十七年卒業)
 河野 市次郎 岩手 坂岡 末太郎 青森
 第五期 (明治二十八年卒業)
 川江 秀夫 福岡 西條 健三郎 香川
 第六期 (明治二十九年卒業)
 太村 卓一 福井
 第七期 (明治三十年卒業)
 筒井 彌一 北海道 關山 良助 北海道
 今野 讓三郎 宮城 筒井 武東京
 兵學科別課卒業生
 ◎印ハ死亡

第一期 (明治三十三年三月卒業)
 小幡 彬 北海道 大塚 嘉輝 山口
 菊地 直人 福岡 石川 亥三 男 東京
 瀧岡 六郎 宮崎 新井 松四郎 埼玉
 澁田 見長 太福岡 小野 左司 馬 秋田
 難波 田憲 欽茨城 川上 親興 鹿兒島
 中井 角兵衛 和歌山 菊地 盡三 秋田
 指宿 近秋 鹿兒島 鈴木 元五郎 北海道
 鈴木 次郎 東京 並川 新吾 北海道
 永井 實英 宮崎 上山 杉憲一 栃木
 富田 貞賢 北海道 山田 貞助 北海道
 戸倉 龜太郎 北海道 金澤 文之助 青森
 藤田 與愛媛 飛鳥 井恒 磨 京都
 第二期 (明治二十五年三月卒業)
 笹沼 寅五郎 北海道 海江田 信哉 北海道
 牧野 清作 北海道 守谷 民治 北海道
 川田 矢逸 北海道 鈴木 元治 北海道

豫科卒業生

第一期

(明治二十年卒業)

◎印ハ死亡

小川	岩田喜太郎	北海道
白水	井上榮作	北海道
堰八主	川下元男	北海道
安孫子倫彦	天野孝太郎	北海道
村岸次郎	伊藤能道	北海道
松木清一郎	◎鈴木榮次郎	北海道
清水郁藏	鐸木近吉	福島
星野和太郎	唯是丙助	岩手
池内徳孝	小倉延足	北海道
小野常治	宮崎繁太郎	北海道
宮崎太郎	吉村喜一郎	北海道
高田小十郎	荒井寅治	北海道
第二期	村越銃之助	北海道
(明治二十一年卒業)	十川嘉太郎	山口
安士兼三		
菊池捍岩手		

◎毛呂昌安

群馬

角田啓司

安田彦

鹿兒島

小田切榮三郎

河原丑輔

山口

田口於菟吉

池田和吉

佐賀

出田新大分

第三期

(明治二十二年卒業)

遠武勇熊

鹿兒島

味岡三六

窪田定次郎

岐阜

松澤辰三郎

大嶋金太郎

北海道

沼田正直

藤村誠太郎

山口

川南休男

庄司力松

北海道

小川次郎

友野巳之助

長野

五嶋午吉

上村熊次郎

北海道

伊藤廣幾

鹿討豊太郎

岩手

谷井恭吉

和歌山

第四期

(明治二十三年卒業)

河野市次郎

岩手

尾見五郎

坂岡末太郎

青森

黒澤信良

三摩三策岐阜	藤田環	北海道
川上謙三郎新潟	末田新松	北海道
山田幸太郎北海道	伊藤新一	北海道
大塚藤十郎北海道	柳井道次郎山口	
第五期 (明治二十四年卒業)		
川江秀夫福岡	高岡熊雄	根
黒澤良平宮城	松村松年	兵庫
高橋良直北海道	齊藤和	福井
坂井菊松北海道	西谷清次郎	茨城
山口萬男東京	增田貞吉	福岡
加賀林庄吉滋賀	星野範三郎	新潟
千石興太郎北海道	萱場三郎	北海道
石井小太郎岩手		
第六期 (明治二十五年卒業)		
大村卓一福井	清水元太郎	愛知
枋内壬五郎北海道	平塚直次郎	北海道
吉澤誠造長野	中村友太郎	北海道

前田清哉	筒井彌一	北海道
成田軍平	吉野得一郎	愛知
星祥之助	筒井新太郎	東京
西條健三郎香川	湯淺中夫	北海道
堀翁之助	菊地土之助	茨城
大脇正諄	今野讓三郎	宮城
宮地利雄	鶴卷恒太郎	新潟
山田秀雄	河田惠治	北海道
岡田虎輔	相馬經治	青森
第七期 (明治二十六年卒業)		
時任一彦	金田信吉	北海道
東條秀助	小谷武治	北海道
藤田昌熊	三輪龍揚	熊本
堀經三郎	北濱孫太郎	北海道
廣瀬三郎	相澤元太郎	北海道
菊地幸次郎	林澤元宮橋	愛知
齋藤謙吉	芳賀龜太郎	北海道

第八期 (明治二十七年卒業)

山田 玄太郎 山形
 小川 運平 石川
 河村 榮藏 北海道
 佐々 茂雄 北海道
 平山 八十五郎 東京
 高橋 安太郎 東京
 辻 重忠 高知
 杉山 乙次郎 神奈川
 加藤 銈藏 北海道
 泉 哲 北海道
 大山 利秀 鹿兒島

第九期 (明治二十八年卒業)

安藤 幾三郎 北海道
 西垣 恆矩 京都
 笠原 十司 長野
 牧野 環 北海道

◎伊藤 肇 熊本
 馬場 才吉 鹿兒島
 大槻 由己 福島
 日高 胖 北海道
 湯地 定彦 鹿兒島
 篠崎 真秀 鹿兒島
 石橋 三郎 宮城
 戸津 高知 宮城
 名越 正助 鹿兒島
 江藤 修敬 熊本
 狛 鐵之助 岐阜
 湯淺 正夫 北海道
 大野 悅太郎 北海道
 中尾 雜藏 鳥取

岩谷 讓吉 北海道
 仁木 信雄 北海道
 湯地 定治 鹿兒島
 森 廣 北海道
 荒尾 光雄 熊本
 大川 石松 靜岡
 飯塚 幸次郎 群馬
 菊地 謹也 北海道
 後藤 鐵藏 福島
 仲谷 馬太郎 大坂
 池野 傳吉 北海道
 佐藤 昌 北海道

第十期 (明治二十九年卒業)

伊藤 清藏 北海道
 神田 勝玄 北海道
 角田 啓五郎 北海道
 平澤 真 北海道

奈良 淨 北海道
 西田 藤次 東京
 若林 功 北海道
 江原 帶一 靜岡
 大久保 七熊 北海道
 遠藤 万藏 新潟
 土肥 竹次郎 北海道
 安達 幸次郎 北海道
 菅 菊太 愛媛
 齋藤 角太 宮崎
 攝待 初郎 岩手
 小黒 寅治 新潟
 結城 庄八 北海道
 廣瀬 潤平 北海道
 長嶺 林三郎 福島

吉田 碩藏 北海道	小田代 慶太郎 北海道
竹崎 八十雄 熊本	湯田 勝治 北海道
百瀬 葉千助 北海道	中村 由太郎 北海道
草場 榮喜佐賀	川上 瀧彌 北海道
渡邊 太郎 北海道	本多 敏樹 東京
中目 敬治 宮城	櫻田 廣治 秋田
永山 盛良 北海道	河田 力 北海道
梁山 斌夫 北海道	對島 熊雄 北海道
伊東 祐夫 北海道	高野 定治 北海道
西川 光次郎 兵庫	井上 熊作 福島
齋藤 永治 宮城	清野 潔宮城
伊達 直知 東京	黑田 實熊 本
第十一期 (明治三十年卒業)	
星野 純逸 青森	星野 勇三 山形
早川 万一 宮城	渡邊 重策 新潟
佐藤 政次郎 岩手	和田 伊之助 北海道
半澤 洵 北海道	鈴木 眞吉 東京

農藝傳習科卒業生(甲) (明治三十一年) 印私費生 (印) 死亡

船三 逸作 新潟	豐田 熊次郎 群馬
東海 林芳藏 北海道	原田 武友作 青森
野田 重徳 京都	鈴木 敬策 北海道
岩間 榮次郎 北海道	井上 街一 山形
木村 徳藏 宮城	富益 良一 長崎
崎崎 知次郎 北海道	芳賀 鉄五郎 山形
町井 正路 北海道	佐藤 六郎 北海道
池田 末郎 鹿兒島	井口 爲二 京都
林川 力藏 山形	鈴木 慶樹 北海道
久保 隆三 香川	龍岡 慶 岡山
内藤 乾造 愛知	野呂 莊次郎 秋田
關田 又二 北海道	石澤 達夫 岩手
結城 弘毅 福島	池井 正一 記 高知
幹山 量平 北海道	藤井 欽吾 北海道
	森本 厚吉 北海道

第一期(甲) (明治二十二年三月卒業)

平山龍造	横田勇	鍛吉	北海道
大島鍛	上田勇	吉	北海道
上田半二郎	北村外二郎	新	北海道
鹿討甚之助	早川範五郎	新	北海道
村上儀助	金子善之助	琦玉	北海道
山室朝行	織田恭也	北海道	
松川淺次郎	坂半之助	愛知	
千葉勘彌	小橋岩太郎	宮城	
塚田三郎	楠本敏吉	北海道	
林元太郎	文屋延一	北海道	
久慈市太郎	木村東次郎	北海道	
瀧澤重華	石垣金一郎	新潟	
毛利俊山口			
第一期(乙) (明治二十三年三月卒業)	今井與三郎	北海道	
栗澤耕平	野村實太郎	北海道	
從二運藏			

木村淺藏	周田彌一	北海道
平澤利作	松本竹三郎	北海道
江幸太郎	佐々木新兵衛	秋田
橋志賀藏	藤田健次郎	北海道
國分茂八	森壽三郎	山形
高橋莊治	金田三太郎	北海道
早川理八郎	山本金藏	北海道
阿部常次郎	德力十次郎	北海道
江守作馬	宮島鈺次郎	北海道
第二期 (明治三十三年三月卒業)		
上野德三郎	永倉製蓑太郎	北海道
小田代源太郎	篠田繁太郎	北海道
家喜利惣右衛門	松本松三郎	北海道
佐藤牧太郎	大堀信治	北海道
和久山五郎	小河龜次郎	千葉
茂木虎徹	雨夜金二郎	北海道
夏堀初次郎	上野玄生	北海道

齋藤 藤次郎	天	北海道	安藤 圓次郎	北海道
小川 爲三郎	北海道	佐々木 仁太郎	北海道	
和賀 金次郎	北海道	山田 爲三郎	北海道	
村岸 三三郎	北海道			
第三期 (明治三十四年三月卒業)				
福川 儀七郎	山口	平野 富久藏	秋田	
齋藤 馬之助	北海道	◎門馬 梯明	北海道	
遠藤 藤治	北海道	町田 熊一郎	北海道	
三宅 輔	北海道	高木 釜三郎	北海道	
花房 傳次郎	北海道	竹谷 武英	城	
山邊 得三郎	北海道	淺野 静	北海道	
内田 文三郎	東京	庄司 瑞瑛	北海道	
和知 新三郎	山口	神三 千郎	北海道	
船 佐文之助	鹿兒島	豐田 勝三郎	北海道	
佐藤 幸季司	北海道	白石 眞澄	北海道	
有本 龜之助	北海道	岸田 三男	北海道	
石井 徳憲	北海道			

第四期 (明治三十五年五月卒業)				
秋山 三礼	北海道	鈴木 吉正	北海道	
三品 英雄	北海道	中嶋 理一	北海道	
湯下 淺	北海道	田中 熊一	北海道	
泉 崎平	北海道	市川 權太郎	北海道	
黒川 大榮次郎	北海道	泉崎 征吉	北海道	
藤田 清作	北海道	山田 俊次郎	北海道	
●竹田 忠治	北海道	長野 甲義直	北海道	
●對馬 雄一	北海道	末松 登	北海道	
石川 寛	北海道	福井 榮太郎	北海道	
石原 重樸	北海道	佐藤 信輔	北海道	
●青田 竹	北海道	山崎 春江	北海道	
●西東 終	北海道	山崎 春江	北海道	
第五期 (明治三十六年三月卒業)				
内藤 徳栄郎	北海道	茅原 次六	北海道	
高野 力彌	北海道	依田 毅太郎	北海道	
本郷 敏慎	北海道	井上 順一郎	北海道	

小岸 存 紅 北海道	山本 鶴 松 北海道
佐瀬 成 光 北海道	若米地 金太郎 北海道
大西 伴 次 北海道	舟橋 三 入 北海道
●小島 小 (次郎) 群馬 日卒業	●石原 昌 助 北海道
●小島 忠 藏 青森	●山下 昌 之 進 鹿兒島
●第六期 (明治三十七年三月卒業)	富田 檢 西 北海道
長澤 重 孝 北海道	新谷 榮 忠 次 北海道
庄田 萬 里 北海道	大山 達 三 北海道
佐藤 修 次 北海道	大木 甲 太郎 北海道
●仁科 遠 平 北海道	高木 克 昌 北海道
立林 朝 吉 北海道	鎌田 春 司 北海道
甲斐沼 大 榮 太郎 北海道	市川 春 太 北海道
●大河 平 英 熊 北海道	市川 中 一 北海道
●第七期 (明治三十八年三月卒業)	河野 吉 五 郎 北海道
田村 兼 藏 北海道	坂本 吉 一 郎 北海道
河野 三 虎 市 北海道	今井 旗 一 郎 北海道
石川 山 重 孝 市 北海道	

中村 新 幸 郎 北海道	西澤 讓 次 郎 北海道
黒川 在 岩 清 北海道	中島 彦 次 郎 北海道
藤本 重 太郎 北海道	工藤 勇 吉 秋田
横井 豊 時 榮 愛 知	福井 寛 三 北海道
松原 憲 治 北海道	止田 頼 三 北海道
藤山 胖 次 郎 北海道	小宮 山 次 郎 北海道
山本 唯 三 郎 北海道	
●第八期 (明治三十九年三月卒業)	大野 原 繁 北海道
三浦 竹 次 郎 北海道	伊藤 深 松 北海道
中道 富 太郎 北海道	山口 保 三 郎 北海道
奥井 博 治 北海道	大澤 金 吾 北海道
前田 香 穂 北海道	若松 常 助 北海道
佐藤 義 元 北海道	佐藤 義 因 北海道
但米 義 雄 北海道	横井 音 次 郎 北海道
堀田 義 次 郎 北海道	嬉野 松 太郎 北海道
平尾 嘉 太郎 福三岡卒業	北野 美 之 助 北海道
島川 喜 二 八 北海道	渡邊 孝 一 北海道

有川 熊喜二 郎 鹿兒島	中 井 興 一 東 京
第九期 (明治三十三年三月卒業)	波 邊 昌 士 北 海 道
窪 田 森 太 郎 北 海 道	石 田 昌 昌 人 北 海 道
宮 嶋 信 太 郎 北 海 道	井 關 信 之 助 北 海 道
吉 川 銀 之 丞 北 海 道	辻 村 高 造 北 海 道
吉 植 庄 三 北 海 道	遊 佐 安 治 北 海 道
安 藤 利 往 北 海 道	駒 崎 喜 久 男 北 海 道
山 田 太 夫 郎 北 海 道	後 藤 安 治 香 川
藤 鶴 洋 貞 雄 北 海 道	大 河 原 幾 馬 北 海 道
郷 八 田 (海防分十北海道具卒業)	盛 見 魁 之 北 海 道
石 井 邦 彦 一 郎 北 海 道	石 川 山 五 郎 北 海 道
佐 治 善 六 郎 北 海 道	津 田 豊 北 海 道
三 瀬 翼 若 夢 鶴 鏡	藤 井 共 百 九 十 人
農 業 科 學 生 計	工 業 科 學 生 計
本 校 大 學 生 計	中 島 登 西 十 二 人
農 學 科 別 課 卒 業 生 計	西 島 登 西 十 二 人
中 林 豫 科 卒 業 生 計	西 島 登 西 十 二 人

農藝傳習科卒業生

二百四十八
六百八十二人

○第十八章 圖書館

本館ハ構内ニアリ館内ヲ書庫・閱覽室、事務室ノ三區ニ分ツ現今所藏ノ圖書ハ和漢洋
 合計ニ万九千七百三十六冊並ニ圖類六百二十四冊(二十九年十二月末日調)アリ又毎年
 購入寄贈等ニ依リ内外ヨリ得ル所ノ圖書其數尠カラズ(本館ノ規程ハ本校々則第十六
 章ニ掲記ス)

○第十九章 化學教室

本教室ハ本校構内ニアリ明治十年八月ノ建設ニシテ二層ノ構造ナリ本室ハ専ラ普通化
 學及農藝化學等ヲ教授シ農工業等ニ適切ノ關係アルモノヲ分拆シ其成分品質ヲ詳究シ
 學生ヲシテ實地ニ就キ攻究セシムル所トス又本道ノ産物ニシテ殖産上特ニ有益ナリト
 認ムルモノハ時宜ニ依リ人民ノ依頼ニ應シ分拆ヲ爲シ是レカ説明ヲ與フルコトアルベシ
 室内ヲ講議室、學生實驗室、研究室、秤量室及教官室等ニ區別セリ

○第二十章 解剖室

本室ハ構内北講堂ノ后ニアリ本科學生及農藝傳習科生徒ヲシテ家畜、家禽等ノ解剖及治療法ヲ實習セシムル所トス又馬豚鷄等ニ普通ノ外科ヲ施シ尋テ之ヲ屠殺シ其屍骸ヲ解剖實習ノ用ニ供セリ室内ヲ二區ニ分チ一ヲ解剖室一ヲ生理學及動物學教授用ノ材料ヲ藏置スル所トナス

○第二十一章 植物標品室

本室ハ構内植物學教室ニ隣接ノ一室ヲ以テ之レニ充テ專ラ本道所産植物ノ標品ヲ蒐集保存シ以テ教授上ノ参考及本道植物調査ノ料ニ供ス本校植物學主任教官多年採集ニ從事シ現ニ貯藏スル標本ノ數ハ一万二千四百八十点トス(二十九年十二月末日調)

○第二十二章 植物園

本園ハ札幌區北二條ヨリ北五條ニ跨リ西八丁目ヨリ西十一丁目ニ至リ其面積三万四千八百二坪餘川流池水ノ面積ヲ除ク有ス本園ハ專ラ本道所産ノ植物及内外ノ種類ヲ汎ク蒐集栽培シ其分類所屬ヲ明ニシ植物學實地教授用並ニ研究ノ料ニ供スルノミナラス本道ノ風土

ニ適否ヲ試験シ以テ本道ノ園藝又ハ造林上ニ裨益セントスルニアリ園内ヲ自然分科園樹木園、灌木園、試験園及温室附屬園ノ五區ニ分割ス

温室ハ專ラ暖國産ノ植物ヲ培養シ冬期間植物學研究ノ材料ニ供シ又植物生理ノ實驗場トス

現今本園内ニ蒐集培養スル植物ノ種類ハ内外ノ産ヲ合計シ大凡一千百余种ナリトス

(二十九年十二月末日調)

○第二十三章 博物館

本館ハ植物園内ニ在リテ二層ノ構造ナリ階上階下トモ陳列場ニ充テ本道所産ノ動、植、礦及本道「アイヌ」人ノ製造ニ關スル各種ノ諸器物ヲ蒐集シ以テ學生研究上ノ用ニ供スルヲ以テ目的トスト雖モ又本道産ノ概況ヲ窺知セシメンカ爲メニ日時ヲ限リ衆庶ノ縦覽ヲ許セリ現今貯藏標本數ヲ合計スルトキハ一万一千二百三十二点ナリ之レヲ大別シテ天産部、勸業部、史傳部及圖書寫真ノ四門トス本館ハ札幌區内最モ幽邃閑雅ノ地ニ在リテ夏期間衆庶競フテ縦覽シ恰モ一ノ小公園タルノ觀アリ明治二十九年申參觀人ノ

合計ハ三万三千三十五人ニシテ此開館日數六十七日一日平均四百六十七人餘之レヲ前年ニ比スレハ一日百四十七人餘ノ増加ヲナセリ

○第二十四章 土地

本校維持資金ニ屬スル土地ノ總面積ハ一千七百六十六万五千三百八十坪ニ合六六タニシテ其所用ヲ區別スレハ本校敷地、官舎敷地、植物園地及農場トス本校ノ農場ハ之レヲ八ヶ所ニ區畫ス而シテ其第一農場ハ専ラ學生々徒ノ實習並ニ各種ノ試験場ニ充ツ第二農場ハ歐米ノ農業法ニ則リ牧畜、耕作ノ業ヲ専ラトシ北海道ニ於ケル大農ノ適否如何ヲ極メ以テ本道農界ノ模範トナセリ第三、第四、第五、第六、第七及第八農場ハ専ラ本校土地貸下規程ニ據リ小作農場トナスヲ以テ目的トセリ

第一農場ハ本校學生々徒實地ノ演習場トナスヲ以テ之レヲ左ノ數區ニ分ツ

- 水田 試験園 特有作物園 蔬菜園 果樹園
- 生徒試作園 牧草試作園 植物標本園 普通耕作園 普通牧草地
- 放牧地

一水田 ハ普通、試験ノ二トシ試験田ハ種類、肥料、距離、本數、直播、移植、季節等ニシテ普通田ハ學生々徒ニ實地耕作法ヲ演習スル所トス

一試験園 ハ穀菽、蔬菜、雜用作物等ヲ栽培シ各種ノ試験ヲ行ヒ而シテ其結果ヲ公ニシ以テ本道農業ノ進歩ヲ謀ルニアリ

一特有作物園 ハ大麻、亞麻、苧麻、苧麻、甜菜、蕓苔等ノ耕作ニ關スル試験ヲ行フ所トス

一蔬菜園 ハ主トシテ蔬菜類ヲ栽培シ傍ラ穀菽類ヲ播種シ専ラ農藝傳習科生徒ヲシテ之レカ栽培ニ從事セシメ小農的栽培法ヲ練習シ且ツ播種ノ方法ヲ併習セシムル所トス

一生徒試作園 ハ耕地五町歩ヲ區畫シ大農的組織トシ農藝傳習科第二年生ヲシテ之レヲ担当セシメ耕作收納ノ方法ヨリ収支之決算ニ至ルマテ該生徒ヲシテ之レヲ掌ラシメ農場經營上之方法ヲ實地ニ練習シ他日ノ參考ニ便ナラシムル所トス

一果樹園 ハ本道ニ適スル各種ノ果樹類ヲ栽培シ學生々徒ニ之レカ栽培蕃殖ノ方法ヲ

實習シ且ツ各種ノ試験ヲ行ヒ其結果ヲ世ニ公ニシ以テ北海道果樹栽培ノ發達
進歩ヲ計ルニアリ

一牧草試作園 ハ内外各種ノ牧草ヲ栽培シ而シテ其適否收量等ヲ實驗スルニアリ

一植物標本園 ハ各種ノ植物ヲ栽培シ學生々徒ヲシテ之レカ性質及栽培ノ方法ヲ實習
セシム

セシム

一普通耕作園 ハ本道普通ノ作物ヲ栽培シ學生々徒ヲシテ其栽培收穫ノ方法及ヒ馬力

農具等ノ運用法ヲ練習セシムル所トス

一普通牧草地 ハ家畜ノ飼料ニ供スル乾草ヲ収ムルヲ以テ目的トス

一放牧地 ハ夏期牛馬及綿羊ヲ牧養シ而シテ其放牧方法ヲ學生々徒ニ實習セシムル所
トス

○第二十五章 資金

土地 (明治三十年三月三十一日調)

所 用 所 在 地 地 積 價 格

本校 敷地	石狩國札幌區北一條西二丁目	三、六二四、〇〇〇	二、四五二、三三〇
本校官舎敷地	同上 上北三條西二丁目	三、六〇〇、〇〇〇	八三七、〇〇〇
植物園敷地	同上 上北二條ヨリ西八丁目ヨリ 四條マテ西十丁目マテ	三四、八二七、一〇〇	一、一六五、九八〇
第一農場敷地	同上 北五條西十二丁目	二七九、〇三六、三〇〇	九、二七六、一五二
第二農場敷地	同上 北七條西二丁目	四九四、三五二、〇〇〇	四四、三一、五七六
第三農場敷地	同上 北八條西八丁目ヨリ 北七條西二丁目マテ	九五三、三四二、〇〇〇	一九、六九六、六八九
第四農場敷地	同上 札幌郡平岸村字レツレツ	一、九四二、八四二、〇〇〇	六〇、九五、二二四
第五農場敷地	同上 夕張郡角田村字ウエンベツ	一、五二〇、〇〇〇、〇〇〇	二、二八〇、〇〇〇
第六農場敷地	同上 同郡登川村字アノロ	二、一四〇、二〇〇、〇〇〇	三、二二〇、〇〇〇
第七農場敷地	渡島國龜田郡大中山村	一七三、六六二、五〇〇	三、二一九、三三九
第八農場敷地	石狩國空知郡字フラヌ	一〇、一一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、一一〇、〇〇〇
合計		一七六、五三六、〇三〇	一〇、一七六、五三三

○建物

區 別 建 坪 價 格

資金

百六十七

本 校	二、六三〇、一七二
實 驗	一、三三六、八七〇
合 計	三、九六七、〇四二
本 校	三六、九五二、九一七
實 驗	六、七三三、〇〇〇
合 計	四三、六九〇、九一七

○有價証券券

種 別	數	量	金	類
公 債		一六	一六	一、五〇〇、〇〇〇
計 書		一六	一六	一、五〇〇、〇〇〇
合 計		三二	三二	三、〇〇〇、〇〇〇

○第二十六章 動物

家畜類ハ經濟用ト試驗用ノ二種ニ分チ經濟用ハ搾乳ヲ主トシ試驗用ハ内外各種ヲ飼養シ學生々徒ヲシテ其蕃殖、飼養、攝生及管理法等ヲ攻究セシムルニアリ其家畜類ノ名稱數量ヲ舉クレハ左ノ如シ(明治三十年三月三十一日調)

名	稱	數	量	名	稱	數	量
牛	稱	數	量	牛	稱	數	量
一	二	二	二	一	二	二	二
馬	稱	數	量	馬	稱	數	量
二	九	二	九	二	九	二	九

兔	鷺	吐	綿	牡
二	三	一	一	五
〇	七	四	〇	二
山	家	豚	牝	
二	三	一	一	
五	七	四	〇	
羊	鷄	馬		
一	一	二		
〇	八	八		

○第二十七章 附表

(一)學生々徒道廳府縣別人員表 (明治三十年四月末日調)

廳府縣	學生々徒	農學科	工學科	豫科	農藝傳習科	計
北海道	四三					四三
東京都	一四					一四
大阪府	一					一
京都府	一					一
神戶市	一					一
兵庫縣	一					一
奈良縣	三					三
新長	三					三
計	八七					八七

熊佐大福高愛香徳和山廣岡島鳥富石福秋

歌

本賀分岡知媛川島山口島山根取山川井田

六 一 | | 二 一 一 | | 一 | | | 一 | 一 | 一 |

| | | 一 | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | 一 一 | 一 | | 二 | | | | | | | | 一 |

| | | 一 | | | | 一 | | | 一 | | | | 二 |

六 一 | 二 四 一 二 | | 四 | | | 二 | 一 | 四 |

百七十一

山青岩福宮長岐滋山静愛三奈朽茨千群埼

形森手島城野阜賀梨岡知重良木城葉馬玉

一 三 一 四 四 一 一 一 | 二 一 | | | 一 | 一 |

| | | 一 | | | | | | | | | | | | | | | |

三 二 二 | 二 | | | | | 一 | | | | | 一 |

| 一 | | | 一 | | | | | | | | | | | | | |

四 六 三 四 七 二 一 一 | 二 二 | | | 一 | 二 |

百七十

宮	鹿	沖
兒	崎	繩
計		
	九七	六一
	四	一一一
	四〇	一二一
	三八	一一一
	一七九	一八一

(二) 農、工學士職業別表 (明治二十九年十二月末日調)

職業	第一期	第二期	第三期	第四期	第五期	第六期	第七期	第八期	第九期	第十期	第十一期	第十二期	計
文官	四	三	三	一	二	一	一	四	一	一	一	一	一
技官	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
專門技師	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
校長及教員	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
師範學校教員	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
實業	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
著述	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
留學及研究生	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
未詳	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
死亡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	二一〇	一八一	二七二	九一七	一七	二七	八一	一五	二七	一一	一四	一七	二五

(三) 農藝傳習科卒業生職業別表 (明治二十九年十二月末日調)

職業	第一期	第二期	第三期	第四期	第五期	第六期	第七期	第八期	計
農	一〇	八	〇	〇	八	八	九	一	三三
吏員	五	六	一	一	一	一	一	一	一七
獸醫及蹄鐵工	二	二	一	一	一	一	一	一	一〇
教員	一	一	一	一	一	一	一	一	一
轉業	一	一	一	一	一	一	一	一	一
外國	一	一	一	一	一	一	一	一	一
雜業	一	一	一	一	一	一	一	一	一
不詳	四	三	一	一	一	一	一	一	一
計	二一〇	一八一	二七二	九一七	一七	二七	八一	一五	二七

(四) 卒業生學科及年別表 (明治三十年七月三十一日調)

學科	年次										計	
	明治 四年	明治 五年	明治 六年	明治 七年	明治 八年	明治 九年	明治 十年	明治 十一年	明治 十二年	明治 十三年		
農學科	三											
工學科	〇											
豫學科	八											
兵學科	一											
農藝傳習科	七											
計	三	〇	八	一	七	三	一	二	二	七	五	六

農學科
 工學科
 豫學科
 兵學科
 農藝傳習科

明治四年
 明治五年
 明治六年
 明治七年
 明治八年
 明治九年
 明治十年
 明治十一年
 明治十二年
 明治十三年

計

札幌農學校所屬農場一覽

農 場 員		經 費		積 積		地 地		動 物		物 建		小 作 員	
第一農場	第二農場	第三農場	第四農場	第五農場	第六農場	第七農場	合計	官 舍	建 家	合 計	官 舍	建 家	戶 數
六、四〇一、三三三	四、四四三、一五〇	七、四五、九三五	七、六、三八五	一、五四、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	九三〇、一〇六、二二二	三	二五	九三〇、一〇六、二二二	三	二五	八
五、四、八、九、七、二、一、七、八、三、一、八、五	二、八、九、三、〇、六	一、九、四、五、一、六	二、四、〇、〇、〇、〇	三、四、〇、〇、〇、〇	三、四、〇、〇、〇、〇	三、四、〇、〇、〇、〇	一、六、四、七、八、一、一	六	三三	一、六、四、七、八、一、一	六	三三	七
八、二、三、〇、四、三、六、八、八、二、八、五、二、〇〇	八、二、三、〇、四、三、六、八、八、二、八、五、二、〇〇	八、二、三、〇、四、三、六、八、八、二、八、五、二、〇〇	八、二、三、〇、四、三、六、八、八、二、八、五、二、〇〇	八、二、三、〇、四、三、六、八、八、二、八、五、二、〇〇	八、二、三、〇、四、三、六、八、八、二、八、五、二、〇〇	八、二、三、〇、四、三、六、八、八、二、八、五、二、〇〇	三、一、二、七、七、四、三、六、四、七、六、一、三	一	七	三、一、二、七、七、四、三、六、四、七、六、一、三	一	七	四
二、四、〇、〇、〇、〇	二、四、〇、〇、〇、〇	二、四、〇、〇、〇、〇	二、四、〇、〇、〇、〇	二、四、〇、〇、〇、〇	二、四、〇、〇、〇、〇	二、四、〇、〇、〇、〇	二、三、七、二、〇	一	二	二、三、七、二、〇	一	二	三
一、五、四、〇、〇、〇	一、五、四、〇、〇、〇	一、五、四、〇、〇、〇	一、五、四、〇、〇、〇	一、五、四、〇、〇、〇	一、五、四、〇、〇、〇	一、五、四、〇、〇、〇	五、〇、〇、六、六、一、〇	五、〇、〇、六、六、一、〇
二、〇〇、〇〇〇	二、〇〇、〇〇〇	二、〇〇、〇〇〇	二、〇〇、〇〇〇	二、〇〇、〇〇〇	二、〇〇、〇〇〇	二、〇〇、〇〇〇	七、一、三、四、〇、〇〇	七、一、三、四、〇、〇〇
...	五、六、五、〇〇	五、六、五、〇〇
...	四〇、九二〇	四〇、九二〇

所屬農場一覽表

(明治三十年四月一日調)

種目	五 書記兼勤二 事業手 一一 合計 二〇					果樹 (第一農場)	種類	本、株、數、及反別
	農場	第五農場	第六農場	第七農場	第八農場			
合 計	五、七、〇〇〇	一、〇、〇〇〇	一、〇、〇〇〇	一、〇、〇〇〇	一、〇、〇〇〇
水 稻
大 麥
小 麥
燕 麥
玉 蜀黍
蕎 麥
大 豆
小 豆
菜 豆
馬 鈴薯
胡 蘿蔔
黍 菜
甘 藍
燕 青
南 瓜
亞 麻
雲 蓆
牧 草
青 刈玉蜀黍
採 種物
牧 草種子
試驗作物
試驗水田
蔬 菜園
果 樹園
放 牧地
合 計

耕作反別 明治二十九年作付反別

種目	第一農場	第二農場	第三農場	第四農場	合計
水 稻	五、一〇〇、〇〇	五、一〇〇、〇〇
大 麥	六、〇〇〇、〇〇	六、〇〇〇、〇〇
小 麥	四、五〇〇、〇〇	四、五〇〇、〇〇
燕 麥	三、三〇〇、〇〇	三、三〇〇、〇〇
玉 蜀黍	六、五〇〇、〇〇	六、五〇〇、〇〇
蕎 麥	一、四〇〇、〇〇	一、四〇〇、〇〇
大 豆	一、五〇〇、〇〇	一、五〇〇、〇〇
小 豆	一、〇〇〇、〇〇	一、〇〇〇、〇〇
菜 豆	三、〇〇〇、〇〇	三、〇〇〇、〇〇
馬 鈴薯	九、〇〇〇、〇〇	九、〇〇〇、〇〇
胡 蘿蔔	四、〇〇〇、〇〇	四、〇〇〇、〇〇
黍 菜	一、〇〇〇、〇〇	一、〇〇〇、〇〇
甘 藍	一、一〇〇、〇〇	一、一〇〇、〇〇
燕 青	一、五〇〇、〇〇	一、五〇〇、〇〇
南 瓜	三、〇〇〇、〇〇	三、〇〇〇、〇〇
亞 麻	二、一〇〇、〇〇	二、一〇〇、〇〇
雲 蓆	二、一〇〇、〇〇	二、一〇〇、〇〇
牧 草	二、六〇〇、〇〇	二、六〇〇、〇〇
青 刈玉蜀黍	三、〇〇〇、〇〇	三、〇〇〇、〇〇
採 種物	七、〇〇〇、〇〇	七、〇〇〇、〇〇
牧 草種子	一、一〇〇、〇〇	一、一〇〇、〇〇
試驗作物	八、一〇〇、〇〇	八、一〇〇、〇〇
試驗水田	二、四〇〇、〇〇	二、四〇〇、〇〇
蔬 菜園	四、八〇〇、〇〇	四、八〇〇、〇〇
果 樹園	一、五〇〇、〇〇	一、五〇〇、〇〇
放 牧地	八、九〇〇、〇〇	八、九〇〇、〇〇
合 計	五、七、〇〇〇、〇〇	五、七、〇〇〇、〇〇

明治三十年十一月二十四日印刷
明治三十年十一月二十六日發行

(非賣)

札幌農學校

印刷者

北海道石狩國札幌區南二條西六丁目四番地
山藤活版所

山藤敬助

札幌農學校一覽

自明治三十年
至明治三十二年

札幌農學校

札幌農學校

自明治三十年
自明治三十一年

第一章

第一條 本校以培養農學專門人才為宗旨

第二章

第二條 本校之組織及學制由本章程定之

第三章

第三條 本校之經費由國家及地方補助之

第四章

第四條 本校之校務由校長統籌辦理

第五章

第五條 本校之學生由各省直轄學校及各省

第六章

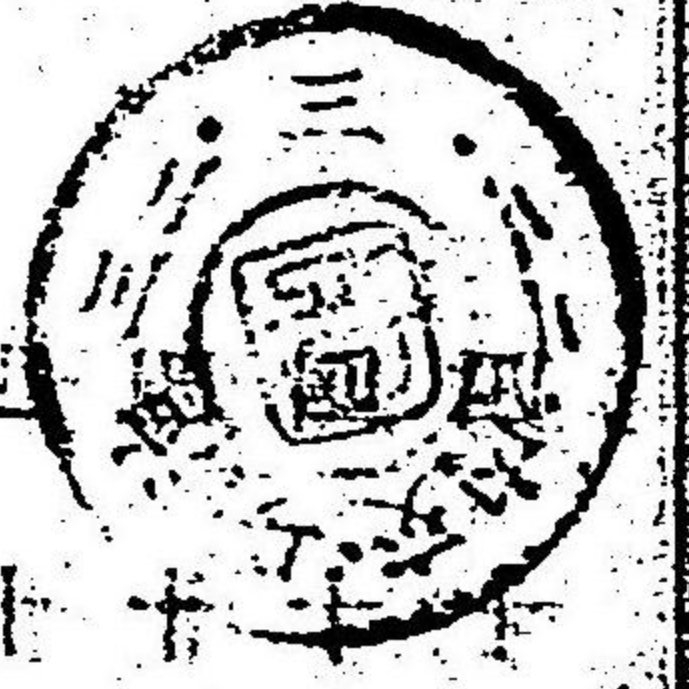
第六條 本校之學費由國家及地方補助之

第七章

第七條 本校之學期及休業規程

第八章

第八條 本校之入學及退學規程



第一章	三
第二章	四
第三章	五
第四章	六
第五章	七
第六章	八
第七章	九
第八章	十
第九章	十一
第十章	十二
第十一章	十三
第十二章	十四
第十三章	十五
第十四章	十六
第十五章	十七
第十六章	十八
第十七章	十九
第十八章	二十
第十九章	二十一
第二十章	二十二
第二十一章	二十三
第二十二章	二十四
第二十三章	二十五
第二十四章	二十六
第二十五章	二十七
第二十六章	二十八
第二十七章	二十九
第二十八章	三十
第二十九章	三十一
第三十章	三十二
第三十一章	三十三
第三十二章	三十四
第三十三章	三十五
第三十四章	三十六
第三十五章	三十七
第三十六章	三十八
第三十七章	三十九
第三十八章	四十
第三十九章	四十一
第四十章	四十二
第四十一章	四十三
第四十二章	四十四
第四十三章	四十五
第四十四章	四十六
第四十五章	四十七
第四十六章	四十八
第四十七章	四十九
第四十八章	五十
第四十九章	五十一
第五十章	五十二
第五十一章	五十三
第五十二章	五十四
第五十三章	五十五
第五十四章	五十六
第五十五章	五十七
第五十六章	五十八
第五十七章	五十九
第五十八章	六十
第五十九章	六十一
第六十章	六十二
第六十一章	六十三
第六十二章	六十四
第六十三章	六十五
第六十四章	六十六
第六十五章	六十七
第六十六章	六十八
第六十七章	六十九
第六十八章	七十
第六十九章	七十一
第七十章	七十二
第七十一章	七十三
第七十二章	七十四
第七十三章	七十五
第七十四章	七十六
第七十五章	七十七
第七十六章	七十八
第七十七章	七十九
第七十八章	八十
第七十九章	八十一
第八十章	八十二
第八十一章	八十三
第八十二章	八十四
第八十三章	八十五
第八十四章	八十六
第八十五章	八十七
第八十六章	八十八
第八十七章	八十九
第八十八章	九十
第八十九章	九十一
第九十章	九十二
第九十一章	九十三
第九十二章	九十四
第九十三章	九十五
第九十四章	九十六
第九十五章	九十七
第九十六章	九十八
第九十七章	九十九
第九十八章	一百

目次

第六	休學規程	三十一
第七	進級及卒業規程	三十一
第八	校費生及特待生規程	三十五
第九	實科規程	三十五
第十	研究規程	三十八
第十一	卒業論文規程	三十八
第十二	農藝傳習科規程	三十九
第十三	冬期講習科規程	三十九
第十四	授業科及被服規程	三十九
第十五	教育會議規程	三十九
第十六	圖書館規程	三十九
第十七	學生心得規程	三十九
第十八	農藝傳習科生徒心得	三十九
第十九	附則	三十九
第二十	土木工學科規程	四十一
第二十一	豫修科規程	四十二
第二十二	學科課程表	四十九

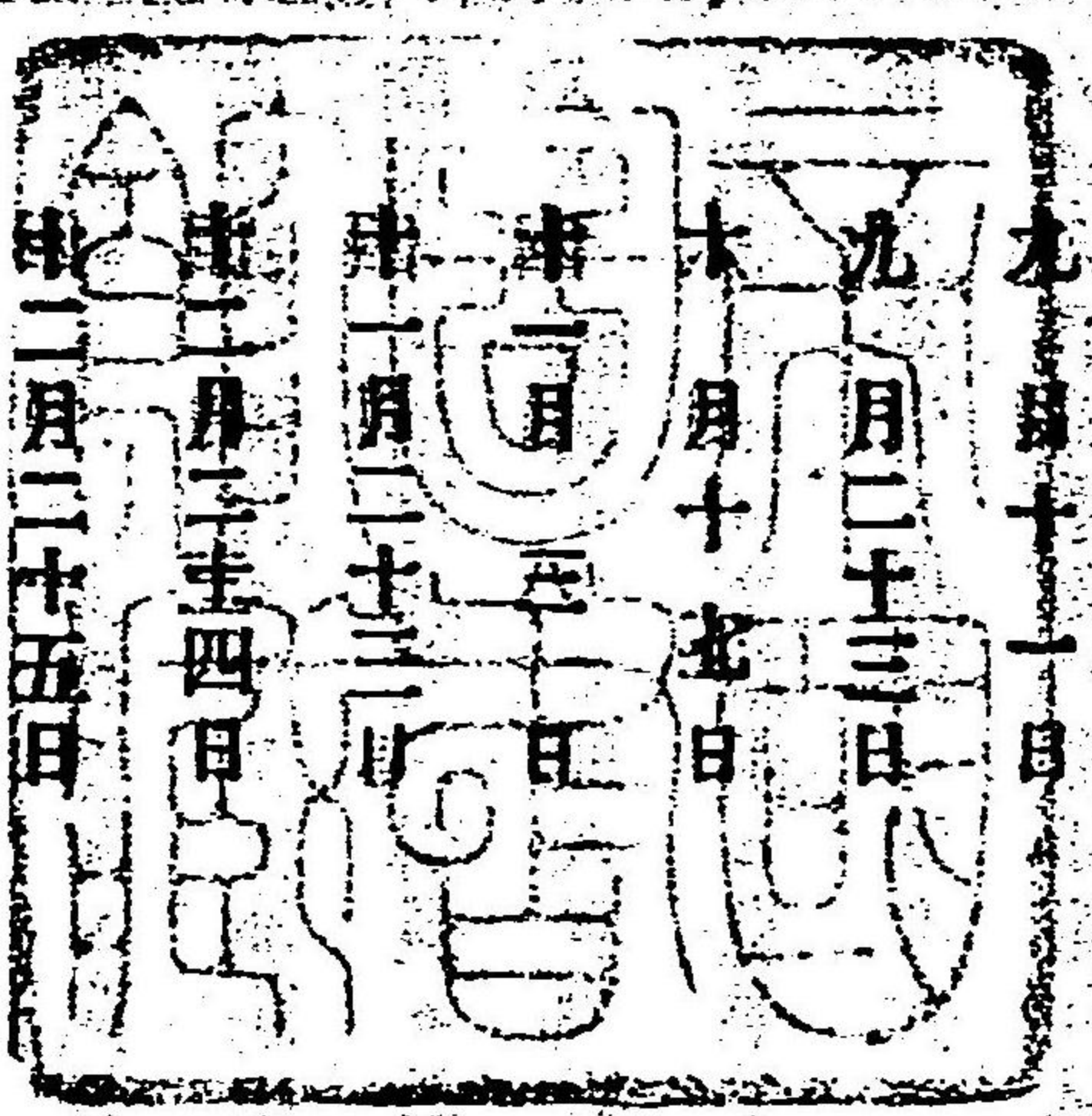


第六	寄宿舎々則	五十四
第七	授業料徴収規程	六十二
第八	事務分掌	六十二
第九	札幌農學校ノ資金ニ關スル土地ニ關スル件	七十二
第十	土地貸付規程	七十二
第十一	土地賃下規程	七十二
第十二	土地ノ營業規程	七十二
第十三	商議委員會規程	九十四
第十四	職員規程	九十四
第十五	學生生徒姓名規程	九十四
第十六	學士及卒業生姓名規程	九十四
第十七	圖書館	九十八
第十八	化學教室	九十八
第十九	解剖室	九十八
第二十	植物標品室	九十九
第二十一	植物園	九十九
第二十二	博物館	九十九

第二十章	資金	百四十七
第十九章	土地	百四十一
第十八章	建物	百四十二
第十七章	有價證券	百四十三
第十六章	動物	百四十三
第十五章	附表	百四十三
第十四章	學生及徒最高最低平均年齡表	百四十四
第十三章	學生及徒道府縣別表	百四十四
第十二章	學生及徒及卒業生學科別表	百四十七
第十一章	農學士職業別表	百四十七
第十章	農學士職業別表	百四十八
第九章	農藝傳習科卒業生職業別表	百四十九
第八章	農學士職業別表	百四十九
第七章	農學士職業別表	百四十九
第六章	農學士職業別表	百四十九
第五章	農學士職業別表	百四十九
第四章	農學士職業別表	百四十九
第三章	農學士職業別表	百四十九
第二章	農學士職業別表	百四十九
第一章	農學士職業別表	百四十九

札幌農學校

○第一章 學年曆 (明治三十年同五十年)



九月十一日
九月二十三日
十月十日
十月二十三日
十一月四日
十一月二十五日
十二月二十七日
二月二十八日
三月三十日

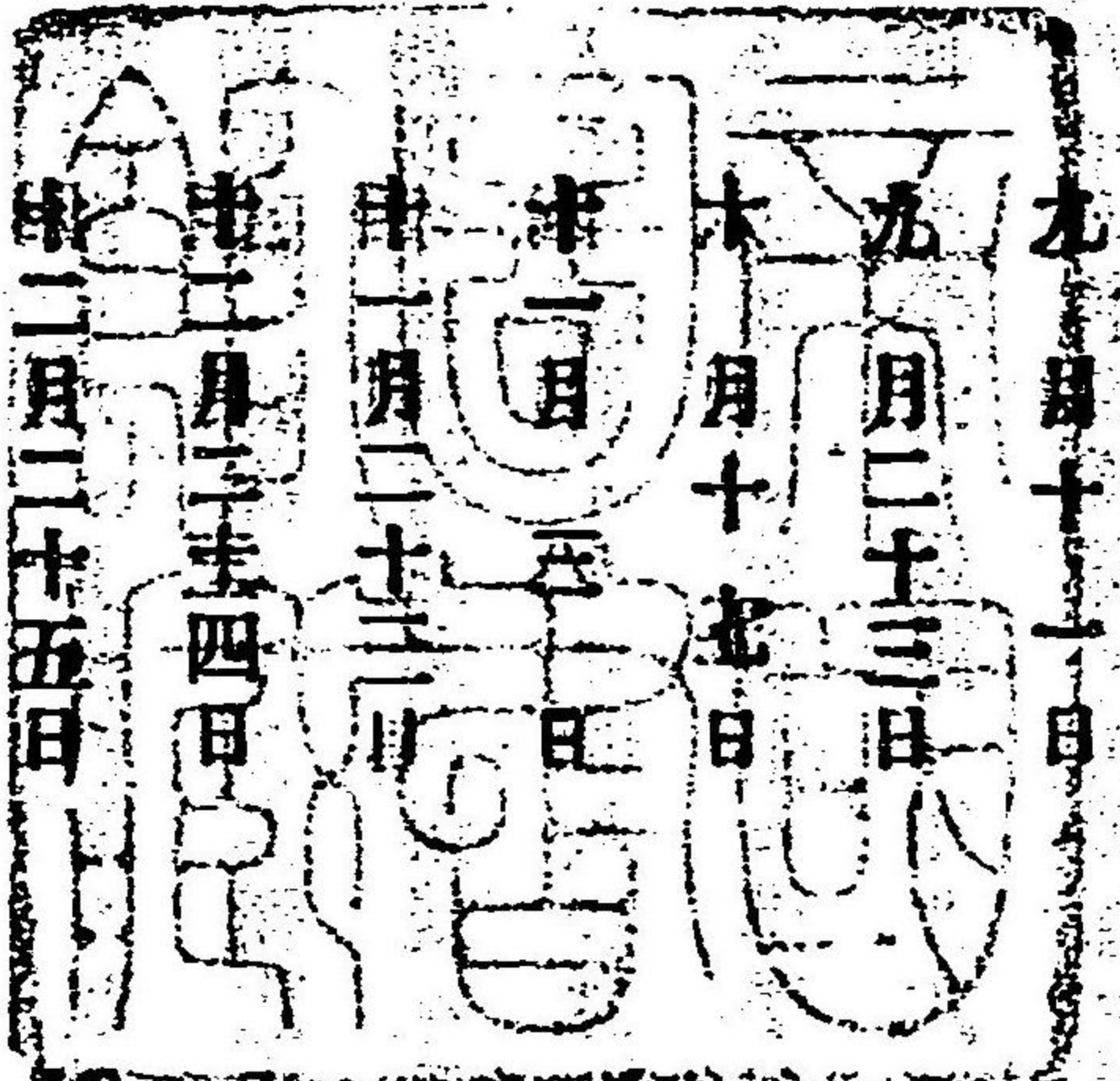
學年曆

第卅學期始水
休業(秋葉豐盛祭)
休業(神嘗祭)
休業(天長節)
休業(新嘗祭)
第卅學期終會(祭)
冬期休業始水
冬期休業終水
第卅學期始水(祭)
休業(孝明天皇祭)

第二十章	資金	百四十一
第十九章	土地	百四十一
第十八章	建物	百四十二
第十七章	有價證券	百四十二
第十七章	動物	百四十三
第十七章	附表	百四十三
第十六章	學生及徒最高最低平均年齡表	百四十四
第十五章	學生及徒道府縣別表	百四十四
第十四章	學生及徒及卒業生學科別表	百四十七
第十三章	農學士職業別表	百四十七
第十二章	紅學士職業別表	百四十八
第十一章	農藝傳習科卒業生職業別表	百四十九
第十章	農藝傳習科卒業生職業別表	百四十九
第九章	農藝傳習科卒業生職業別表	百四十九
第八章	農藝傳習科卒業生職業別表	百四十九
第七章	農藝傳習科卒業生職業別表	百四十九
第六章	農藝傳習科卒業生職業別表	百四十九

札幌農學校

○第一章 學年曆 (明治三十年同五十年)



九月二十三日
 十月十七日
 十一月十一日
 十二月二十五日
 一月二十九日
 二月二十二日
 三月十七日
 四月十一日
 五月十五日
 六月十九日
 七月十三日
 八月十七日
 九月十一日
 十月十五日
 十一月十九日
 十二月十三日

休業(秋葉皇靈祭)
 休業(神嘗祭補祭)
 休業(木長節)
 休業(新嘗祭)
 第壹學期終了(祭)
 冬期休業始(祭)
 冬期休業終(祭)
 第貳學期始(祭)
 休業(孝明天皇祭)

學年曆

二月十一日 休業(紀元節)
 三月二十日 休業(春季皇靈祭)
 三月三十一日 第三學期終了
 四月二十七日 春期休業始
 四月二十三日 休業(神武天皇祭)
 四月二十七日 春期休業終了
 四月八日 第三學期始
 六月十五日 休業(札幌神社祭)
 七月二十三日 第三學期終了
 七月十一日 夏期休業始
 九月十日 辛酉 (即第三十夏期休業終了)

○第二章 沿革略
 札幌農學校、明治五年四月、開拓使ノ設立ニ係ル初メ東京芝増上寺内ニ於テ開校シ假學

校ヲ稱シ開拓使五等出仕荒井郁之助以テ校長トシテ、教員並内外諸招聘漸次規模
 ヲ擴張シ以テ今日ニ至ル。○明治六年三田學校學組織ヲ改正、荒井郁之助校長ヲ解カ
 シ開拓使七等出仕調所廣丈校長任シ、○明治七年本校農學專門科開設、○明治
 八年八月假學校ヲ北海道ニ移シ札幌農學校ト稱ス。○明治九年七月米國(イギリス)ニ遊學セシメ
 州農學校ノ規模ニ依リ次ニ改正、加農學及之ニ關係其必要以テ諸學科ヲ教授シ學期
 ヲ四箇年トシ卒業生ニ農學士ノ學位授與スルノ制ヲ定メ同ノ豫備科ヲ創設シ本科ニ
 入ルノ階梯トシ、同八月札幌農學校ト改稱ス。○明治十四年五月調所廣丈校長ヲ解カシ
 開拓少書記官森源三校長任シ、○明治十五年三月開拓使廢セラレ、同月本校ニ農
 商務省ノ所屬シ、○北海道事業管理局ヲ管理シ、○明治十九年一月北海道事業管
 理局廢セラレ、北海道廳ノ所轄トナル。同三月勅令八十四號ヲ以テ札幌農學校官制ヲ發
 布セラレ、北海道廳理事官佐藤秀顯校長事務取扱ヲ命ゼラル。○明治二十五年五月教授佐藤
 昌介幹事ニ兼任シ、校長ノ職務ヲ代理シ、同月北海道廳令第八號ヲ以テ札幌農學校本則ヲ
 改正セラレ、農學科ノ外更ニ工學科ヲ置キ、學業優等者ヲ探査、校費任トシ卒業後北海道

沿革略

應以採用ヲ受ク採ト候事滿四箇年間奉職ノ入箇年間其身分進退特就テハ北海道廳長官
易認可ヲ受致候者豫科設置及本科ノ入北道階梯令更ニ農藝傳習科ヲ設テ本道農
家ノ子弟及本道ニ於テ開墾起業ノ目的確實ヲ求メ者ヲ募集シ學費ヲ給シ實地ニ就テ模範
農業傳習ノシテ其後下州ニテ北海道廳令第七十七號ヲ以テ農藝傳習科生徒卒業
後滿五箇年間其身分進退特就テハ北海道廳長官ノ認可ヲ受テ不ヤ旨達テ遂ニ
治三十二年十二月北海道廳長官等技師橋田文藏札幌農學校校長任セラルル明治三十三年
六月勅令第四號ヲ以テ教授員八名ヲ定メ同月札幌農學校校長兼北海道廳三
等技師橋田文藏北海道廳理事官兼札幌農學校校長任セラルル同八月勅令第五號ヲ以テ
札幌農學校官制第一條及第六條ニ於テ農工學關之學術技藝ヲ教授スル外更ニ生徒
中ノ凡屯田兵士官出身志願者ヲ擇定テ軍事ニ關テ學術ヲ教授スル所トシ教授ノ定
員四名ト改正セラルル同九月北海道廳令第五十六號ヲ以テ札幌農學校改テ普通學科
農工學科ノ外新ニ兵學科ヲ置テ軍事ニ關テ學術ヲ教授スル改テ普通學科
教授員ノ所並ニ其學期外五箇年ニ農學科ヲ於テ前三箇年間專テ學術ヲ教授後二箇

年ノ實務ヲ練習セシメ兵學科ニ於テ農學科ノ學年之課程ヲ卒業後凡學生ニ屯田
兵出身志願者ヲ養成スル限存テ亦同月北海道廳令第六十五號ヲ以テ農工學科
ノ卒業シタル者其學科ニ從テ農學生又ハ工學生ト稱スルコトヲ得セシメラルル同月兵
學科別科生徒置キ屯田兵曹長免官ノ者及入學セシメ卒業期外一箇年正及普通農學及軍
事學ヲ教授シ同十二月勅令第三百三十號ヲ以テ農工學科ノ卒業生ハ高等試驗ヲ要セズ
シテ其修メタル學科ニ關テ行政官試補採用スルコトヲ得セシメラルル○明治二十三
年八月勅令第八十四號ヲ以テ兵學科卒業生及屯田兵見習士官ニ任用シ及同月勅令第
百八十六號ヲ以テ屯田兵豫備下士官札幌農學校ニ於テ一箇年間軍事學ヲ修メシメ之ヲ
豫備將校ニ補充スルコトヲ旨メ公布セラルル○明治三十四年一月勅令第六號ヲ以テ札幌農
學校官制中第一條第二項本校ニ當分生徒中ヨリ屯田兵士官出身志願者ヲ撰ヒ屯田兵士
官ニ要スル軍事上ノ學術技藝ヲ教授シ又屯田兵豫備下士官屯田兵豫備將校ニ要スル軍
事上ノ學術技藝ヲ教授シ第七第八第九條及第十條ニ於テ助教訓導令監書記ノ定員ヲ定
メラルル同月勅令第四十一號ヲ以テ札幌農學校ノ教官ハ授業ノ時間及學科ノ難易等ニ

六
リ明治十九年勅令第六號高等官々等俸給令官等相當俸給以下ノ額ヲ支給スル事ヲ得ル旨發布セラレ同七月勅令第四百十二號ヲ以テ札幌農學校官制ヲ改正セラレ同月勅令第四百十三號ヲ以テ札幌農學校高等官俸給ニ關スル件ヲ公布セラレ同八月北海道廳理事官兼札幌農學校長橋口文藏兼官ヲ免セラレ同月札幌農學校教授佐藤昌介札幌農學校長心得ヲ命セラレ同十一月勅令第二百五號ヲ以テ札幌農學校長以下高等官及職等級別定メラル○明治二十五年三月勅令第二十號ヲ以テ札幌農學校教官ノ俸給ハ其授業ノ時間及學科ノ輕重難易等ニヨリ年俸等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得ル旨發布セラレ同十一月勅令第九十六號ヲ以テ高等官々等俸給令ヲ發布セラレ札幌農學校長以下高等官々等ヲ定メラル○明治二十六年九月勅令第九十五號ヲ以テ札幌農學校教授ノ官等俸給ハ文部省直轄諸學校教授ノ例ニヨル旨公布セラレ同十一月勅令第二百八號ヲ以テ札幌農學校ニ關スル件ヲ公布セラレ從來發布ノ勅令ハ本條施行ノ日ヨリ廢止セラレ同十二月勅令第八十三號文官任用令公布ニ付明治三十三年十二月勅令第三百三十七號廢止セラレ同三月勅令第二十七號ヲ以テ明治三十三年勅令第二百六號ヲ以テ明治三十三年勅令第三百八號ノ施行

七
明治二十八年四月一日マテ延期ノ旨發布セラレ同四月札幌農學校長心得教授佐藤昌介札幌農學校校長兼札幌農學校教授ニ任セラレ同月札幌農學校長職務規程ヲ定メラル同月札幌農學校同窓會ヨリ該會所有財產擧テ本校ノ維持資金ノ内ヘ寄付シタルヲ以テ從來本校所屬ノ土地建物ハ政府ノ交付トシテ本校維持資金ニ編入セラレ同七月勅令第四百四號ヲ以テ本校資金ニ屬スル北海道土地ヲ貸付スルハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件公布セラレ同八月文部省告示第五號ヲ以テ本校資金ニ屬スル北海道土地貸下規程ヲ定メラル○明治二十九年六月本校々則改正ニヨリ本校ハ農理、農藝及拓殖ニ關スル高等教育ヲ授クル所トシ本科ノ外農藝傳習科ヲ設ケ從來設置ノ工學科及豫科ヲ廢止シ同九月一日ヨリ實施セラレ同十一月北海道石狩國空知郡「フラス」原野ノ内壹千拾壹萬坪ヲ本校維持資金ニ編入セラレ○明治三十年勅令第七號ヲ以テ帝國大學及文部省直轄諸學校高等官々等俸給令改正公布セラレ又勅令第九號ヲ以テ本校教授ノ定員六人ヲ八人ト改正公布セラレ同五月本校々則中ニ第五十四條乃至第七十六條ヲ追加シ土木工科ヲ設置セラレ○明治三十一年五月本校々則中ニ第七十七條乃至第八十六條ヲ追

加シ豫修科ヲ設置セラル同七月札幌農學校商議委員會規程ヲ定メラル同十月文部省告示第五十四號ヲ以テ札幌農學校ノ資金ニ屬スル北海道土地貸下規程ヲ改正セラル

○第三章 文部省直轄學校ニ關スル勅令及省令

○第一條 官制文部省直轄諸學校(明治二十六年八月)抄錄

第六條 文部省直轄學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教員

助教授

第七條 校長ハ文部大臣ノ命ヲ承テ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條 教授ハ學生ヲ教授シ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第九條 書記兼判任官ノ命ヲ承テ庶務會計ニ從事ス

第十條 高等師範學校及女子高等師範學校ニ舍監ヲ置ク他ノ學校ニ於テ舍監ヲ置ク必

要ニテ文部大臣ノ命ヲ承テ之ヲ掌理ス

第十六條 專任教官中其學校所設諸學科ヲ擔任スル者ヲ得テ兼任

第十七條 文部大臣ハ高等師範學校女子高等師範學校高等商業學校及東京

工業學校教官中其ノ各其ノ附屬學校主事東京教育博物館主事附屬幼稚園主事專門

學部主事ヲ命シ其ノ事務ヲ掌ラシムルヲ得

第十八條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其

ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

○第二 札幌農學校ニ關スル勅令(明治二十六年十一月)

第一條 札幌農學校ハ文部省直轄學校トス

第三條 文部大臣ハ便宜北海道廳長官ヲ委任シテ札幌農學校ヲ監督セシムルコトヲ得

第三條 札幌農學校職員ノ定員及左列如シ但兼任其此限ヲラズ
校長 一人
教授 八人(明治三十年四月勅令第九號ニテ「六人」ヲ「八人」ト改正)
助教授 十人
文書 六人

第四條 本令(明治二十年四月二日)ヨリ施行ス

第五條 明治三十四年勅令第四百十二號同年勅令第四百十三號及明治三十四年勅令第四百十五號(本令施行前)ヨリ施行ス
○勅令第二十六號(明治二十七年二月)

明治三十五年勅令第三百九號(施行)六明治三十八年四月二日ヨリ施行ス
○第三號(帝國大學及文部省直轄諸學校高等官等俸給令)明治三十年四月
第六條 帝國大學各分科決學教授ハ高等官五等以上助教授ハ高等官五等以下
文部省直轄諸學校教官ハ高等官三等以下トス

第三條 帝國大學總長(官等)高等官一等トシ文部省直轄諸學校校長ハ二等以下次等以下トシ帝國大學書記官ハ三等以下次等以下トス

文部省直轄諸學校校長(東京帝國大學)ハ二等以上特ニ功勞アル者ハ高等官一
文部省直轄諸學校校長(東京帝國大學)ハ二等以上特ニ功勞アル者ハ高等官一
等ニ陞叙セラルルコトナルハ在リ

第三條 帝國大學及文部省直轄諸學校高等官ノ年俸別表ニ依ル
文部省直轄諸學校校長(東京帝國大學)ハ二等以上特ニ功勞アル者ハ高等官一
等ニ陞叙セラルルコトナルハ在リ

第四條 文部省直轄諸學校教官ハ其ノ授業ノ時間及學科ノ難易輕重ニ依テ別表ニ掲グ
ル最低額以下ノ年俸ヲ給スルコトアルヘシ

第五條 文部省直轄諸學校教官ハシテ一校若クハ數校ノ教官ヲ兼任スル者ニハ本官並
兼任官ニ於テ授業ノ時間及學科ノ難易輕重ニ應ニ其ノ本官ノ俸額ヲ分割シテ各學
校ヨリ支給セラルルコトナルハ在リ

第六條 文部省直轄諸學校官制第十五條ニ依リ其學科ノ授業ヲ擔任スル囑託講師ニハ
 教官俸給額ノ内ヨリ相當ノ待遇ヲ給スルコトヲ得

第七條 帝國大學教官ノ俸給ハ別ニ定ムル所ニ依リ

第八條 明治二十六年勅令第八十八號帝國大學文部省直轄諸學校及東京圖書館高等官
 官等俸給ハ本令施行ヨリ日ヨリ廢止ス

別表 (本表ハ必要ノ欄ヲ掲記ス)

文部省直轄諸學校長	二千五百圓	二千五百圓	二千圓	千八百圓
文部省直轄諸學校教授	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校助教	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校教員	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校事務員	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校庶務員	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校書記	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司書	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司帳	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司事	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司役	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司勞	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司食	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司衣	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司住	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司行	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司車	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司馬	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司牛	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司犬	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司鳥	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司魚	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司菜	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司果	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司藥	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司酒	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司茶	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司香	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司紙	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司筆	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司墨	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司硯	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司扇	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司傘	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司履	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司服	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司帽	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司鞋	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司襪	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司手	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司足	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司體	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司心	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司神	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司氣	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司血	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司脈	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司骨	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司肉	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司筋	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司脈	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司髓	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司精	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司神	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司氣	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司血	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司脈	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司髓	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司精	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓
文部省直轄諸學校司神	二千五百圓	二千圓	千八百圓	千四百圓

帝國大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ニ必要アルトキハ帝國大學總長及直轄諸
 學校長ハ改派大臣ノ許可ヲ受ケ備外國人ヲシテ教官及職務適當ナル者ヲ得

帝國大學及文部省直轄諸學校校長監督特別任用(明治二十六年九月)

第五條 文部省直轄諸學校校長監督特別任用(明治二十六年九月)

文部省直轄諸學校長ハ一箇年以上委任教官ノ職ニ在リタル者ニ限リ同令第九十六號

ル者ニ限リ試験ヲ要セス文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

一 一箇年以上委任教官又ハ委任官待遇ノ教職ニ在リタル者

二 二箇年以上判任教官又ハ判任待遇ノ教職ニ在リタル者

○第四章 札幌農學校々則(明治二十九年六月二十三日制定) 同年九月一日ヨリ實施

第六條 第一條 札幌農學校ハ農理農藝及拓殖ニ關スル高等教育ヲ授クル所トス

第二條 札幌農學校ハ本科ノ外農藝傳習科ヲ設ケ簡易ノ農理及實業ヲ授ケ

(參照) 傳習科及土木工學科規程(第二十及第二十一章ヲ參照ス)

第三條 修業年限ハ本科ヲ四年トシ農藝傳習科ヲ二年トシ各一學年ヲ一學級トス

第四條 本科卒業シ規定ノ試験ヲ經タル者ハ農學士ト稱スルコトヲ得

○第二章 學科課程

第五條 本科ニ於テ修學スヘキ課目及課程ハ大約左ノ如シ

- 一 農學
 - 一 園藝學
 - 一 畜産學
- 一 化學及農藝化學
 - 一 植物學
 - 一 動物學
 - 一 昆蟲學及養蠶學
 - 一 獸醫學
 - 一 水産學
- 一 森林學
 - 一 地質學及岩石學
 - 一 數學及測量術
- 一 農業工學
 - 一 物理學及氣象學
 - 一 經濟原論及農業經濟學
- 一 農政學及殖民論

第六條 農藝傳習科ニ於テ修業スヘキ課目及課程ハ大約左ノ如シ

- 一 實業
 - 一 耕牛馬使役 農具使用 家畜飼養 肥料製法 排水開墾 作物栽培及收穫 果樹栽培 乾草法 農産製造
 - 一 學
 - 一 土壤論 農具論 肥料論 化學原理 排水及開墾法 農場管理法 農業經濟大意
 - 一 動物生理學 牧畜論 農用植物生理 普通作物 特有作物 園藝 果樹栽培 農圃測量 害蟲驅除法 植物病理 養蠶 瘧疾治療及踏踏法大意

第三章 學年學期及休業規程書 其ニ入學年總計本行 第一回學期

第七條 本科學年九月十一日開始翌年七月十日終了

第八條 本科學年分三學期 第一學期九月十日開始至翌年三月十日止

第二學期三月三十一日終了 第三學期四月八日開始至七月十日止

第九條 年中休業日左ノ如シ

- 一 日曜日
- 一 孝明天皇祭 一月三十日
- 一 紀元節 二月十一日
- 一 春季皇靈祭 春分日
- 一 神武天皇祭 四月三日
- 一 札幌神社祭 六月十五日
- 一 秋季皇靈祭 秋分日
- 一 神嘗祭 十月十七日
- 一 天長節 十一月三日
- 一 新嘗祭 十一月二十三日
- 一 夏期休業 自七月十一日 至七月三十一日
- 一 冬期休業 自十二月廿五日 至一月七日
- 一 春期休業 自四月十一日 至四月十七日

第十條 農藝傳習科學年四月十日開始翌年三月三十一日終了該學年ヲ分テ前

後二學期トシ前學期ハ四月一日開始十一月三十日終了後學期ハ十二月一日開始

翌年三月三十一日ニ終ル

第十一條 農藝傳習科ニ休業日ハ夏期及春期休業ヲ除ク外第九條ニ準ズ

第四章 入學在學及退學規程

第十二條 入學ノ期ハ每學年ノ始トス

第十三條 本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本校豫修科ヲ卒業シタル者若クハ之ト同等ノ學力ヲ有シ品行方正年齡滿十八歲已上ニシテ募集ニ應ジ入學試業ニ及第シタル者トス

第十四條 農藝傳習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等小學校四學ヲ卒業シ若クハ之ト同等ノ學力ヲ有シ品行方正年齡滿十七歲已上ニシテ募集ニ應ジ入學試業ニ及第シタル者トス

第十五條 本科入學試業ニ本校豫修科ヲ修學科及其程度農藝傳習科入學試業及高等小學校四學

第十六條 本校ニ入學ヲ出願スル者ハ左式ノ願書及學業履歷書ヲ差出スヘシ

習科ハ金五枚錢幣前納申付後差給留付申出
入學手数料金五圓納付後何等場合ト雖之ヲ返付セズ
第十七條 本校ニ入學ヲ出願セントスル者ハ左式ノ願書及學業履歷書ヲ差出スヘシ

願書 入學願書式(用紙美濃紙) 姓名 年 月 日 籍 寄留 姓 名 印
私儀合般御校農藝傳習科(甲類) 入學志願ニ付御許可相成度別紙履歷書並ニ入學手数料金五十錢相添ヘ此段奉願候也

第十條 札札觀農學 校長 某殿申付御入ノ要否ヲ一覽ニテ之ニ對シテ何年何月何日生ハ

學業履歷書式(用紙美濃紙) 姓名 年 月 日 籍 寄留 姓 名 印
第十條 何年何月何日生ハ何年何月何日生ハ何年何月何日生ハ何年何月何日生ハ何年何月何日生ハ

一 賞狀修業證書等ノ寫

第十八條 甲保證人ハ丁年已上ノ男子ニシテ本校ニ於テ適當ナリト認メタル者乙保證人ハ父若クハ親戚中丁年以上ノ男子ニシテ一家計ヲ立ツル者ニ限ル

第十九條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ甲乙保證人ノ署名セル二葉ノ在學證書ヲ差出スベ

但甲號證書ハ入學ノトキ乙號證書ハ入校后三十日以内ニ差出スヘシ

(在學證書式) (用紙美濃紙)

壹錢

印紙

私儀令般御校へ入學御許可相成候ニ就テハ御規則堅ク相守リ猥リニ轉學退學等仕間敷候儀テ證書如斯候也

退學等仕間敷候儀

族籍住所

第十條

本對ニ入學ノ出願シタル者ハ其ノ姓名及年令等ハ其ノ申請書ニ記シテ提出ス

何年何月生

入學手續在學中勿論御校ノ學籍ヲ脱シ候後ハ其ノ同人ニ係ル一切ノ事件ハ拙醫博ノ者ニ於テ引當申候此段保證仕候也

第二十條 親屬校長 某殿 前書保證人何某ハ丁年以上ニシテ當區内ニ住シ一家計ヲ立テ且家産(若クハ土地ヲ)所有スル者(若クハ何々職務若クハ職業ヲ有スル者)ニ相違無之候也

在學證書(乙號) 何某儀令般御校へ入學御許可相成候處拙者儀同人ノ父兄伯叔父等中ハ勿論御校學籍ヲ脱シ候後アリトモ同人ニ係ル事件ハ一切引受ケ可申候仍テ證書如斯候也

族籍及職業 父兄等親戚ノ關係 何年何月生

何年何月生

何年何月生

何年何月生

何年何月生

何年何月生

何年何月生

第三十一條 休學セント欲スル者ハ甲保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

但疾病ノ爲メ休學スル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第三十二條 休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學期ヨリ該學年間ノ授業料ヲ徵收セヌ

第三十三條 休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ヲ始メヨリ其原級ニ入り修學スル者トス

第三十四條 一年志願兵ヲ出願セントスル者ニハ一學年間休學ヲ許可ス

○第七章 進級及卒業規程

第三十五條 試業ヲ分テ臨時、學期及學年ノ三種トス

第三十六條 臨時試業ハ學期中教官ノ見込ヲ以テ之ヲ行ヒ學期試業ハ學期ノ終ニ於テ

之ヲ行ヒ學年試業ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ事トス

第三十七條 試業ハ教官ノ見込ヲ依リ口述筆記又ハ實驗ノ法ヲ以テ之ヲ行ヒ其成績ヲ

按シ評點ヲ附ス

第三十八條 試業ノ評點數ハ百ヲ以テ最高點トシ六十以上及第點ト定ム

第三十九條 各科學期評點ハ其ノ學期中ノ臨時試業評點平均數若クハ日課評點平均數

ト學期試業評點數トノ和ヲ二分シテ得ルモノトス

第四十條 各科學年評點ハ學期評點ノ和ヲ二分又ハ三分シテ之ヲ得ルモノトス

但學課ニシテ二學期ニ跨ラサルモノハ一學期ノ評點數ヲ以テ學年評點トス

第四十一條 學期ノ諸科平均評點ハ各學期ノ評點ニ其課程時間ヲ乘シタルモノヲ合セ

課程時間ノ總數ヲ以テ除シ之ヲ得ルモノトス

第四十二條 學年ノ諸科平均評點ハ各科ノ學年評點ニ其課程時間ヲ乘シタルモノヲ合

シ課程時間ノ總數ヲ以テ除シ之ヲ得ルモノトス

第四十三條 諸科平均評點數六十以上及スト雖モ各科學年ノ評點數六十未滿三科已

上若クハ五十未滿三科已上ニ及フトキハ落第トス

第四十四條 諸科平均評點數六十已下ニシテ各科ノ評點數五十未滿二科已上若クハ四

十未滿一科已上アルトキハ第三十四條ニヨリ處分ス

第四十五條 農藝傳習科ニ於テハ第四十三條及第四十四條ヲ適用セス特ニ實業點數ハ

分學科點數四分ノ比率ニ由リ學年評點ヲ定ム

第四十六條 試業ニ欠席シタル者ハ原級ニ止ム

但疾病其他止ムヲ得サル事故ノ爲メ欠席シタル者ニシテ教官會議ニ於テ之ヲ適當ト認メタルトキハ追試業ヲ行フコトアルヘシ

第四十七條 本科ニ於テ定期ノ課程ヲ卒リタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

(卒業證書式)

姓 名

札幌農學校ニ於テ本科ヲ修メ定期ヲ經テ考試ヲ完フシ正ニ其業ヲ卒ヘリ仍テ

之ヲ證ス

札幌農學校教授位勳 姓 名 印

札幌農學校教授位勳 姓 名 印

教官ノ證明正當ナルヲ以テ札幌農學校印ヲ鈐シ之ヲ證ス

札幌農

年

月

日

札幌農學校校長位勳 姓 名 印

第四十八條 農藝傳習科課程ヲ卒ヘタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

札幌農學校ニ於テ農藝傳習科ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘリ之ヲ證ス

札幌農
學校印

日

札幌農學校校長位勳 姓 名 印

○第八章 校費生及特待生規程

第四十九條 學生中學業優等品行端正ナル者ヲ選ヒ校費生又ハ特待生トナスコトアルヘシ

第五十條 校費生ハ授業料ヲ免シ學費トシテ月額金七圓ヲ給與スルモノ命セラルヘシ

第五十一條 校費生ハ本校寄宿舎ニ入舎スルモトナスルコトヲ命セラルヘシ

第五十二條 校費生半途退學ヲ願出又ハ停學已上ノ處分ヲ受ケタル者ハ給與ノ金額即時ニ返納セシム

但疾病ノ爲メ退學ヲ命セラレタル者ハ事情ニ由リ給與金ノ返納ヲ免除スルコトアルヘシ

第五十三條 校費生卒業後滿五ク年間其身分進退ニ關シテハ校長ノ許可ヲ受クヘキモ

第五十四條 校費生ハ十二人ヲ以テ定員トナス

第五十五條 特待生ハ十五人ヲ以テ定員トナス

第五十六條 特待生ハ一學年間授業料ヲ免スルモノトス

第五十七條 校費生及特待生ハ每學年末ニ於テ教官會議ヲ經テ校長之ヲ定ムルハ其ノ額ニテ

第五十八條 校費生及特待生ニシテ其資格ヲ損スル廉アリト認ムル時ハ直ニ之ヲ免ス

第五十九條 校費生ハ左式ノ契約書ヲ差出スヘシ

(契約書式) (用紙美濃紙)

壹錢 印紙

契約書

私儀今般校費生被命候ニ付テハ在學中御校則堅ク相守リ可申且ツ卒業後ハ
校則第五十三條ニ依リ進退可任力ニ御規則ニ背キ半途退學被命候歟又ハ不
得止事故アリテ退學相願候節ハ在學中ノ御給與金即時返納可仕保證人連署
依テ契約仕候也

年 月 日

甲保證人

族籍 寄留

何

某

印

何年何月生

何年何月生

族籍 寄留

何

某

印

何年何月生

札幌農學校長 某殿

乙保證人

○第九章 實科規程

第六十條 本科學生ニシテ第二級ヲ修得シタル者ニ實科演習ヲ課スルモノトス

第六十一條 實科課目ハ學生各自ニ之ヲ撰擇シテ六月三十日マテニ願出テ校長ノ認可

ヲ受クルモノトス

第六十二條 實科課目ハ當分左ノ六科トス

- 一 農學 甲科
 - 農場實習 農産製造實習 手工實習 園藝 特用作物及農場管理
- 一 農學 乙科
 - 畜産製造實習 畜舎實習 家畜解剖學及生理學演習 家畜衛生學演習 蹄鐵
 - 學演習 家畜解剖學實習 病論大意演習 農場實習
- 一 農業經濟學
 - 應用經濟 日本農史 田制 農業統計 農業評價 殖民制度 農法

- 一 農藝化學
- 一 單純化學物 肥料 土壤 動物飼料等ノ定量分拆及實地研究
- 一 農用動物學
- 一 昆蟲學及養蠶學演習
- 一 植物病理學
- 一 寄生菌學及無機原因ヨリ起ル植物病理學ヲ實習並ニ實地研究

第六十三條 實科ハ本科規定以外ノ時間ヲ以テ之ヲ課ス

第六十四條 實科演習ハ一人一學科ニ限ル

但他學科ニ轉科シ又ハ半途ニシテ廢止スルコトヲ許サズ

第六十五條 一實科ニシテ志願者定員ヲ超過スルトキハ更ニ他實科ヲ出願セシムヘシ

○第十章 研究生規程

第六十六條 研究生ハ本科卒業生ニシテ既修ノ一學科ヲ更ニ攻究セント欲スル者ヲ以テ之ニ充ツ

第六十七條 研究生ハ學費ヲ自辨スルモノトス

第八但授業料ハ免除ス

第六十八條 研究生志願ノ者ハ攻究シ學科ヲ撰定シ校長ノ許可ヲ受クヘシ

第六十九條 研究生ノ攻究期限ハ三年巳内トス

第七十條 研究生ノ攻究セヨト欲スル學科ハ主管教官ヲ以テ指導ヲ擔當セシメ研究生ハ主管教官指導ニ從ヒ攻究ノ業ニ從事ス

第七十一條 研究生ハ每學期ノ終ニ於テ攻究シタル事項ヲ主管教官ヲ經テ校長ニ報告ス

第七十二條 研究生志願ノ者ハ左式ノ願書ヲ差出スヘシ

(願書式)(用紙美濃紙)

某儀某學科ノ事項ヲ攻究仕度候ニ付研究生御許可被成下度此段奉願候也

年 月 日

族籍 何 某 印
 寄留 何 某 印
 保證人 何 某 印

○第十一章 卒業論文規程

第七十三條 卒業論文ハ各自所修ノ學科ニ就キ研究ノ結果ヲ論述スルモノトス

第七十四條 論題ハ第三學年ニ終リ迄ニ撰定シ校長ヲ屢出指導ヲ受ケ爾後教官ノ指

定ヲ請フモノトス

第七十五條 卒業論文採否ハ教官會議於テ之ヲ決ス

第七十六條 卒業論文否決セラレタル者ハ卒業ヲ延期セシムヘシ

第七十七條 論文ニ邦語ヲ以テ敘述スルモノトスハ專断モ主管教官ヲ屢出シ其評議ヲ受ケ

但事宜官請フテ主管教官ニ承認事得テ外國語ヲ用フルコトヲ得

第七十八條 論文ノ草稿ヲ四月五日迄ニ主管教官ニ提出シ其批評評議ヲ受ケ

第七十九條 論文ヲ六月三日迄ニ必出管教官ヲ經テ校長ニ差出スヘシ

第八十條 卒業論文規程ニ對シテ其評議ヲ受ケ

第八十一條 卒業論文規程ニ對シテ其評議ヲ受ケ

第八十二條 給費生及特待生ヲ指テ

第八十三條 給費生ハ品行端正學力優等ナル者又ハ北海道郡區長ノ特撰ニ係ル者ヲ以

テ之ニ充テ

第八十四條 給費生ハ北海道在籍者ニシテ耕地三町歩以上ヲ所有スル農業者若クハ其

子弟又ハ本道ヲ移住者若クハ其子弟ニシテ未墾地五町歩以上ノ賃下地有ル者

ニ充テ

第八十五條 給費生ハ五十八歳以下ニテ定員トシ

第八十六條 給費生ハ卒業後滿五年間其身分進退ニ關シテ校長ノ認可ヲ受ケ

第八十七條 給費生ハ農藝傳習科寄宿舎ニ入含スルモノトス

第八十八條 特待生ハ品行端正學力優等ナル者ヲ撰拔シテ之ヲ命スルコトアルヘシ

第八十九條 特待生ハ在學中ノ授業料ヲ免テ

第九十條 給費生ハ半途退校ヲ願出又ハ退校ヲ命セラレタル者ハ第五十二條ニ據リ處

分ス

第九十一條 給費生及特待生ノ命解ハ第五十七條及第五十八條ニ據リテ處分ス

第九十二條 給費生ハ第五十九條ニ據リ契約書ヲ差出スヘシ

第九十三條 冬期講習生ハ簡易ノ農學ヲ修得セシムル者ヲ募集シテ之レニ充ツ

第九十四條 冬期講習ハ十二月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第九十五條 冬期講習ヲ出願スル者ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限り許可ス

一 本道在籍ノ農業者若クハ其子弟又ハ本道ニ移住者ニシテ開墾起業ノ目的確實ナル者

一 年齢十五歳已上ノ者

一 品行方正ナル者

一 讀書(漢文交リノ文)ノ學力ヲ有スル者

第九十六條 冬期講習ニ於テ修業スヘキ學科課目ハ大約左ノ如シ

第九十七條 土壤論大意 一週一時

第九十八條 土壤論大意 一週一時

土壤ノ構成 區別 理化學的ノ性質大意 一週三時

土地改良法大意 一週三時

開墾及排水法 一週一時

肥料論大意 一週一時

普通肥料ノ性質成分及施用法 一週一時

農具論大意 一週一時

耕勸 耘耨 収穫馬具ニ關スル農具 一週五時

普通作物栽培大意 一週五時

穀物 葉菜 根菜 蔬菜 一週二時

特有作物大意 一週二時

大麻 亞麻 甜菜 藍 一週二時

果樹栽培大意 一週二時

蘋果、梨、桃、櫻桃、棗、葡萄、小果樹類 一週二時

農場管理大意 一週二時

作物環作法、農業ノ區別、農業資本、簿記法 一週二時

牧畜大意 一週二時

牛、馬、豚、鶏ノ種類蕃殖及飼養法 一週二時

作物病害 一週一時

普通書 蟲驅除法、病害、豫防法

第十四章 授業料及被服規程

第九十七條 授業料一學年ニ付本科費金十圓農藝傳習科ハ金六圓冬期講習生ハ一ヶ月金五十錢ナリ

第九十八條 授業料ハ本科ヘ之ヲ三分シ農藝傳習科ヘ之ヲ二分シテ每學期ノ始メニ納ムヘシ

但冬期講習生ハ毎月始メニ之ヲ納ムヘシ

第九十九條 半途退學又ハ休學ヲナスモ既納ノ授業料ハ之ヲ返付セス

第一百條 學生服徒ハ被服規程ニ依リ被服ヲ調製スヘキモノトス

但新生ハ其入學許可ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ被服ヲ調製スヘキモノトス

土岐市立第五十章 教官會議規程

第一百一條 教官會議ハ教務上諮詢ヲ爲シ且其議決ヲ執行ス

第一百零二條 教官會議ハ教授及助教ヲ以テ議員トナシ校長其議長トナルモノトス

但校長ノ意見ニ背シテ他ノ職員ヲ列席セザルニ限リ又ハ議長ハ

第一百零三條 教官會議書記ハ職員ノ内ヨリ校長之ヲ命ズルモ必要ナル時ハ之ヲ命ズルコトヲ得

第一百零四條 教官會議ハ必要ナル毎學期校長之ヲ開會シ且其議決ヲ執行ス

第一百零五條 ①第十次會議ハ書籍館規程ニ依リ且其議決ヲ執行ス

第一百零六條 本校書籍ヲ専ラ校員及學生ニ用ニ供スルモノトス

第一百零七條 書籍貸與ハ毎學期ノ始メニ告示スヘシ

第一百零八條 書籍貸與ハ期限ハ滿四週間ニ限リ且其期限滿ルトキハ必ス返納スヘシ期限滿テ

後他ノ該書籍借用ヲ願フ者該書籍ハ更ニ更改スヘシ

但教授用或ハ事務用ニ要スル書籍ハ期限内ニ雖モ返納セシムヘシ

第一百零九條 貸置キ期限内ト雖モ檢査ノ爲メ毎歲一回乃至三回悉ク返納セシム

但檢査後再借シテ欲スル者更ニ手續ヲ行フ由リ其貸置キニ謝ス

第一百一十條 其貸置キ書籍和漢籍ヲ付テ三冊數多キ部數六冊五冊限リ洋籍ハ教

官十冊其他ハ二冊ヲ限リ農藝傳習科生徒ハ主管教官ノ認可ヲ得テ借用スルモノトス
第百十條 各學科實驗上必要ナル書籍ハ主管教官ノ申請ニ由リ其實驗室ニ備フルコト
ヲ得

但教授用或ハ事務用ニ要スル書籍ハ此限内ヲテモ借用スルコトヲ許サス
第百十一條 借受シタル書籍ハ他人ニ轉貸スルコトヲ許サス

第百十二條 校員及學生生徒ハ借用證ヲ捺印シテ借用スルモノトシ
第百十三條 貸與ノ書籍ヲ破毀遺失又ハ汚染スルトキハ代償セシム

○第十七章 學生心得

第百十四條 本校々則其他ノ規程ヲ遵守スルハ勿論凡テ長上ノ指揮命令ニ服従スヘシ
第百十五條 講堂ニ入リテハ専心課業ニ勉勵シ教官講堂ニ臨マハ必ス敬禮スヘシ
第百十六條 校内外ヲ論ゼス校長其他ノ職員ニ對シテハ必ス敬禮ナ行フヘシ
第百十七條 放課ノ時間ト雖モ講堂ノ内外ヲ疾走シ或ハ恣ニ高聲ニ誦讀シ又ハ談笑ス
ル等揮テ喧嘩ヲ行ハスルコトヲ禁ス

第百十八條 校内ニ出入スルトキハ必ス制服制帽ヲ着用シ靴ヲ穿ツヘシ若シ不得止事
故ノ爲メ和服ヲ着用スルトキハ其旨合監ニ届出ツヘシ

第百十九條 學生ノ帽子徽章ハ本校ニ於テ制定シモノヲ調製相用スヘシ
第百二十條 帽子外套其他ノ携帶品ハ一定ノ場所ニ整理シ無用ノ物品若クハ玩具等ヲ
携帶上校スルヲ禁ス

第百二十一條 器物ノ取扱ハ專ラ鄭重ヲ旨トスルハ勿論建物器具等ヲ毀損シ或ハ戸壁
等へ樂書等ヲ爲スヘカラス

第百二十二條 喫烟ハ一定ノ場所ニ於テシ其他ニ在リテハ喫烟スルヲ禁ス
第百二十三條 告示ハ之ヲ掲クルニ時間以後ヨリ一般ニ知了シタルモノト認ムルヲ以
テ常ニ能ク之ヲ注意スヘシ

第百二十四條 掲示等ヲ破傷シ又ハ塗抹スルヲ禁ス
第百二十五條 病氣又ハ不得止事故ノ爲メ欠課セント欲スル者ハ課業時間前ニ其旨合
監ニ届出ツベシ

但シ課業時間前ニ届出ルコト能ハザル場合ニハ其欠課ヲナシタル課業ニ初メテ出席スルトキ舍監ヘ届出シヘシ

第百二十六條 寄宿學生ノ外總テ病氣等ノ爲メ欠課セシトキハ保證人ノ證明書ヲ出席スル初日ニ舍監ニ差出スヘシ

第百二十七條 學生ハ病氣等ノ爲メ欠課シ初メテ出席スルトキハ舍監ヨリ欠席届ヲ受ケ欠課ヲナシタル當該教官ニ必ス之ヲ出シ認許ノ上再ヒ舍監ニ差出スヘシ

第百二十八條 病氣ノ爲メ欠席七日ニ至ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ保證人連署其旨届出シヘシ

但シ寄宿學生ニ限リ保證人ノ連署ヲ要セス

第百二十九條 第百二十五條以下ノ手續ヲ履行セザル者ハ總テ無許可欠席トス

第百三十條 無許可欠席數度ニ及ブ者及課業時間ニ數々遅刻スル者ハ相當ノ處分ヲナスヘシ

第百三十一條 病氣或ハ事故ノ爲メ歸郷又ハ旅行セント欲スル者ハ其事由ヲ詳記シ日

數ヲ定メ三十日ヲ超過スヘカラス甲保證人連署願出校長ノ許可ヲ受クヘシ

但疾病ニ依ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ且期滿ルモ尙ホ歸校スル能ハサルト

キハ追願書ヲ出スヘシ

第百三十二條 上校ノ際急病ヲ發シ若クハ急劇ノ事故アルトキハ主管教官ヘ願出指揮ヲ受クヘシ

第百三十三條 改名改印又ハ轉籍轉居ノ節ハ速ニ其旨届出ツヘシ

第百三十四條 寄宿學生ノ外寄宿舎ニ出入スルヲ嚴禁ス

○第十八章 農藝傳習科生徒心得

第百三十五條 生徒ハ平素信義ヲ重シ儉素ヲ旨トシ奢侈傲慢等ノ舉動アルヘカラス

第百三十六條 生徒ハ校則其他ノ命令規則等ヲ遵守スルハ勿論舍監及掛員ノ指揮命令

ニ從フヘシ

第百三十七條 每級ニ組ニ分チ每組ニ組長一人ヲ置ク

第百三十八條 組長ハ每組ノ生徒中月番ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス